100年後に残る、工藝のために
百万石ものがたり　工芸の祭典

21世紀鷹峯フォーラム 2017

第三回

石川・金沢 記録集

Ishikawa
Kanazawa

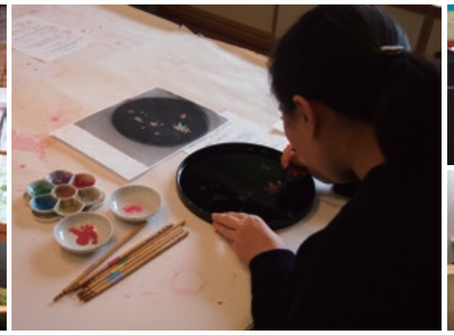
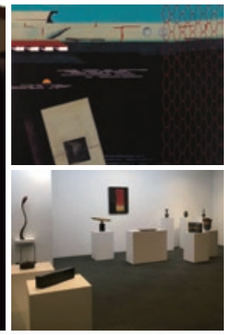
21st Century Takagamine Forum in Ishikawa / Kanazawa

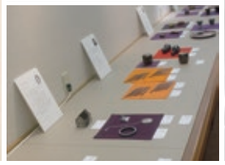
21世紀鷹峯フォーラム
21st Century Takagamine Forum

第3回

石川/金沢
Ishikawa Kanazawa

AG-H



ものづくり―百工比照―
石川県立美
館長

21世紀鷹峯フォーラム in 石川・金沢　概要

開催期間
2017年10月6日（金）～11月26日（日）

会場
石川県内全域

主催
100年後の工芸のために普及啓発実行委員会（石川）［構成団体:石川県立美術館　石川県立伝統産業工芸館　金沢21世紀美術館　金沢美術工芸大学　金沢学院大学　金沢卯辰山工芸工房　公財）石川県デザインセンター　石川県伝統産業振興協議会　一社）金沢クラフトビジネス創造機構　北國新聞社　認定NPO法人趣都金澤　一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン］
オールジャパン工芸連携 京都／東京／石川金沢実行委員会

支援
文化庁　平成29年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

助成
石川県　金沢市　平成29年度コンベンション誘致推進事業補助金
公益社団法人　企業メセナ協議会2021芸術・文化による社会創造ファンド

特別協力
北國新聞社

協力
金沢東急ホテル

後援
経済産業省　観光庁　JETRO　JNTO［日本政府観光局］　日本デザイン振興会　石川県　金沢市　七尾市　小松市　輪島市　珠洲市　加賀市　能美市　金沢商工会議所　一社）金沢経済同友会　金沢コンベンションビューロー　朝日新聞社　読売新聞社　NHK（金沢放送局）　石川テレビ放送　ほか

協賛
大日本印刷（株）　湖山医療福祉グループ　三菱地所（株）　（株）日建設計　（株）資生堂

連携事業開催機関
石川県立美術館　石川県立伝統産業工芸館　金沢21世紀美術館［公財）金沢芸術創造財団］　金沢美術工芸大学　金沢学院大学　金沢卯辰山工芸工房［公財）金沢芸術創造財団］　公財）石川県デザインセンター　石川県伝統産業振興協議会　一社）金沢クラフトビジネス創造機構　北國新聞社　大樋美術館・大樋長左衛門窯　認定NPO法人趣都金澤　一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン　JETRO　石川県　金沢市　石川県文化財保存修復工房　石川県立歴史博物館　石川県九谷焼美術館　石川県七尾美術館［公財）七尾美術財団］　石川県能登島ガラス美術館［公財）七尾美術財団］　石川県輪島漆芸美術館　金沢市立中村記念美術館［公財）金沢文化振興財団］　金沢市立安江金箔工芸館［公財）金沢文化振興財団］　金沢市民芸術村 アート工房［公財）金沢芸術創造財団］　金沢湯涌創作の森［公財）金沢芸術創造財団］　小松市立博物館　小松市立錦窯展示館　小松市立本陣記念美術館　能美市九谷焼資料館　石川県九谷焼技術研修所　石川県立山中漆器産業技術センター　石川県挽物轆轤技術研修所［公財）山中漆器産業技術センター］　石川県立輪島漆芸技術研修所　加賀友禅技術振興研究所　加賀友禅会館［協同組合加賀染振興協会］　宗桂会館［公財）宗桂会］　加賀伝統工芸村 ゆのくにの森　金沢市工芸協会　一財）石川県芸術文化協会　一社）芸術支援・地方創造機構　公社）日展　公社）日本工芸会　金沢漆芸会　石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会　金沢九谷振興協同組合　石川県九谷陶磁器商工業協同組合連合会　第64回日本伝統工芸展金沢展実行委員会　公社）日本工芸会石川支部　台湾・金沢現代織物芸術交流展開催委員会　DAIWA香林坊店［（株）大和］　めいてつ・エムザ［（株）金沢名鉄丸越百貨店］　ArtShop月映　（株）A.SPACE　金沢九谷ミュウジアム［九谷焼窯元 鏑木商舗］　KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY（KLC）　金属工芸 加澤美照工房　九谷焼 春日山窯 木米庵［九谷焼窯元 鏑木商舗］　セレクトショップ GIO　（株）谷庄　（株）能作　箔座（株）

100年後の工芸のために普及啓発実行委員会

会長　嶋崎丞（石川県立美術館長）

副会長　林田英樹（ザ・クリエイション・オブ・ジャパン代表理事／前国立新美術館館長／元文化庁長官／日本工芸会理事長）

委員　島敦彦（金沢21世紀美術館館長）　前田昌彦（金沢美術工芸大学学長）　山崎達文（金沢学院大学副学長）　蚊谷八郎（石川県伝統産業振興協議会会長）　川本敦久（金沢卯辰山　工芸工房館館長）　中島秀雄（石川県デザインセンター理事長）　福光松太郎（金沢クラフトビジネス創造機構理事長）　久保幸男（北國新聞社取締役 事業局長）　大樋長左衛門（日展会員／現代工芸美術家協会常務理事／金沢市工芸協会副理事長／陶芸家／大樋美術館館長）　小森邦衛（日本工芸会石川支部／重要無形文化財髹漆保持者）　中川衛（日本工芸会石川支部／重要無形文化財彫金保持者）　中田正人（石川県立伝統産業工芸館館長）　浦淳（認定NPO法人趣都金澤理事長）　岩関禎子（ザ・クリエイション・オブ・ジャパン専務理事兼事務局長）

監事　川村耕太郎（ザ・クリエイション・オブ・ジャパン監事）

事務局長　谷口出（石川県立美術館学芸第一課長）

事務局　石川県立美術館 内

要約

100年後の工芸のために普及啓発実行委員会が核となり、石川県下60機関の参加による「21世紀鷹峯フォーラム 第3回 in 石川・金沢 ――100万石ものがたり・工芸の祭典」を開催。全国の95の機関が協力し、「100年後に残る工藝のために」というキャッチコピーのもと、52日間のうちに連携参加機関各々が考える164の事業を実施した。

石川・金沢全域に存在する工芸に関連する多くの機関がこの機会につながることで、国内外の工芸愛好家や関係者に向け、多彩で豊かな石川の工芸および過去の研究成果や実績を大きく訴求できる機会ができ、いままでにはなかった新たな企画が多く盛り込まれた。また、本祭典に協力する全国の関係者どうしの交流の場を複数用意したことによって、連携して将来に向けどんな取り組みが可能かを議論し、対話する機会ともなった。

1　本事業全体を通じて、2020年に向け全国的に対応が急がれている「国際的発信力の強化」「多言語化」「観光振興」に向け、実施する側がスクラムを組み、積極的に取り組む機会とした。多言語化、なかでも英訳にあたっては、実施イベントの案内のみならず今後も使うことができる施設紹介を整備することにつとめた。一方で訪日観光客の増加によって、受け入れる側の美術館・文化施設そして商業施設でも共通して「英語で工芸をどのように伝えるか」が難しい問題であることを認識している。また現実として同じ単語の英訳が施設ごとに異なることも多い。そこで工芸英訳ガイドラインの編纂に着手、今後多言語化を担当する者が参考にできる、工芸の単語を外国語に変換していく際に注意すべき留意点をまとめた。

2　さまざまなイベントにおいて海外識者を招き世界の工芸事情を語っていただいたことで、日本の工芸の立ち位置を知る機会ができた。

3　期待が高まっている「工芸と観光」においては、全国の先行事例と観光庁の取り組みを学び、さらに38の自治体および産地を擁する71の市町村に調査を行い日本全体規模で見えてくる実情とその展望を明らかにした。

4　本事業の子ども、大人、社会に向けた普及啓発事業という視点では、連携規模がスケールメリットをもたらし、子どもたちも大人もわくわくする、自分で見つける、感動体感をともなうよき取り組みが多く行われた。さまざまな各々の小さな取り組みを集積させていきレシピ集を公開し水平展開させるサイト制作に着手、今後全国の好例を集めていく。

5　枯渇が懸念される道具や素材の課題は、一般人に向けてできる形での参加を促す喚起、及びさまざまな手立ての案を検討する場がもたれた。この研究会で「見分けのつく使い手が不在」が一つの問題であることがしばしば浮き上がり、そのための方策の一つとして、おとな見分け方講座を行った。

6　最終日の100年後に残る工藝のために工芸有識者円卓会議には、オール石川・金沢連携に参加した機関および全国からの有識者が集い「工芸と観光いかにして伝えるか」の議論を行い、独りよがりにならず相手にその魅力を伝えることを今後の共通課題としていく石川・金沢提言を発表した。

007 ・・・ 概要
008 ・・・ 要約

010 ・・・ 地図

実行委員会機関主催＆共催事業

金沢エリア
014 ・・・ 01 石川県立美術館
018 ・・・ 02 石川県立伝統産業工芸館
019 ・・・ 03 金沢21世紀美術館
020 ・・・ 04 金沢美術工芸大学
021 ・・・ 05 金沢学院大学
022 ・・・ 06 金沢卯辰山工芸工房
023 ・・・ 07 公財）石川県デザインセンター
024 ・・・ 08 石川県伝統産業振興協議会
025 ・・・ 09 一社）金沢クラフトビジネス創造機構
026 ・・・ 10 北國新聞社
029 ・・・ 11 大樋美術館・大樋長左衛門窯
030 ・・・ 12 NPO法人趣都金澤
035 ・・・ 16 金沢市
036 ・・・ 15 石川県
038 ・・・ 17 石川県文化財保存修復工房
039 ・・・ 25 金沢市民芸術村　アート工房
040 ・・・ 23 金沢市立中村記念美術館
042 ・・・ 24 金沢市立安江金箔工芸館
044 ・・・ 26 金沢湯涌創作の森
045 ・・・ 35 加賀友禅会館
046 ・・・ 36 宗桂会館
047 ・・・ 38 金沢市工芸協会
048 ・・・ 40 一社）芸術支援・地方創造機構
049 ・・・ 43 金沢漆芸会
050 ・・・ 46 第64回日本伝統工芸展金沢展実行委員会
051 ・・・ 47 台湾・金沢現代織物芸術交流展開催委員会
052 ・・・ 48 DAIWA香林坊店
053 ・・・ 49 めいてつ・エムザ
056 ・・・ 50 ArtShop 月映
058 ・・・ 51 （株）A.SPACE
059 ・・・ 52 金沢九谷ミュウジアム
060 ・・・ 53 KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY（KLC）
062 ・・・ 54 金属工芸　加澤美照工房
063 ・・・ 56 セレクトショップGIO
064 ・・・ 57 （株）谷庄
065 ・・・ 58 （株）能作
066 ・・・ 59 箔座（株）
067 ・・・ 60 和傘・水引 工房明兎

小松・能美・加賀温泉郷エリア
068 ・・・ 27 小松市立博物館
069 ・・・ 28 小松市立錦窯展示館
070 ・・・ 29 小松市立本陣記念美術館
071 ・・・ 30 能美市九谷焼資料館
072 ・・・ 31 石川県九谷焼技術研修所
073 ・・・ 19 石川県九谷焼美術館
074 ・・・ 32 石川県立山中漆器産業技術センター 石川県挽物轆轤技術研修所
075 ・・・ 37 加賀 伝統工芸村　ゆのくにの森

輪島・七尾エリア
076 ・・・ 20 石川県七尾美術館
077 ・・・ 21 石川県能登島ガラス美術館
078 ・・・ 22 石川県輪島漆芸美術館
079 ・・・ 33 石川県立輪島漆芸技術研修所

実行委員会主催＆共催事業

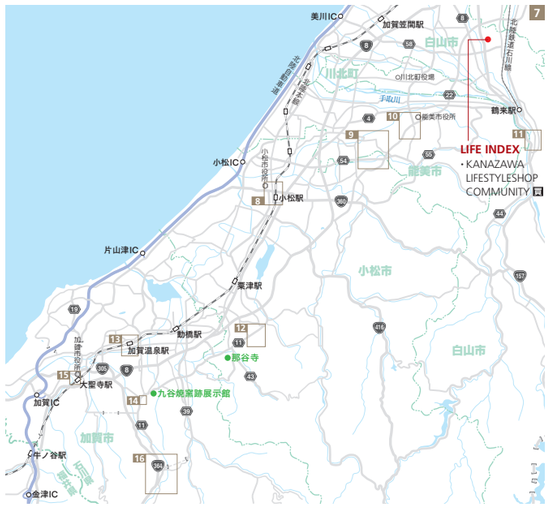
080 ・・・ オープニング・前夜祭
081 ・・・ **メインシンポジウム** 100年後に残る工芸のために円卓会議
083 ・・・ 工芸ピクニック@金沢21世紀美術館
084 ・・・ **シンポジウム** 「茶道から学ぶていねいな暮らし」
085 ・・・ おとな工芸見分け方講座　茶の湯に見る漆 見どころ・誉めどころ・極めどころ
086 ・・・ **連続シンポジウム** 「世界の工芸事情を知ろう！ グローバリゼーションと工芸」
089 ・・・ **つくるフォーラム** 成果の発表＋「求め手」による「つくり手募集」プレゼンテーション
090 ・・・ 絶滅危惧の素材と道具 いま起こっていることシンポジウム
091 ・・・ 「工芸と観光」展望と課題 日本全国の工芸に触れる体験を 提供する方の‘点’をつなぎ、 日本の観光力にダイナミックな展開を **シンポジウム／ マッチング交流会・出展者ライトニングトーク**
094 ・・・ **メインシンポジウム** 100年後に残る工芸のために円卓会議 全発言集
103 ・・・ 石川・金沢提言

104 ・・・ 広報用ツール制作物
106 ・・・ 掲載記事
110 ・・・ 参加・来場者数一覧
112 ・・・ 21世紀鷹峯フォーラム実施費用収支
113 ・・・ 21世紀鷹峯フォーラムin石川・金沢のイメージについて

114 ・・・ 奥付

MAP

全体MAP
凡例
・漆
・陶 陶磁
・金 金工
・ガ ガラス
・染 染織
・木 木竹工
・諸 諸工芸
・総 総合
・指 指物・調度
・茶 茶
・S スペシャル企画
・子 子どもと参加する
・F フォーラム・シンポジウム
・講 講座・講演会
・体 体験イベント
・T ツアー
・買 買う・注文する
・参 参加者募集
・展 展覧会
※イベント情報には休館日は記載されておりません。各施設Webサイトをご覧になるか、直接お問合せいただき、休館日をご確認下さい
石川県
珠洲市
輪島市
能登町
穴水町
七尾市
羽咋市
宝達志水町
富山県
のと里山空港
能登空港
和倉温泉駅
七尾駅
羽咋駅
高松駅
宇野気駅
津幡駅
金沢駅
松任駅
小松空港
小松駅
加賀温泉駅
能登中居鉄道
のと鉄道
IR いしかわ鉄道
北陸新幹線
北陸本線
七尾北湾


7
美川IC
加賀笠間駅
白山市
川北町
川北町役場
能美市役所
鶴来駅
小松IC
小松市役所
小松駅
能美市
片山津IC
粟津駅
小松市
白山市
動橋駅
加賀温泉駅
加賀市役所
大聖寺駅
加賀IC
牛ノ谷駅
金津IC
加賀市
●那谷寺
●九谷焼窯跡展示館
LIFE INDEX
・KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY 買
北陸新幹線
北陸本線
北陸自動車道

8
仙叟屋敷ならびに玄庵
小松市民ギャラリー ルフレ
・第21回小松市民茶会 11月3日 茶 展
小松市立本陣記念美術館
・艶と煌きの美 漆工と金工の技
6月11日～9月3日 漆 金 展
小松市立錦窯展示館
・生誕110年 二代徳田八十吉
9月23日～12月3日 陶 展
・生誕110年 二代徳田八十吉 解説＋ふれて感じる鑑賞会
10月28日、11月25日 陶 講 展
サイエンスヒルズこまつ
・第42回 九谷と花選抜出会い展
10月6～10日 陶 総 展
市立図書館
市公民館
小松市民会館
県道
小松駅
九電梅川
小松市
北陸本線
北陸新幹線

1
能登さいはて資料館
時国家
珠洲市
珠洲市役所
珠洲焼資料館
飯田湾
時国家（上時国家）
南惣美術館
開垣の里
輪島市役所
輪島市
輪島市天領黒島 角海家
能登町
能登町役場
のと里山空港IC
能登空港
能登自動車道
穴水町
穴水IC
穴水駅
穴水町役場
能登中居鉄物館
のとも鉄道
七尾北湾

4
5
能登島
加賀屋別邸 松乃館
和倉温泉駅
七尾南湾
七尾港
七尾駅
七尾市役所
七尾市

5
七尾北湾
石川県能登島ガラス美術館
・特別展「BODY / DRESS」
7月15日～10月22日 ガ 展
・新収蔵品展～ガラスのカタチ～
10月28日～2018年4月15日 ガ 展
能登島ガラス工房
能登島観光協会
長順寺ゼ
福勝寺ゼ
七尾市

2
輪島ねぶた温泉 海游 能登の庄
輪島キリコ会館
輪島市役所
輪島市

3
輪島港
風来山公園
輪島市
朝市通
輪島朝市
輪島工房長屋
輪島塗会館
輪島市役所
輪島高
河井小
三蛇堂
石川県輪島漆芸美術館
・没後50年記念 竹園自耕ー蒔絵と図案ー
9月9日～11月6日 漆 展
・国際漆展・石川2017 輪島展
11月11日～2018年1月14日 漆 展
・国際漆展・石川2017 輪島展 ギャラリートーク
11月19日 漆 講
・「いしかわ文化の日」特別無料開放
10月15日 漆 展
・2017年度第3回漆文化セミナー「竹園自耕ー蒔絵と図案ー」
9月23日 漆 講
・2017年度第4回漆文化セミナー「輪島塗行商ものがたり」
10月29日 漆 講
・輪島市民文化祭「あいの風」協賛 特別無料開放
11月3～5日 漆 展
・ふれて感じる漆芸技法アレコレ
11月12日 漆 体
・うるしの日 輪島塗で味わう「うるし茶」のおもてなし
11月12、13日 漆 展
・こどもワークショップ「マイストラップ」作り
11月19日 漆 F 体
・輪島漆芸技術研修所・香川県漆芸研究所 合同作品展
10月7～15日 漆 展
石川県立輪島漆芸技術研修所
・50年のあゆみ展
10月7～15日 漆 展

6
七尾南湾
七尾北湾
小丸山小
小丸山城址公園
小丸山城跡
七尾城
七尾城址
七尾駅
七尾高
七尾工業高
七尾北高
七尾駅
石川県七尾美術館
・所蔵品にみる いしかわの工芸
9月23日～10月22日 漆 陶 諸 展
七尾市

9
能美市
竹澤谷神社
潮野小
湯野公園
泉谷公園
石川県立九谷焼技術研修所
・ハレの日の九谷
10月27日～11月5日 陶 諸 展
能美市九谷焼資料館
・世界を魅了した九谷磁器
「鳥を描く」展
9月12日～11月12日 陶 展
浅蔵五十吉美術館
能美市九谷焼陶芸館
小松市

10
陸上競技場
総合体育館
辰口運動公園
辰口中央小
能美市役所
野田地
能美市
やすらぎの宿 まつさき
辰口丘陵公園
室内温泉プール
体育館
加賀市

13
市役小
加賀温泉駅
北陸本線
能美市観光情報センター
加賀温泉駅前
アピオシティ加賀
加賀市美術館
・第4回 加賀市美術展
10月28日～11月19日 陶 展
加賀市

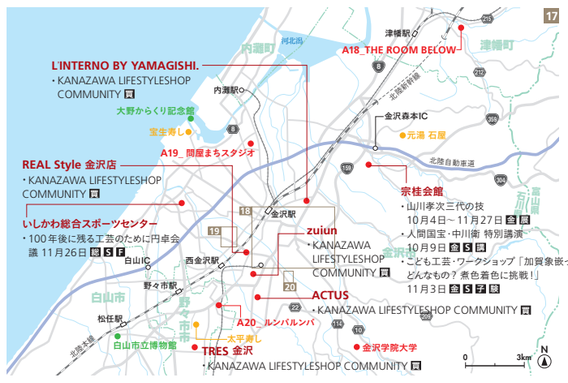
14
山代中島
光専寺
あらや沼々庵
山代郵便局
加賀山代温泉 総湯・古総湯
魯山人寓居跡 いろは荘庵
・魯山人と初代須田菁華展
10月28日～2018年2月4日 陶 漆 展
100m

11
舟岡山
白山市
和佐谷橋
能美市
一の宮大橋
白山比咩神社 ゼ
和田屋
・森・神秘・Art
古き社のかたわらに語りかけるカタチ
10月20日～11月19日
漆 陶 金 染 諸 展

12
栗津川
円八幡神社
上荒屋八幡神社 ゼ
乃谷焼の館
小松市
住吉神社 ゼ
ゆのくにの森
加賀 伝統工芸村 ゆのくにの森
・金箔まつり 10月1日～10月31日
・秋の伝統工芸まつり 11月1日～ 11月30日
300m

15
石川県九谷焼美術館
・魯山人と初代須田菁華展
10月28日～2018年2月4日 陶 漆 染 展
・「魯山人作品を鑑賞する」11月12日 陶 講
図書館前
市立中央図書館
大聖寺市民ギャラリー
加賀市役所
大聖寺駅前
大聖寺川
大聖寺ふれあい公園
古九谷の杜
加賀市
大聖寺駅
北陸本線
200m

16
石川県立
山中漆器産業技術センター
石川県挽物轆轤技術研修所
・Japan（漆）
・Yamanaka2017
10月29、30日 漆 展
・漆器職人づくり体験教室
10月29日 漆 体
山中温泉医療センター
山中小
漆器会館
かよう亭
山中座
加賀市
こおろぎ橋
無限庵
高瀬大橋
こおろぎ駅
道の駅山中温泉 ゆりの里健康村
300m


17
L'INTERNO BY YAMAGISHI.
・KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY 買
大野からくり記念館
宝生寿し
A19_ 間屋まちスタジオ
REAL Style 金沢店
・KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY 買
いしかわ総合スポーツセンター
・100年後に残る工芸のために円卓会議 11月26日 総 S 体
内灘町
河北潟
津幡駅
津幡町
A18_THE ROOM BELOW
内灘駅
金沢森本IC
元湯 石屋
北陸自動車道
宗桂会館
・山川孝次三代の技
10月4日～11月27日 漆 展
・人間国宝・中川衛 特別講演
10月9日 総 S 展
・こども工芸・ワークショップ「加賀象嵌 どんなもの？ 煮色着色に挑戦！」
11月3日 総 S F 展
金沢駅
zuiin
・KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY 買
ACTUS
・KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY 買
西金沢駅
白山IC
野々市駅
白山市
野々市市
松任駅
A20_ ルンパルンパ
北陸本線
白山市立博物館
大平寿し
TRES 金沢
・KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY 買
金沢学院大学
3km

19
野間神社 ゼ
入江西
A21_陶庵
入江第一児童公園
入江第
入江第
金沢市
A22_ギャラリー点
・金沢市工芸協会展
10月25日～11月5日
漆 陶 ガ 染 諸 木 金 総 S 展
泉野出町
泉野寺駅
あすなろの森
200m

20
下菊橋北詰
朝日町小
下菊橋
犀川
犀川緑地
金茶荘 本店
辻家庭園
金沢市
200m

21
金沢市
高杉神社 ゼ
金沢湯涌創作の森
・わくわく工芸体験
10月15日 陶 F 展
光明寺ゼ
浅野川
湯涌小
湯涌中
湯涌温泉観光協会
湯涌創作所
300m

22
金沢市立
安江金箔工芸館_K33
・金箔と日本美術
10月7日～12月3日 金 展
・金箔フォーラム
「文化財保存と金箔産業」
11月20日 F
・パネル展示
「文化財建造物に使用された金箔に関する保存修復科学的な調査研究」
10月20日 ～11月26日 展
K31_ 金銀箔工芸さくだ
K16_ 高橋花店
K08/09_ しら井
K10_ 浅野川 吉久
K27_ 町家カフェ土家
K25_ 尾崎邸
K15_ 金座和アイス
K20_ 主計町検番
K19_ 彩賀
K21_ Bar 一葉
K22_ 八百萬本舗
K23_ 個の個素本店
K24_ 個邸＋個邸 2F
K05_ 奈加川
K13_ 経田屋米店
K30_ 玉座
A23_ 高木紙商店
箔座ひかり蔵
K01_ 桃組＋晴組
K14_ 菅原神社
S09_ 宇多須神社
K17_ 森八 うつわの器
K12_ 茶屋美人
K29_ 茶房・一笑
K02_ 福光屋
S04_ 宝泉寺
K03_ Bar 鈴蓮
K04_ 茶房 &BAR ゴーシュ
K18_ 町家塾
K11_ 一久
K06_ 金澤町家職人工房 観音通り
K07_ 三味
K32_ 能加万菜
K34_serif s typography books&gallery
K26_ 大樋ギャラリー
大樋美術館・大樋長左衛門窯
・大樋焼歴代とゆかりの人々展 7月15日～12月15日 陶 展
sayuu
志摩
浅野川
卯辰山公園
旧三田商店
金沢蕎麦器館
金城楼
100m

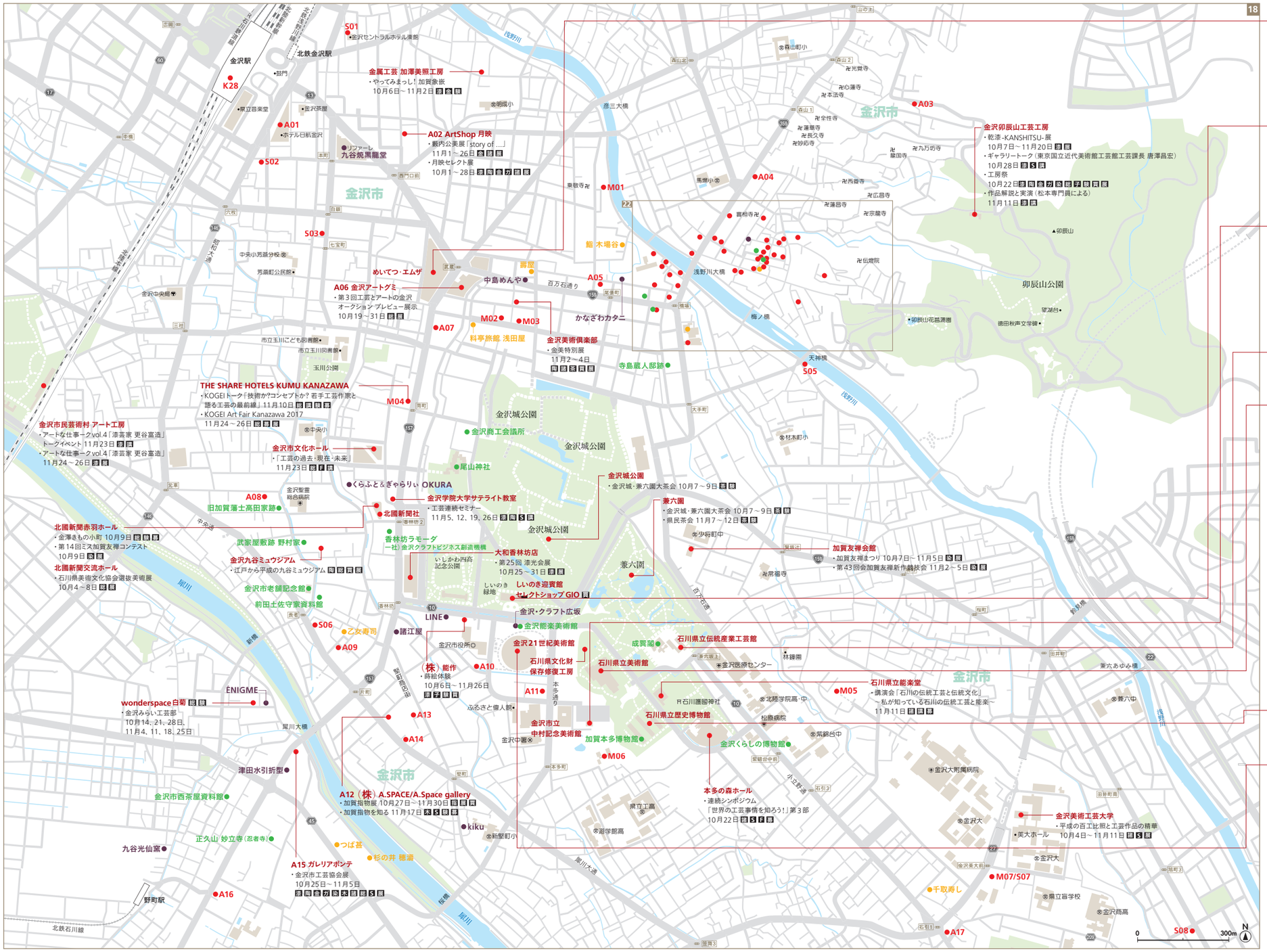
金沢21世紀工芸祭

趣膳食彩
- S01 日就月将
  11月11日 Table7 nana 昼 夜 夜
- S02 理り～コトワリ～
  10月15日 金澤一乃松 昼 夜
- S03 ホネブト 骨太 10月28日
  Trattoria cicala 昼 夜 夜
- S04「梅田日記」とともに幕末の金澤をめぐる
  10月14日 宝泉寺 昼 夜
- S05 不二之門 10月28日
  DININGBAR HUNI 昼 夜 夜
- S06 ドールヌーヴォー
  10月21日、10月22日 FIL D'OR 昼 夜
- S07 共鳴する才能～光悦と金沢～
  11月4日 経王寺 昼 夜 夜
- S08 紅の味覚/サヴール・ルージュ
  11月18日 レ・サヴール 昼 夜 夜
- S09 身土不二～自分と大地の距離を味わう～
  11月26日 宇多須神社 昼 夜

金沢みらい茶会
- M01 鏡花幻想茶会
  11月3日 かなざわ紋 茶 夜 夜
- M02 十間町四四茶会
  10月15日（株）谷庄 茶 夜
- M03 十間町五三茶会
  11月12日 石黒商店 茶 夜 夜
- M04 武家茶道「淡月の釜」11月26日
  THE SHARE HOTELS KUMU KANAZAWA 茶 夜
- M05 青宝茶会
  10月15日 宝円寺 茶 夜
- M06 ○△□茶会
  10月22日 鈴木大拙館 茶 夜
- M07 本阿弥（香梅）茶会
  11月5日 経王寺 茶 夜 夜

工芸回廊
10月19～22日 昼 夜
- K01 桃組＋晴組
- K02 福光屋
- K03 Bar 粋蓮
- K04 茶房 &BARゴーシュ
- K05 奈加川
- K06 金澤町家職人工房 観音通り
- K07 三味（Syami）
- K08 しら井
- K09 しら井
- K10 浅の川 吉久
- K11 一久
- K12 茶屋美人
- K13 経田屋米店
- K14 菅原神社
- K15 金龍和アイス
- K16 高橋花店
- K17 森八 うつわの器
- K18 町家塾
- K19 彩賀
- K20 主計町検番
- K21 Bar一葉
- K22 八百萬本舗
- K23 佃の佃煮本店
- K24 佃邸＋佃邸2F
- K25 尾崎邸
- K26 大樋ギャラリー
- K27 町家カフェ土家
- K28 群青の広見
- K29 茶房・一笑
- K30 玉匣
- K31 金銀箔工芸さくだ
- K32 能加万菜
- K33 金沢市立安江金箔工芸館
- K34 serif s typography books&gallery

金沢アートスペースリンク
10月14～11月26日 昼 夜
- A01 玄耀アート
- A02 ArtShop 月映
- A03 山ノとギャラリー
- A04 ギャラリー椋
- A05 As baku B
- A06 金沢アートグミ
- A07 ギャラリーアルトラ
- A08 atelier&gallery creava
- A09 Badass Gallery
- A10 café &gallery musée
- A11 Books under Hotchkiss
- A12（株）A.SPACE/A.Space gallery
- A13 FUZON KANAZAWA
- A14 ギャラリートネリコ
- A15 ガレリアポンテ
- A16 Kapo
- A17 茶宿
- A18 THE ROOM BELOW
- A19 問屋町スタジオ
- A20 ルンバルンバ
- A21 陶庵
- A22 ギャラリー点
- A23 高木糀商店



めいてつ・エムザ
- 暮らしの伝統工芸 10月4日～11月28日 昼 午 夜
- 富永和雅・かずよ 染織展 10月4～10日 金 午 夜
- 金沢城・兼六園大茶会出品作品展
  10月11～17日 昼 夜 茶 午 夜
- 上端伸也 作陶展 10月18～24日 昼 夜
- 竹林和美（泥と藍）＆春木弘（とんぼ玉）作品展
  10月25～31日 金 夜 夜
- 大浦陶窯 武末日臣 作陶展 11月1～7日 昼 茶 夜
- 茶道具逸品展 11月15～21日 茶 午 夜
- めいてつ・エムザ70周年記念「伝統工芸特別展」
  11月22～27日 昼 午 夜

しいのき迎賓館
- KOGEIフェスタ! 10月7～9日 昼 夜 ✓ 午 夜
- 国際漆展・石川 2017 10月13～25日 昼 夜
- 輪島漆芸技術研修所・香川県漆芸研究所 合同作品展
  11月1～7日 昼 夜
- 第3回工芸とアートの金沢オークション
  11月3日 昼 午 夜
- 石川県伝統工芸展 in しいのき緑地
  11月4、5日 昼 夜 金 午 夜
- 第44回石川県デザイン展 11月16～19日 昼 夜

金沢市立中村記念美術館
- 企画展「工芸セレクション Ⅰ お茶碗と箸」
  7月29日～10月22日 昼 茶 夜
- 伝統工芸創作人形展（金沢）－日本工芸会会員による－
  10月28日～11月28日 昼 夜
- ギャラリートーク 人形作家による展示品解説
  10月28日、11月12日、11月20日、11月28日 昼 夜
- 「君も人形作家だ！～人形に彩色してみよう～」
  11月12日 昼 F 夜
- 「平文 富士 衝立」展示 11月9日～19日 昼 夜
- 「旧中村邸」一般公開 11月1日～11月9日 昼 夜
- おとな工芸見分け方講座「茶の湯に見る漆」
  11月16日 昼 茶 S 夜

石川県立伝統産業工芸館
- Small Things 小さきもの（掌サイズの生活工芸）
  10月5日～12月5日 昼 夜 金 木 昼 S 夜 夜
- 「うるしが語る、うるしを語る」展、「世界の漆」展
  10月5日～12月6日 昼 夜

石川県立美術館
- 百工比照Ⅰ 10月6日～11月7日 昼 S
- 百工比照Ⅱ 11月11日～12月17日 昼 S
- 石川の文化財 10月6日～11月7日 昼 夜
- 高橋介州と加賀象嵌のあゆみ 10月6日～11月7日 金 夜
- 加賀蒔絵の世界 11月11日～12月17日 昼 夜
- 棚の美 11月11日～12月17日 昼
- 東京国立近代美術館工芸部名品展 陶磁いろいろ
  11月11日～12月17日 昼 F 木 夜
- 講演会「石川のものづくり－百工比照－」11月19日 昼 S 夜
- 講演会「日本の近現代陶芸－歴史と鑑賞－」12月2日 昼 夜
- 陶芸の名作 ギャラリートーク
  11月12、25日、12月10、17日 昼 夜
- 陶芸の名作 タッチ＆トーク 11月19日 昼 S F 昼 夜
- 映像でみる 石川の工芸作家
  10月17～19日、11月14～16日 昼 S
- こども陶芸体験「うつわづくり」10月15日 昼 F
- 0才からのファミリー鑑賞会 11月11、12日 昼 F 昼 夜
- いしかわの工芸巨匠座談会 11月23日 昼 S 昼
- 紙漉体験 11月26日 昼 夜
- 連続シンポジウム「世界の工芸事情を知ろう!」
  10月20～22日 昼 S F 夜
- 伝統工芸制作体験ワークショップ
  「金沢箔でオリジナル菓子皿を作ろう」10月21日 昼 昼 昼
- 第64回日本伝統工芸展金沢展
  10月27日～11月5日 昼 夜 昼 S 木 昼 夜
- 「文化財を守る ―漆工芸品の保存と修復―」11月4日 昼 昼
- つくるフォーラム 11月17日 昼 S F 昼 夜
- 絶滅危惧の素材と道具 11月17日 昼 S F 夜
- 「工芸と観光」展望と課題 シンポジウム＆マッチング交流会
  11月24、25日 昼 S F 昼
- 第1回修復工房セミナー 11月4日 昼 昼

石川県立歴史博物館
- 工芸文化の歴史講座「三代利常と文化政策」
  11月4日 昼 昼 夜
- 伝統工芸制作体験ワークショップ
  「手描き加賀友禅のハンカチを作ろう」11月5日 昼 夜 昼

金沢21世紀美術館
- 日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念展
  日々の生活 ――気づきのしるし 8月5日～11月5日 昼 昼
- ヨーガン レール 文明の終わり 8月5日～11月5日 昼 S 昼
- テキスタイルアートへのいざない
  ～台湾・金沢現代織物芸術交流展～ 10月6～15日 昼 夜
- 片岡鶴太郎 四季彩花 10月7日～11月4日 昼 夜
- 工芸ピクニック@金沢21世紀美術館 10月11日 昼 S 昼
- 「茶道から学ぶていねいな暮らし」10月12日 茶 S F
- 「工芸建築」展 11月7日～19日 昼 昼
- 「工芸建築シンポジウム」11月17日 昼 F 昼 昼
- 金沢漆芸会展50回記念「金沢漆工比照」11月9～19日 昼 昼
- 「金沢漆工比照」ギャラリートーク 11月11日 昼 昼
- 「金沢茜」使って味わう美酒美食 10月18日～11月3日 昼 昼

百工比照Ⅰ／百工比照Ⅱ

会場
石川県立美術館
開催日程
Ⅰ:10月6日（金）～11月7日（火）／
Ⅱ:11月11日（土）～12月17日（日）
来場・参加者数
15,929人

実施内容と成果
加賀藩五代藩主前田綱紀の博物学的労作ともされる重要文化財「百工比照」の中から、紙類、金色類、木之類、蒔絵梨子地塗色類、金具類などを展示した。「百工」とは諸種の工芸、あるいは工匠という意味で、「比照」は比較対照するという意味。江戸前期の工芸技術の粋をみるまたとない展示となり、金沢美術工芸大学で開催された「平成の百工比照と工芸作品の精華」展とあわせ、鑑賞者を楽しませた。

主な出展作品・作家
「百工比照」（江戸時代／重要文化財）
第一号箱：紙類・金色類・木之類・漆類・皮類・染織類・竹類／第二号箱：陣羽織・武具・紋章類絵図等／第三号箱：金具類／第五号箱：釘隠・引手／第六号箱：七宝釘隠（鳥籠・虫籠・花籠）

石川の文化財

会場
石川県立美術館
開催日程
10月6日（金）～11月7日（火）
来場・参加者数
7,496人

実施内容と成果
石川県に所在する重要文化財指定の美術工芸品88件を分野別にみると、絵画9件、彫刻17件、工芸品23件、書籍・典籍21件、古文書10件、考古資料8件という内訳となる。こうした文化財が伝わる理由として、加賀藩主前田家の文化政策が挙げられる。前田家が収集、育成し、時代を超えて今日に引き継がれていた数々の名品を展観。第一展示室の《色絵雉香炉》とあわせて白山比咩神社所蔵の《剣 銘吉光》を公開し、本県に現在2件所在する国宝を同時に見ることのできるまたとない機会となった。

主な出展作品・作家
黒漆螺鈿鞍（重要文化財）／存星梅竹双鳥図盆（石川県指定文化財）／蒔絵梅鉢紋女儀御輿（石川県指定文化財）／国宝 剣 銘吉光（国宝）／太刀 銘備前国長船住長光（重要文化財）／開山 徹通義介頂相（石川県指定文化財）／三世 明峯素哲頂相（石川県指定文化財）／千体仏図（石川県指定文化財）／後深草天皇宸翰御消息（重要文化財）／後奈良天皇女房奉書（重要文化財）／仏果碧巌破関撃節（重要文化財）／三代嗣法書（重要文化財）／色絵鳳凰図平鉢（石川県指定文化財）／色絵鶴かるた文平鉢（石川県指定文化財）／青手樹木図平鉢（石川県指定文化財

高橋介州と加賀象嵌のあゆみ

会場
石川県立美術館
開催日程
10月6日（金）～11月7日（火）
来場・参加者数
7,496人

実施内容と成果
加賀象嵌の始まりは、17世紀初頭、武具などの補修のために職人が集められた御細工所（おさいくしょ）に遡る。しかし明治維新を境に、武家による需要が激減。輸出においても、世界恐慌や太平洋戦争にともなう資源制限で、加賀象嵌は壊滅的な打撃を受ける。戦後、失われつつある加賀象嵌の継承に尽力したのが、高橋介州（たかはしかいしゅう）であった。
本展では、戦後の石川工芸界をリードし、加賀象嵌の技術伝承に大きな役割を果たした高橋の作品20点と、高橋に師事した中川衛（なかがわまもる）をはじめ、県内で活躍する作家たちの作品を紹介した。17世紀の鐙から、時代や自己を投影した表現作品に至るまで、加賀象嵌の魅力を十二分に堪能できる展覧会となった。

主な出展作品・作家
銀象嵌水車文鐙 銘加州住勝國作、勝国／金銀象嵌雪に鷹図香炉、八代水野源六／金銀象嵌獅子香炉、二代山川孝次／金銀象嵌唐草文香炉、山尾次吉／金銀象嵌鴛鴦香炉、米沢弘安／加賀象嵌孔雀香炉、高橋介州／象嵌雉香炉、高橋介州／加賀象嵌馬置物、高橋介州

コレクション展　棚の美

会場
石川県立美術館
開催日程
11月11日（土）～ 12月17日（日）
来場・参加者数
8,429人

実施内容と成果
古来より、棚は調度のひとつとして身の回りを飾り、空間を区切る役割を担ってきた。さらに文物を並べることによって、持ち主の趣味を表すこともその役割とされてきた。本展では松田権六の傑作《蓬萊之棚》や初代池田作美《遠州風彫刻桑材飾棚》はじめ、木工・漆工・金工の技術を結集してつくられたさまざまな様式・技法によって制作された棚を紹介した。

主な出展作品・作家
蒔絵松に鳥図棚、浅野惣三郎／平文千羽鶴の棚、大場松魚／蒔絵秋草図飾棚、二木成抱／蓬萊之棚、松田権六／桑造金銀縮れ線象嵌飾棚、氷見晃堂

加賀蒔絵の世界

会場

石川県立美術館

開催日程

11月11日（土）～12月17日（日）

来場・参加者数

8,429人

実施内容と成果

加賀蒔絵を江戸時代に加賀藩で形成された様式による蒔絵と位置付け、その基礎を築いた五十嵐道甫と清水九兵衛。優雅で清楚な王朝風と、力強い武家文化が加わって独特の漆工芸に発展した加賀蒔絵の魅力を紹介した。

加賀藩三代藩主・前田利常は「文による武」の一環として京都や江戸から名工を招聘し、芸術的な洗練度を追求した制作ができる環境を整備した。蒔絵の分野では京都から五十嵐道甫、江戸から清水九兵衛が招かれ、道甫は足利将軍家に仕えた蒔絵の名門の出身で、二代にわたり加賀蒔絵の基礎を築いた。道甫は京都の本法寺の檀那として本阿弥家とも姻戚関係があり、さらに法華宗のネットワークから長谷川等伯や俵屋宗達の一門とも関わりがあって、特に道甫に由来する様式として指摘される絵画的な特質には、こうした人的な結び付きが大きな影響を与えていると考えられる。道甫の代表作である重要文化財《秋野蒔絵硯箱》が展示され、秋草をモティーフとした道甫周辺の作家による優品も合わせて展示して、道甫の表現世界の精髄が示された。

清水九兵衛は、加賀藩祖・前田利家から四代藩主・前田光高まで代々前田家の呉服御用を務める家に生まれ、四代にあたる九兵衛柳景は、幼少より蒔絵を学び、江戸から利常に招かれた。松や波、流水などの緻密な表現に特徴があり、重要文化財《蒔絵和歌の浦図見台》は、九兵衛と伝わる作品の中で最も完成度の高いもので、九兵衛の特質が遺憾なく発揮されている優品を合わせて、加賀蒔絵の源流から江戸時代の展開の様相を概観した。

主な出展作品・作家

蒔絵和歌の浦図見台伝、清水九兵衛（重要文化財）／秋野蒔絵硯箱、五十嵐道甫（重要文化財）／蒔絵住吉図硯箱、京都 五十嵐派（石川県指定文化財）／蒔絵籬に秋草図箱（重要文化財『古今集』清輔本箱）、五十嵐派

東京国立近代美術館工芸館名品展

陶磁いろいろ

会場

石川県立美術館

開催日程

11月11日（土）～12月17日（日）

来場・参加者数

8,429人

実施内容と成果

2020 年に移転する東京国立近代美術館工芸館が所蔵する名品を先行展示する企画。工芸館のコレクションを多くの人にご覧いただくため、2016年に続く第２弾として「陶磁」分野にスポットをあて、「陶磁いろいろ」と題して開催。荒川豊蔵、石黒宗麿、富本憲吉など陶芸の名作を紹介。「やきもの」という言葉とともに親しまれてきた陶磁は、その素材や技法に工夫を重ねつつ、現在まで伝えられてきた。色、質感、形などそこから生まれ、ますます広がる表現を約50点の作品により紹介した。

会場では造形や色彩が美しく、趣向を凝らした絵付けが施された花器や皿、壺、鉢、などが展示され、来場者の関心を誘った。

主な出展作品・作家

志野茶碗、荒川豊蔵／黒釉褐斑鳥文鉢、石黒宗麿／彩色壺、加守田章二／金彩羊歯文茶碗、六代清水六兵衛／濁手つつじ文鉢、十四代酒井田柿右衛門／色絵金銀彩四弁花文飾壺、富本憲吉／ガレナ釉魚文大皿、バーナード・リーチ／失透釉格子文角皿、濱田庄司

関連イベントについて

金沢城・兼六園大茶会　特別茶会

10月7日（土）8日（日）9日（月）

石川県立美術館所蔵の美術品をお茶道具として、記念の特別茶会を開催した。茶碗や菓子器、棗, 水指など文化勲章受章者や人間国宝の手になる作品が用いられた。この席に参加した茶道愛好者は気品すら感じさせる最高の一服を心ゆくまで堪能した。

こども陶芸体験「うつわづくり」

10月15日（日）｜ 参加者：22人

未就学児から小学校高学年までの子供を対象に、粘土でうつわを造り釉薬をかけて焼き上げる体験を行った。

映像でみる 石川の工芸作家

10月17日（火）～19日（木）、11月14日（火）～16日（木）｜ 参加者：64人

石川県の工芸作家で文化勲章受章者・日本芸術院会員・重要無形文化財保持者（人間国宝）など物故者を含め18名の映像記録を上映した。

0才からのファミリー鑑賞会

11月11日（土）、12日（日）｜ 参加者：64人

生後3ヶ月の赤ちゃんから6歳までの子供たちとその家族が参加した。「赤ちゃんも工芸作品を見る」というテーマで、お気に入りの作品の前で手足をバタバタさせたり指をさしたりして、それぞれの子供の「好き」という表現が示された。

陶磁いろいろ タッチ＆トーク

11月25日（土）｜ 参加者：10人

東京国立近代美術館工芸館名品展の関連事業として、工芸作品を実際に触ってその肌合いや質感を体感し、鑑賞する講座。

陶磁いろいろ ギャラリートーク

11月11日（土）、12日（日）、12月10日（日）、17日（日）｜ 参加者：99人

東京国立近代美術館工芸館名品展の会場での解説とトーク。

講演会 石川のものづくり ―百工比照―

11月19日（日）｜講師：嶋崎丞［石川県立美術館長］｜参加者：50人

石川のものづくりについて、加賀藩前田家にはじまり今日に引き継がれる加賀の工芸を「百工比照」を中心に紹介した。

いしかわの工芸巨匠座談会

11月23日（木・祝）｜参加者：80人

石川県在住の芸術院会員・重要無形文化財保持者10名が、各氏が生きてきた時代背景や経験したことを基に、「私が考える工芸観」として自身の考える工芸のあり方、未来への提唱を述べた。登壇者（発言順）は、大樋陶冶斎氏［日本芸術院会員／文化勲章受章・陶芸］、武腰敏昭氏［日本芸術院会員・陶芸］、川北良造氏［重要無形文化財保持者・木工芸］、前史雄氏［重要無形文化財保持者・沈金］、吉田美統氏［重要無形文化財保持者・釉裏金彩］、魚住為楽氏［重要無形文化財保持者・銅鑼］、中川衛氏［重要無形文化財保持者・彫金］、小森邦衛氏［重要無形文化財保持者・髹漆］、二塚長生氏［重要無形文化財保持者・友禅］、中野孝一氏［重要無形文化財保持者・蒔絵］。司会進行は、嶋崎丞。

紙漉体験

11月26日（日）｜ 参加者：17人

加賀藩献上和紙の産地である二俣和紙の職人による制作実演の見学と紙漉体験。

講演会 日本の近現代陶芸 ―歴史と鑑賞―

12月2日（土）｜講師：金子賢治［茨城県陶芸美術館長］

参加者：200人

東京国立近代美術館工芸館の所蔵品を中心に日本陶芸の歴史とその鑑賞を、金子賢治前東京国立近代美術館工芸課長が語った。

02 石川県立伝統産業工芸館

Small Things 小さきもの（掌サイズの生活工芸）

会場

石川県立伝統産業工芸館

開催日程

10月5日（木）～12月5日（火）

来場・参加者数

32,003人

実施内容と成果

小さくて可愛いものは、心安らぐ時間と空間を生み出す力を持つ。本展では、九谷焼、山中漆器、加賀繍、加賀象嵌、ガラスなど、県内在住の中堅、若手作家が、伝統的技法を駆使しつつ、新しいデザイン感覚で制作した掌サイズの工芸品を展示した。バラエティーに富んだ個性豊かな作品を通して、それぞれの作家の新たな可能性を示す機会となった。また、同企画展関連ワークショップとして開催した「九谷五彩の小さなうつわ作り」や「加賀象嵌のペンダントトップづくり」にも各々10名余の参加があり、兼六園周辺の他施設との相乗効果もあって、多くの入館者を呼び込むことができた。

主な出展作品・作家

上出長右衛門窯 上出惠悟（九谷焼）／Creava Atelier&Gallery（藤丸枝里子／根石和美）（九谷焼）／㈱我戸幹男商店（山中漆器）／宮越仁美（加賀繍）／松岡靜白（加賀象嵌）／有永浩太（ガラス）／江本三紀（ガラス）

関連イベントについて

石川県下の伝統工芸士等による加賀水引細工、竹細工、輪島塗、金沢箔、珠洲焼などの実演・体験を土曜、日曜、祝日に開催。

03 金沢21世紀美術館

日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念展

日々の生活 ―気づきのしるし

会場

金沢21世紀美術館 展示室7～12、14、光庭、交流ゾーン

開催日程

8月5日（土）～11月5日（日）

実施内容と成果

日本とデンマーク、この2つの国に生きる人々の暮らしに関わるデザインを観察。それらがどのように生まれてきたかの背景に言及しながら、未来の可能性を探求するデザインの行方について、現代の視点で考察を試みた。

ヨーガン レール 文明の終わり

会場

金沢21世紀美術館 展示室5、13

開催日程

8月5日（土）～11月5日（日）

実施内容と成果

自然とともに暮らし、その尊さを伝えてきたデザイナー、ヨーガン レール。2014年に急逝した彼の「最後の仕事」となった、海岸に打ち寄せられた廃品のプラスティックからつくられた美しい照明の数々を展示。観る者に自然への敬意を持って生きることの意味を伝えてくれた。

「ヨーガン レール（2017年8月5日～11月5日）」
展示風景　撮影：木奥惠三

04 金沢美術工芸大学

平成の百工比照と工芸作品の精華

会場

金沢美術工芸大学 美術工芸研究所ギャラリー（図書館棟2階）

開催日程

10月4日（水）～11月11日（土）

実施内容と成果

約5,600点におよぶ現代の工芸資料を集成した一大標本、平成の百工比照を展観。今回は漆の蒔絵技法の中でも最高難度を誇る「肉合研出蒔絵（ししあいとぎだしまきえ）」の工程見本を紹介した。「炭上げ」「塗り」「蒔絵」「研ぎ」を幾重にも施すことで立体的な図柄と見事な艶と輝きを生み出す手わざなど、来場者は心ゆくまで工芸の世界に浸った。

05 金沢学院大学

工芸連続セミナー ―石川の漆工と陶磁―

会場

金沢学院大学 サテライト教室（金沢市南町3-1）

開催日程

11月5日（日）、12日（日）、19日（日）、26日（日）／10:30～12:00

来場・参加者数

87人

実施内容と成果

5日「いしかわの漆工三産地ー輪島・金沢・山中漆器の関係と異同」講師：山崎達文

12日「漆芸ー加賀蒔絵の系譜とその伝統をふまえた今日の作品制作」講師：市島桜魚

19日「いしかわの陶磁ー古九谷から赤絵、色絵クタニの近代へ」講師：山崎達文

26日「陶芸ー九谷色絵の系譜とその伝統をふまえた現代の作品制作」講師：羽場文彦

多様な工芸が隆盛展開する石川そして金沢。本セミナーでは特に漆工と陶磁、なかでも「蒔絵」と「色絵」の世界を取り上げた。それぞれの作品紹介を通して、素材や技法、表現特性などの歴史をひもとくとともに、その伝統がどのように現在に繋がってきているのかを、専門教員がわかり易く解説した。さまざまな作品を実際に参加者に手に取って味わってもらえるよう、小人数のゼミ形式とした結果、市民と講師の対話がはずんで、単なる知識習得に終わらない、「工芸を身近な楽しみの対象として再認識し、理解と愛着を深めてもらう」ための本セミナー開催企図を達成することができた。

出演者など

講師：山崎達文［金沢学院大学教授／工芸史］／市島桜魚［同／漆芸］／羽場文彦［同准教授／陶芸］

東京国立近代美術館工芸館名品展連携事業

金沢卯辰山工芸工房 平成29年度特別展
乾漆 -KANSHITSU- 展

会場

金沢卯辰山工芸工房 2階展示室

開催日程

10月7日（土）～11月20日（月）

来場・参加者数

1,393人

実施内容と成果

これまで展覧会の中心になることが少なかった、乾漆技法を用いた作品を集めて展示した。奈良時代の技法そのままに復元した仏像「乾闥婆像」から、器、オブジェなど、さまざまな形態の作品を展示し、“乾漆”という技法の多様な表現方法を紹介するよい機会となった。会場では、出品作家である増村紀一郎氏の記録映画の上映、技法の工程見本の設置など、乾漆技法について全く知識がなくても理解して楽しめるよう工夫をした。今回の特別展は工芸館名品展と連携して開催したこともあり、幅広い方々にご覧いただくことができた。

主な出展作品・作家

乾漆の器「大地」、大西長利／乾漆車箱04-03、古伏脇司／乾漆流水文盛器、増村益城／乾漆香盆、奥出寿泉／乾漆喜久茶入、増村益城／乾漆葉盤、増村紀一郎／乾漆朱輪花鉢、増村紀一郎／乾漆合子「陽洋」、塩多慶四郎／乾闥婆像（模刻像 興福寺 八部衆立像のうち）、鈴木祥子／へいわののりもの（ぼうや）、伊能一三／乾漆呂色塗合子「螺」、林暁／吉祥面、柿田喜則／試みの獅子、柿田喜則／華実、笹井史恵／マンゴスチン、笹井史恵／uneri 浅鉢、鎌田克慈／uneri 輪花鉢 黒、鎌田克慈／uneri 輪花鉢 黒、鎌田克慈／uneri ぐい呑み 朱、鎌田克慈／uneri ぐい呑み 朱平、鎌田克慈／uneri とっくり 赤、鎌田克慈／uneri 銘々皿 黒、鎌田克慈／Imaginary Skin II、田中信行／七宝紋胎乾漆透器、土岐謙次／七宝紋胎乾漆透器（黒流氷紋）、土岐謙次／漆ポケット-1（赤）、小梛真弓／漆ポケット-2（黒）、小梛真弓／漆ポケット-3（赤）、小梛真弓／漆ポケット-4（銀）、小梛真弓／ネズミと漆ポケット、小梛真弓

関連イベントについて

スペシャルトーク：
東京国立近代美術館工芸館工芸課長唐澤昌宏氏による作品解説
10月28日（土）｜参加者：30名

漆芸工房専門員による乾漆技法の説明と実演、作品解説
11月11日（土）｜参加者：25名

工芸技術記録映画
「髹漆 増村紀一郎のわざ」（文化庁企画・桜映画社製作）の上映
会期中随時

第27回 工房祭
「工房お祭り横丁」

会場

金沢卯辰山工芸工房

開催日程

10月22日（日）

来場・参加者数

333人

実施内容と成果

陶芸・漆芸・染・金工・ガラス工房での工芸体験「体験横丁」、5工房で作られた作品販売「卯辰屋マーケット」、研修者の作品展示「研修者作品見物処」、工房修了者の作品販売「アートマーケット」、こどもの遊び場「うさぎーランド」、研修者・スタッフの作品が当たる抽選「大福引き処」、飲食スペース「卯辰茶屋」などを実施。親子でものづくりの楽しさに触れていただいた体験横丁は、チケットが売り切れる程好評だった。
開催当日は、衆議院議員選挙と重なった上に、大型台風の影響で、入場者数が例年の半分以下となってしまった。それでも開門前に80名程のお客様が列をつくり、開始を待ちわびていた。

国際漆展・石川 2017

［主催］国際漆展・石川開催委員会

会場

石川県政記念しいのき迎賓館

開催日程

10月13日（金）～25日（水）

来場・参加者数

約10,400人

実施内容と成果

漆の国際公募展である本展は、漆を用いた新しい生活や感性の提案などを広く国内外に求め、漆産業の活性化と、漆を通じた国際交流の推進、さらには生活文化の向上を期待して開催してきた。1989（平成元）年の初回以来、今回が第11回目の開催となった。デザイン部門とアート部門に、11の国と地域から計176点の応募があり、厳正な審査を通過した8つの国と地域からの80点の入賞・入選作品を展示した。暮らしの中の漆から新しい感性表現としての漆まで、さまざまな漆の可能性を紹介することができた。

主な出展作品・作家

アート部門：小梛真弓（大賞）／黒木紗世（金賞）／伊能一三（銀賞）／松井圭太郎（奨励賞）／TSELIKOV, Evgenii［ロシア］（奨励賞）／齋藤みどり（山田節子賞）／GAHBLER, Heri［ドイツ］（田中信行賞）、デザイン部門:杉谷三朗（金賞）／吉田宏之（銀賞）／工藤祐介（奨励賞）／FAN, Jianjun（奨励賞）／朝川千鏡（大西長利賞）／針谷崇之（川上元美賞）／冨田高行（山村真一賞）／藤野靖男（内野薫賞）／PARK, Duneghen（山村慎哉賞）

関連イベントについて

国際漆展・石川2017企画展「うるしが語る、うるしを語る」展
「世界の漆」展
10月5日（木）～12月6日（水）｜石川県立伝統産業工芸館

国際漆展・石川2017巡回展「国際漆展・石川2017輪島展」
11月11日（土）～2018年1月14日（日）｜石川県輪島漆芸美術館

第44回
石川県デザイン展

［主催］石川県デザイン展開催委員会

会場

石川県政記念しいのき迎賓館

開催日程

11月16日（木）～19（日）

来場・参加者数

4,741人

実施内容と成果

本展は、工業デザイン、工芸デザイン、コミュニケーションデザイン、空間デザインの4分野のプロの作品を展示するコンペティション部門と、デザイン関係の学校から推薦された学生の作品を展示する学生部門で構成され、毎年開催。時代をリードする表現や、新しいライフスタイルの提案、あるいは産業や社会、地域文化への貢献性など、それぞれのメッセージを込めた独創的なデザインを紹介している。今回はコンペティション部門と学生部門に計178件の応募があり、厳正な審査を通過した176件の作品を展示した。

主な出展作品・作家

「香注花 Ceramic Aroma Diffuser」中川理美子／「うるしろうそく」（株）高澤商店、デザイナー:萩のゆき／「～青の～」富永一真／「col.」畑学、デザイナー:イトウケンジ／「和紙玉漆灯り」桶田和芳／「どうぶつ小皿」表美沙／「まぁ～るい木の絵合わせ」木田克之／「Humming note」山岸紗綾／「カケラノカタチ」生地史子

08 石川県伝統産業振興協議会

石川県伝統工芸展 in しいのき緑地

会場

石川県政記念しいのき迎賓館 しいのき緑地

開催日程

11月4日（土）、5日（日）

来場・参加者数

3,050人

実施内容と成果

石川の伝統工芸品PRのため、これまで首都圏で開催していた「石川県伝統工芸展」を、今回は21世紀鷹峯フォーラムの開催に合わせ、初めて石川県で開催した。会場となった石川県政記念しいのき迎賓館しいのき緑地では、輪島塗、山中漆器、加賀友禅、九谷焼などの伝統的工芸品の展示販売や、九谷焼上絵付、牛首紬つまみ細工、輪島塗蒔絵ストラップの工芸体験を行った。会期中の4日（土）は荒天だったが、5日（日）は晴天に恵まれ、地元や県外の観光客が多数来場。工芸体験コーナーも盛況で、石川の伝統工芸をPRすることができた。

09 一社）金沢クラフトビジネス創造機構

KOGEIフェスタ！

［主催］「KOGEIフェスタ！」開催委員会、金沢市、一社）金沢クラフトビジネス創造機構

会場

石川県政記念しいのき迎賓館ほか

開催日程

10月7日（土）～9日（月・祝）

来場・参加者数

70,764人

実施内容と成果

工芸職人やつくり手の制作風景を伝える「KOGEI シアター」、気軽に工芸の制作体験ができる「KOGEI 体験」、若いつくり手を中心とした工芸品の販売会「KOGEI マルシェ」などを開催。また、「KOGEI まちあるき」として市内の工芸品店などと連携するとともに、金沢美術工芸大学、金沢卯辰山工芸工房、宗桂会館を巡るツアーを行った。

質の高い工芸を金沢市全体で発信することで、市民や来街者が工芸に触れる機会を創出できた。

10 北國新聞社

金沢城・兼六園大茶会

［主催］石川県、石川県茶道協会、一般財団法人 石川県芸術文化協会、北國新聞社

会場

兼六園時雨亭／金沢城公園玉泉庵 ほか

開催日程

10月7日（土）～9日（月・祝）

来場・参加者数

5,500人

実施内容と成果

石川県が誇る第一線の工芸作家の新作を使用する茶会。兼六園・時雨亭、金沢城公園・玉泉庵などの会場で、県内在住の著名な工芸作家から出品された「第23回工芸作品公募展」の入選作を使い、石川県内の8流派14社中が点前を披露した。

主な出展作品・作家

裏千家（大島宗翠社中）／表千家（吉倉虚白社中）／裏千家（野島宗栄社中）／裏千家（井奈宗孝社中）／表千家（出村宗貞社中）／表千家（澤永会）／宗和流（宗和会）／遠州流（金沢支部）／宗偏流（金沢支部）／大日本茶道学会（金沢支部）／皇風煎茶禮式（石川弘風会）／煎茶道松月流（北陸支部）／裏千家（清水宗悠淡悠会）／遠州流（金沢兼六支部）

金沢城・兼六園大茶会 特別茶会

会場

石川県立美術館

開催日程

10月7日（土）～9日（月・祝）

来場・参加者数

150人

実施内容と成果

石川県立美術館が所蔵する、日本芸術院会員や人間国宝の作品を使用した画期的な特別茶会。席主は嶋崎丞館長が務め、茶席は裏千家今日庵業躰（こんにちあんぎょうてい）奈良宗久社中が担当した。

人間国宝の初代魚住為楽（うおずみいらく）の「砂張（さはり）銅鑼」の音を合図に始まった茶会。近代漆芸の第一人者、松田権六の薄器「老松蒔絵棗（おいまつまきえなつめ）」、十代大樋長左衛門による茶碗 黒 銘「汲古」、陶芸家・石黒宗麿の茶碗「千点文筒」、菓子器「鉄絵鳥文」といった名品の数々がおしみなく使われ、参加者にとっては実際に手に取って鑑賞できる贅沢な機会となった。

出演者など

席主:嶋崎丞［石川県立美術館館長］／茶席:今日庵業躰 奈良宗久社中（裏千家）

主な出展作品・作家

「砂張銅鑼」初代魚住為楽／薄器「老松蒔絵棗」松田権六／茶碗 黒 銘「汲古」十代大樋長左衛門／茶碗「千点文筒」石黒宗麿／菓子器「鉄絵鳥文」石黒宗麿 ほか

金澤きもの小町

［主催］石川県和装文化協会、北國新聞社

会場

北國新聞赤羽ホール／金沢市内

開催日程

10月9日（月・祝）

来場・参加者数

約800人

実施内容と成果

振り袖や訪問着などに身を包んだ参加者がまちなかに繰り出し、秋が深まる城下町に華やぎを添えた。北國新聞赤羽ホールでは、加賀友禅作家が消費者の声をもとにデザインした「新しい加賀友禅」4作品が披露され、来場者は加賀友禅の新たな魅力を感じ取った。また、北國新聞赤羽ホールでは「第14回ミス加賀友禅コンテスト」が開催され、大勢の参加者で賑わった。

提供：北國新聞社

片岡鶴太郎 四季彩花

会場

金沢21世紀美術館

開催日程

10月7日（土）～ 11月4日（土）

実施内容と成果

画業20周年を迎えた片岡鶴太郎による、美しい日本の四季への思いが込められた数々の作品、陶器・ガラス器・染色など約70点を展示。鑑賞者は、最先端のテクノロジーによるスペースプレイヤーをはじめ、話題の4Kを含む各種映像・照明機器を駆使した空間演出によって初めて実現した片岡鶴太郎の幻想世界を体験した。

ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭

［主催］2017ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭実行委員会、石川県、一般財団法人石川県芸術文化協会、北國新聞社、各種団体

石川県美術文化協会選抜美術展

会場

北國新聞交流ホール

開催日程

10月4日（水）～8日（日）

実施内容と成果

文化勲章受章者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめとする石川県美術文化協会役員による秀作を一堂に展示。美術工芸王国・石川の厚みを伝えた。

第42回 九谷と花選抜出会い展

会場

サイエンスヒルズこまつ

開催日程

10月6日（金）～10日（火）

実施内容と成果

工芸王国石川を代表する陶芸家の個性豊かな器と、9流派から選ばれた華道家の感性が融合した40点が並び、伝統と創造を感じさせる美の共演で来場者を楽しませた。

第4回 加賀市美術展

会場

加賀市美術館

開催日程

10月28日（土）～11月19日（日）

実施内容と成果

加賀市美術協会に所属する会員の作品を展示。1年間の研鑽の成果を広く鑑賞していただき、加賀市の美術工芸活動のさらなる向上を図った。

県民茶会

会場

兼六園時雨亭

開催日程

11月7日（火）～12日（日）

来場・参加者数

1,200人

実施内容と成果

県茶道協会に所属する6流派が、兼六園時雨亭で日替わりで席を持ち、石川の茶道文化を県内外に発信した。

出演者など

県茶道協会加盟の流派・社中

特別展

大樋焼歴代とゆかりの人々展

会場

大樋美術館・大樋長左衛門窯 第3展示室

開催日程

7月15日（土）～12月15日（金）

来場・参加者数

3,797人（館全体での入場者数）

実施内容と成果

九代、十代を中心とした大樋歴代とゆかりのアーティストが、大樋窯で制作した作品や、九代、十代長左衛門との合作をや陳列。同時に作品の制作工程も紹介した。政界、経済界、芸術界など、各分野で時代をリードしてきた錚々たる人々が、金沢の地で絵付けや作陶をした作品の展示に、来館者からの評判も「他では見ることのできない貴重な機会」と上々だった。ほかに作陶に使われた道具も公開され、大樋家ゆかりの著名人による作品とともに、興味深い展示となった。

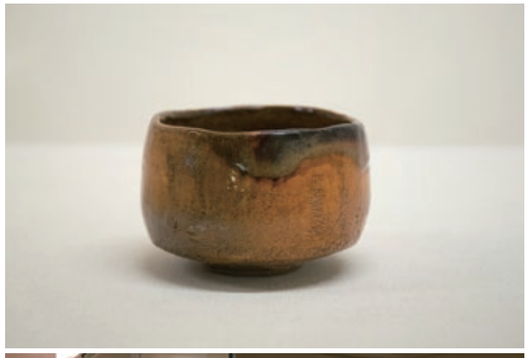
主な出展作品・作家

大樋飴釉茶盌 銘「虎嘯」井上世外（馨）作、八代大樋長左衛門合作／大樋黒飴茶盌 銘「笑大黒」松永耳庵（安左衛門）手造、九代大樋長左衛門窯／掛軸：野菜の図　武者小路実篤筆／大樋黒釉燕子花文茶盌、野村得庵（得七）絵、九代大樋長左衛門合作／黒釉梅文茶盌、福田平八郎絵、九代大樋長左衛門合作／黒釉罌粟（けし）絵茶盌、畠山錦成絵、九代大樋長左衛門合作／志野六瓢絵茶盌、伊東深水絵、九代大樋長左衛門合作／掛軸:赤絵鉢之図、九代大樋長左衛門画／黒釉富士之絵茶盌、橋本関雪絵、九代大樋長左衛門合作／飴釉茶碗「久万の」字、中川一政筆、十代大樋長左衛門合作／黒釉富嶽絵茶盌、奥田元宋絵、十代大樋長左衛門合作／掛軸：芳土、谷川徹三筆／大樋飴釉茶盌 梅の絵 辛未神無月薬焼之、加山又造絵、十代大樋長左衛門合作／大樋沓茶碗、勅使河原宏作、十代大樋長左衛門合作、於大樋窯

関連イベントについて

「初代～11代 歴代長左衛門の茶盌展
Tea Bowl Exhibition of Ohi Chozaemon I～XI」
2016年4月23日～継続中

常設展「初代長左衛門と裏千家四世仙叟宗室の作品展示」



金沢21世紀工芸祭

[主催] 金沢創造都市推進委員会 金沢市
[共催] 公益社団法人金沢青年会議所 認定NPO法人趣都金澤 金沢アートスペースリンク

趣膳食彩

開催日程・会場

「梅田日記」とともに幕末の金澤をめぐる:10月14日(土)宝泉寺／理り〜コトワリ〜:10月15日(日)金澤一乃松／ドールヌーヴォー:10月21日(土)、22日(日)FIL D'OR／ホネブト 骨太:10月28日(土)Trattoria cicala／不二之門:10月28日(土)DININGBAR HUNI／共鳴する才能〜光悦と金沢〜:11月4日(土)経王寺／日就月将:11月11日(土)Table7 nana／紅の味覚 / サヴール・ルージュ:11月18日(土)レ・サヴール／身土不二〜自分と大地の距離を味わう〜:11月26日(日)宇多須神社

来場・参加者数

155人

実施内容と成果

料理人と工芸作家。「つくる」を生業とする人が、真摯に向き合い語り合い、思いを宴に昇華する。その日、その場にいるすべての人が、食と工芸の素晴らしさを感じられる、五感で味わうプレミアムな世界をゲストに提供した。

出演者など

料理人:岡川透(PLAT HOME)／木村泉美(鮨人)／坂勇哉(福乃井一乃松)／藤井壽人(金澤一乃松)／田川真澄(FIL D'OR)／山本啓介(Trattoria cicala)／遠藤崇師(かなざわ 紋)／中尾英力(懐石万惣)／堀誉二三(Table 7 nana)／今井康人(レ・サヴール)
アーティスト:宮﨑岳志(染色)／大西雄三郎(陶芸・九谷焼)／森口信一(木工作家・我谷盆)／長谷川琢士(仏師)／半田濃史(陶芸・九谷焼)／森下優理(陶芸・九谷焼)／戸出雅彦(陶芸家)／長谷川琢士(仏師)／田中瑛子(漆・木工芸)

金沢21世紀工芸祭

金沢みらい茶会

開催日程・会場

青宝茶会:10月15日(日)宝円寺
十間町四四茶会:10月15日(日)谷庄
○△□茶会:10月22日(日)鈴木大拙館
鏡花幻想茶会:11月3日(金)かなざわ紋
本阿弥(香梅)茶会 古今金澤と鷹峯〜本阿弥光悦を偲ぶ〜:11月5日(日)経王寺
十間町五三茶会:11月12日(日)石黒商店
武家茶道「淡月の釜」:11月26日(日)THE SHARE HOTELS KUMU KANAZAWA

来場・参加者数

342人

実施内容と成果

「トラディショナル」と「コンテンポラリー」、二つのテーマで茶席を開催。伝統から多彩な方向へ、思い思いの解釈で繰り広げられるおもてなし。「茶の湯」文化が今なお根付く金沢ならではのひとときを提供した。

出演者など

席主:金沢JC茶道同好会「青宝会」／谷村庄太郎(谷庄代表)／一般社団法人ユニバーサルデザインいしかわ／野上裕章(ひとり語り演者)／新田一也(株式会社エイブルコンピュータ)／石黒太朗(石黒商店代表)／ハーブレヒツ　淡月庵　ティアス　宗筅

金沢21世紀工芸祭

国際工芸シンポジウム金沢

工芸の過去・現在・未来

会場

金沢市文化ホール 大集会室

開催日程

11月23日(木・祝)

来場・参加者数

120人

実施内容と成果

国際工芸シンポジウム金沢は、工芸を美術と産業という二つの方向から紐解き、工芸の将来性と可能性を探った。工芸のユニークさは、技法材料やそこから生まれる美的価値に留まらず、生産様式や流通の仕方などの全般にわたる。グローバル化した現代アートや他の美術ジャンルと比較すると、地域的な特色や小規模生産などの工芸らしい特質が、行き詰まりを見せてきている現代文化にヒントを与えている。シンポジウムでは、世界的な研究者、キュレーター、オーガナイザーが集まり、美術的な価値づけ(キュレーション)の問題と市場の形成(マーケット)の問題という工芸を巡る二つの課題から、工芸の現状や将来像をお話しいただいた。

出演者など

スピーカー:マルコム・フェリス[イギリス／Making Futures Conferenceディレクター／プリマス大学教授]、ナディーヌ・フィッシャー・クライン[スイス／Tr_sor Basel AG エキシビションリレーション／共同創設者]、クリスティーン・ノーク[アメリカ／国際民藝博物館チーフキュレーター]
スピーカー＆モデレーター:チョ・ヘヨン[韓国／アートディレクター]

金沢21世紀工芸祭

工芸回廊

会場

桃組+晴組／福光屋／Bar粋蓮／茶房&BARゴーシュ／奈加川／金澤町家職人工房 観音通り／三味（Syami）／しら井／浅の川　吉久／一久／茶屋美人／経田屋米店／菅原神社／金座和アイス／高橋花店／森八 うつわの器／町家塾／彩賀／主計町検番／Bar一葉／八百萬本舗／佃邸＋佃邸2F／佃の佃煮本店／尾崎邸／大樋ギャラリー／町家カフェ土家／群青の広見／茶房・一笑／玉匣／金銀箔工芸さくだ／能加万菜／安江金箔工芸館／serif s typography books&gallery

開催日程

10月19日（木）～22日（日）

来場・参加者数

49,696人

実施内容と成果

金沢らしい風情を残す東山と主計町の町家に、作家とギャラリーが工芸作品を展示。路地を巡れば街の新たな魅力がわかり、作家やギャラリストと交流すれば、アートや工芸が身近になる。気づきと出会いの4日間。ボランティアスタッフによる工芸ツアー「工芸散歩」も同時に行われ、県内外からの来場者が気軽に工芸に接する機会となった。

主な出展作品・作家

半田濃史（陶芸）／大西雄三郎（陶芸）／加藤裕也（ガラス）／坂野有美（染色）／張多然（陶芸）／大塚麻由（ガラス）／魚津悠（陶芸）／中島ゆり恵（金工）／毎田仁嗣（染色）／古田航也（金工）／東山葉月（金工）／岸田志穂（染織）／四代 徳田八十吉（陶芸）／南絢子（磁土）／神田龍馬（陶芸）／小網重一（陶芸）／徳田明美（陶芸）／Mariko Cunningham（アーティスト）／ススム・シャーマン・イケガミ（アーティスト）／金至児（陶芸）／金正逸（陶芸）／李一烈（陶芸）／小早川眞理子（金工）／三代 三ツ井為吉（陶芸）／織田隼生（金工）／青木小波（木工芸）／常盤耕太（ガラス）／中須杏奈（ガラス）／澤谷由子（磁土・陶芸）／青宝茶会（茶道具）／坂井天心（金工）／ショウジョノトモ（工芸全般）／田中瑛子（漆・木工芸）／加賀指物研究会（木工）／福嶋則夫（木工芸）／松井裕志（木工芸）／角間泰憲（木工芸）／柳井友一（secca）／藤原寛太郎（ガラス）

金沢21世紀工芸祭

「工芸建築」展

会場

金沢21世紀美術館 市民ギャラリーB1／B3

開催日程

11月7日（火）～ 19日（日）

来場・参加者数

14,075人

実施内容と成果

「建築を、ひとつの工芸として考える」。このテーマを中心に、工芸作家や建築家ら多彩なプレイヤーによる初の展覧会。伝統と革新が呼応し合い、独自の文化を発信する金沢から「工芸建築」が生み出す新たな可能性を提案した。

主な出展作品・作家

緒方慎一郎（デザイナー）／小津誠一（建築家）／坂井直樹（金属造形作家）／中村卓夫（陶芸家）／三代西村松逸（漆工）／眞壁陸二（画家）／宮下智裕（金沢工業大学准教授）／村本真吾（漆造形家）／山下保博（建築家）／吉村寿博（建築家）※50音順

関連イベントについて

「工芸建築」展 シンポジウム

11月17日（金）｜金沢21世紀美術館 フュージョン21｜モデレーター：秋元雄史［金沢21世紀工芸祭総合監修／東京藝術大学大学美術館館長・教授／金沢21世紀美術館特任館長］

工芸建築の魅力と可能性について、出展者によるギャラリートークを行った。

金沢21世紀工芸祭

金沢みらい工芸部

会場

wonderspace白菊

開催日程

世界にひとつのキーホルダーを作ろう！：10月14日（土）
刻印でオリジナルペンダントヘッドを作ろう！：10月14日（土）
型染の手提トートバックを作ろう！：10月21日（土）
沈金体験 お箸に模様を彫ろう！：10月21日（土）
［大人の工芸部］じっくりこっとり干支作り（犬）：10月28日（土）
ネコブローチを作ろう！：10月28日（土）
［大人の工芸部］シルクストールのしぼり染め体験：11月4日（土）
KANAZAWA モチーフでオリジナルの器を作ろう！：11月4日（土）
サンドブラストで自分だけのお皿を作ろう！：11月11日（土）
親子で型染めハンカチとブローチを作ろう！：11月11日（土）
［大人の工芸部］My酒器をのみながら作ろう！：11月18日（土）
どうぶつの形をしたお皿に上絵をしよう！：11月18日（土）
［大人の工芸部］ミニゆびぬき作り体験：11月25日（土）
水引のみみかざりとかみかざりを作ろう！：11月25日（土）

来場・参加者数

206人

実施内容と成果

子どもから大人まで、幅広い層が参加できるワークショップ。指導するのは若手の工芸作家。伝統工芸の技法に触れ、作家の活動や思いを体感してもらいながら、未来の工芸を支える“使い手”を育てるプログラムを提供した。

金沢21世紀工芸祭

KOGEIトーク

技術か？ コンセプトか？ 若手工芸作家と語る工芸の最前線

会場

THE SHARE HOTELS KUMU KANAZAWA

開催日程

11月10日（金）

来場・参加者数

85人

実施内容と成果

技術か?コンセプトか?21世紀を生きる若手工芸作家はどのような視点で制作に向かいあっているのか。金沢21世紀工芸祭の総合監修・秋元雄史が聞き手となり、4人の若手工芸作家と工芸の最前線のテーマを深めた。

出演者など

スピーカー：青木千絵（漆）、木谷洋（金工）、佐々木類（ガラス）、奈良祐希（陶磁）モデレーター：秋元雄史

金沢21世紀工芸祭

金沢アートスペースリンク

会場

A.SPACE gallery／ArtShop 月映／As baku B／atelier&gallery creava／Badass gallery／Books under Hotchkiss／café & gallery musée／FUZON KANAZAWA／ギャラリー椋／Kapo／THE ROOM BELOW／ガレリアポンテ／ギャラリートネリコ／ルンパルンパ／金沢アートグミ／芸宿／山ノ上ギャラリー／陶庵／問屋まちスタジオ／ギャラリーアルトラ／髙木糀商店／玄羅アート

開催日程

10月14日（土）～11月26日（日）
プレ期間：9月23日（土）～10月13日（金）／
コア期間：11月11日（土）～26日（日）

来場・参加者数

8,714人

実施内容と成果

金沢市と近郊に点在するアートスペースをつなぐ試み。展示に加え、アートブックやインタビューで1軒1軒のアートスペースを紹介。一家に1アートを目指し、金沢アートグミで小さなアートフェアも開催した。

主な出展作品・作家

稲澤廣明／西由香／米倉彰能／今西泰赳／木戸優紀子／須釜聡／塩本智子／小嶋ゆか／細川理衣／藤井祐人／野中彩／森岡成好・由利子／水口咲／岡本有司／福田澄子／井上知美／岩切あかり／上原勇希／奥谷葵／葛西ちひろ／木村佳代子／菊池美咲／こうごみつる／高明輝／寺坂安里／砥上裕将／長友由紀／中村眞弥子／波多野加与／明神睦美／宮田春奈／大友侑利／玉田トシ子／石畑美津子／齋藤一／長友由紀／牛島孝／山口かほる／森環／Jan Van Den Dobbelsteen, Danielle Lemaire／沈惠貞（シン・ヘ・ジョン）／車慶姫（チャ・ギョン・ヒ）／坂本幸恵／菊池あき／尾藤康博／岸田志穂／河野千種／新城すみれ／田中若葉／仲村葵／関由美／舩木大輔／鍾雯婷／浅野恵理子／小澤明子／澤谷由子／小島柚穂／石森良隆／伊能一三／岩井美佳／戸出雅彦／真鍋淳朗／中瀬康志／南淳史／宮崎竜成／山岸耕輔／伊藤幸久／門阪翔大／大山日歩／オーケ・アルネダール／友高博之／米沢実／UZUMAKI／水野仁輔／玉分昭光／南絢子／松永圭太／井上藍／片瀬有美子／河野太郎／小守郁美／橋本知成／濱口佳純／百瀬玲亜／横山翔平／和田真以子／藪内公美／山崎晴太郎／古賀友浩／小林誠太／人見学斗／フジタマリ／田中瑛子／六田知弘／三浦泉／金沢市工芸協会会員／加賀指物研究会会員

KOGEI Art Fair Kanazawa 2017

［主催］KOGEI Art Fair Kanazawa 実行委員会
［共催］一般社団法人金沢クラフトビジネス創造機構 認定NPO法人趣都金澤 金沢アートスペースリンク

会場

THE SHARE HOTELS KUMU KANAZAWA

開催日程

11月24日（金）ファーストビュー（プレス、招待者のみ）～26日（日）

来場・参加者数

1,434人

実施内容と成果

「KOGEI Art Fair KANAZAWA 2017」は工芸都市・金沢で初開催となるKOGEIアートフェア。国内外の工芸を扱う29ギャラリーが一堂に会し、新進気鋭の作家から世界的に活躍する作家まで、現代から伝統と多様な傾向の作品を展示販売した。

主な出展作品・作家

ギャラリー小暮［東京］／銀座一穂堂［東京］／しぶや黒田陶苑［東京］／dining gallery 銀座の金沢［東京］／白白庵［東京］／PAKUPAKUAN［Tokyo］／三越［東京］／ミヅマアートギャラリー［東京、シンガポール］／みんなのギャラリー［東京］／レントゲンヴェルケ［東京］／ギャラリー IDF［愛知］／ギャラリー数寄［愛知］／GALLERY 龍屋［愛知］／悠遊舎ぎゃらりぃ［愛知］／多治見市文化工房ギャラリーヴォイス［岐阜］／atelier&gallery creava［石川］／ガレリアポンテ［石川］／ギャラリー パノニカ［石川］／ルンパルンパ［石川］／imura art gallery［京都］／現代美術 艸居［京都］／タピエスタイル［大阪］／Yoshimi Arts［大阪］／YOD Gallery［大阪］／川田画廊［兵庫］／サコダアートギャラリー［兵庫］／3ta2 gallery［愛媛］／Gallery ILSANG［ソウル（韓国）］／Gallery LVS & CRAFT［ソウル（韓国）］／SP gallery［ソウル（韓国）］／SP gallery［Seoul, Korea］※都道府県国別50音順

16 金沢市

きものが似合うまち・金沢

会場

金沢市内の対象店舗・施設127箇所

開催日程

10月1日（日）～11月30日（木）

来場・参加者数

5,467人

実施内容と成果

和装の上、飲食店や博物館、記念館など対象の127店舗・施設へ行くと、デザートのサービスや各種割引など、さまざまな特典が受けられた。

いしかわの工芸文化体験・鑑賞推進事業

［主催］石川県県民文化スポーツ部文化振興課

各イベントについて

技術研修所見学ツアー

各地の技術研修所などの見学や、伝統工芸品の制作体験ができる金沢発着の日帰りバスツアー。

「**加賀コース～山中漆器・九谷焼を学ぶ～**」

10月13日（金）｜見学先：山中漆器産業技術センター、九谷焼技術研修所、能美市九谷焼資料館、浅蔵五十吉美術館、能美市九谷焼陶芸館（九谷焼上絵付け体験）｜参加者：17人

「**能登コース～輪島塗を学ぶ～**」

11月17日（金）｜見学先：輪島漆芸技術研修所、輪島漆芸美術館、輪島塗会館、輪島工房長屋（沈金制作体験）｜参加者：37人

伝統工芸制作体験ワークショップ

いしかわの伝統工芸に直に触れ、楽しく学ぶことができる伝統工芸品の制作体験ワークショップ。

「**金沢箔でオリジナル菓子皿を作ろう**」

10月21日（土）｜石川県立美術館 講義室｜参加者：24人

「**手描き加賀友禅のハンカチを作ろう**」

11月5日（日）｜石川県立歴史博物館ワークショップルーム｜参加者：25人

工芸文化の歴史講座「三代利常と文化政策」

11月4日（土）｜石川県立歴史博物館ワークショップルーム｜講師：北春千代［石川県立歴史博物館学芸主幹］｜参加者：44人

石川県が誇る伝統工芸について、歴史的な側面から学ぶことができる講座で、加賀文化の礎を築いた加賀藩三代藩主「前田利常」の文化政策を詳しく解説。

講演会「石川に能の霊が舞い降りる」
～私が知っている石川の伝統工芸と能楽～

11月11日（土）｜石川県立能楽堂｜嵐山光三郎［作家］、金沢能楽会ほか｜参加者：158人

石川県が誇る伝統工芸と伝統文化の関わりとその魅力を作家の嵐山光三郎氏の講演のほか、金沢能楽会による能の実演（舞囃子「安宅」）などを交えて紹介。

17 石川県文化財保存修復工房

第1回修復工房セミナー

「文化財を守る —漆工芸品の保存と修復—」

会場

石川県立美術館講義室

開催日程

11月4日（土）

来場・参加者数

41人

実施内容と成果

文化財保存修復工房では、昨年のリニューアルオープンに合わせ、漆工芸品の修復室を新たに設置。漆工芸品の適切な保存修復について理解を深めるため、金沢美術工芸大学の山崎剛教授を講師に迎えて本セミナーが開催された。教授の個人コレクション、金沢美術工芸大学が所蔵する漆芸品などの実物やスライドを用いた事例紹介が行われ、「漆芸品の修復において最も大切なことは、素材・状態の見極めであり、基本は何もしないことがベスト」など、興味深い話を伺うことができた。博物館・美術館関係者や漆工芸品に関わる職人、修復師から一般市民まで、幅広い方々が熱心に受講し、1時間半が短く感じられる充実した内容だった。

出演者など

講師：山崎剛［金沢美術工芸大学教授］

25 金沢市民芸術村　アート工房

アートな仕事ークvol.4 漆芸家 更谷富造

会場

金沢市民芸術村 アート工房

開催日程

トークイベント：11月23日（木・祝）／展示：11月24日（金）～26日（日）

来場・参加者数

トークイベント：76人／作品展示：286人

実施内容と成果

アートに関する仕事で活躍する方を招いて、日々の活動やアトリエの様子、仕事に対する思いなどを聞くトークイベント「アートな仕事ーク」シリーズ。今回は、オークションハウスのサザビーズ社やクリスティーズ社をはじめ、ギャラリーや個人蔵の漆芸品を修復するかたわら、自身の創作も行う世界的な漆芸家 更谷富造氏を招き、漆芸家という仕事、魅力、現在の業界が抱えている問題、これからの展望や夢などについて話を伺った。トークイベントでは、スライド写真を見ながらアーティスト自ら解説いただき、作品の他に貴重な道具や材料の展示、漆を練る制作のデモンストレーションも交えた。作品展示では、海外のコレクターから取り寄せた貴重な作品8点とパネル23点を展示した。

世界で活躍する漆芸家 更谷富造氏の緻密で高度な漆芸作品を間近で観られる貴重な機会となった。また絶滅を危惧される動物から作る道具や材料、後継者問題などの課題も考えさせられた。世界的な観点から漆芸を見直すことができ、新たな漆芸の魅力を感じとれるイベントとなった。

出演者など

モデレーター：方野公寛［金沢市民芸術村アート工房 ディレクター］／スピーカー：更谷富造（漆芸家）、畑中直子（編集者）

主な出展作品・作家

《Cabbage》（2017年）／《花見》（2017年）／《Mukade（Centipede）》（2009年）／《Hana-goromo（A Fancy Kimono Worn for Cherry Blossom Viewing）》／《黒いカブトムシの林檎宝物》（2017年）／《鯨　印籠》（現代）／《鯨　硯箱》（現代）／《筍》（現代）／A2パネル23点

企画展

工芸セレクションⅠ お茶碗と棗

会場

金沢市立中村記念美術館

開催日程

7月29日（土）～10月22日（日）

来場・参加者数

6,538人

実施内容と成果

茶道具と工芸作品がコレクションの中心である当館の持ち味を活かした展覧会シリーズ「工芸セレクション」の第一弾。今回は、敷居が高いと思われがちな茶の湯の世界から、茶の湯の道具として重要で、かつ使い方が分かりやすい「茶碗」と「棗（なつめ）」に焦点を当てた。茶碗は、中国や朝鮮半島を産地とするものから、地元の作家である大樋長左衛門、開発文七、西坂方南の作品などを展示。薄茶をおさめる棗は、それぞれの形にあわせて施された華麗な装飾が目を引いた。

来館者の展示室内の滞留時間がこれまでの展覧会よりも長く、お茶を嗜む方から茶の湯に接する機会の少ない方まで楽しんでいただくことができた。テーマや見せ方の工夫で、多くの方に工芸作品の魅力を伝えることができると感じられた展示となった。

主な出展作品・作家

飴釉茶碗 銘「侘の友」、五代大樋長左衛門／白茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／三彩釉魚文茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／千点文茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／柿釉天目茶盌銘「夏の夜」十代大樋長左衛門（陶冶斎）／白縁天目茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／木の葉天目茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／幾何文黒織部茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／赤茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／さび黒茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／三彩花鳥文茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／色絵紅毛三筋文茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／掛分数印茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／□〇△紋黒沓茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／井戸形灰釉茶盌、十代大樋長左衛門（陶冶斎）／萩茶碗 銘「昔語」／黄瀬戸筒茶碗／釘彫伊羅保茶碗 銘「花緑」／狂言袴茶碗／斗々屋茶碗 銘「青苔」／祥瑞福寿字茶碗／青磁草花文碗／雲鶴平茶碗／御所丸茶碗／黒塗大棗 伝「盛阿弥」／鶴蒔絵棗、寺井直次／松蒔絵平棗、松田権六／住吉蒔絵平棗、初代西村松逸／夕顔蒔絵茶器、初代西村松逸／松竹梅蒔絵平棗、太田抱逸／青磁茶器、初代真清水蔵六

関連イベントについて

学芸員によるギャラリートーク

10月14日（土）｜参加者：14人
10月18日（水）｜参加者：9人

伝統工芸創作人形展（金沢）―日本工芸会会員による―

会場

金沢市立中村記念美術館

開催日程

10月28日（土）～11月28日（火）

来場・参加者数

3,037人

日頃、中村記念美術館において展示を行う機会が少ない工芸分野「人形」の展示である。日本工芸会人形部会正会員及び準会員、石川支部会員による新作とともに、重要無形文化財保持者（人間国宝）人形作家の作品を含む51点を公開した。

本展は全国公募の人形展で、平成21年以来2回目の金沢開催であった。地方では人形に特化した展覧会は珍しく、日頃訪れない客層が訪れ、工芸には幅広いファン層がいることを実感できる展示となった。

また、展覧会初日には、1階ロビーにて、石川県知事賞・金沢市長賞・中村記念美術館長賞・日本工芸会人形部会長賞の4賞の表彰式を執り行った。

主な出展作品・作家

木芯桐塑木目込「草萌え」、秋山信子／木芯桐塑和紙貼「昔男」、林駒夫／木芯桐塑紙貼「涼風」、浅井秀子／木芯桐塑胡粉「記（しるす）」、春木均夫／木彫布貼「夢」、玉置光子／張抜和紙貼「雛」、紺谷力／木彫木目込「スタジオ105」、井上春子／木芯桐塑布紙貼胡粉「かえり道」、三門靖子／木彫胡粉「花々花」、岩瀬なほみ／桐塑和紙布貼「アブダビ砂漠」、木村美智子（石川県知事賞）／木芯桐塑紙貼「ひととき」、野田リツ子（金沢市長賞）／陶彫彩色「瀧」、中村弘峰（中村記念美術館長賞）／木彫彩色「銀河」、中村信喬／木芯桐塑木目込「秋野」、小松艶子（日本工芸会人形部会長賞）

関連イベントについて

ワークショップ「君も人形作家だ!!～人形に彩色してみよう～」

11月12日（日）
参加者：16人

人形の彩色を体験するワークショップ。用意された人形を自分好みの色で仕上げ、人形作家を疑似体験します。

ギャラリートーク

10月28日（土）、11月12日（日）、20日（月）、28日（火）
参加者：154人（4日間合計）

人形作家による展示品解説（各1時間程度）

「旧中村邸」一般公開

11月1日（水）～9日（木）
参加者：916人

金沢市指定保存建造物に指定されている昭和初期の建築「旧中村邸」を一般に公開。

平成29年度

秋季所蔵作品展「金箔と日本美術」

会場

金沢市立安江金箔工芸館

開催日程

10月7日（土）～12月3日（日）

来場・参加者数

7,928人

実施内容と成果

「箔貼り」「截金」「沈金」「釉裏金彩」「金泥」「金糸」など、金箔は日本の工芸美術において多彩な使われ方をしてきた。本展覧会では、日本美術の中でさまざまな使われ方をしている金箔に焦点を当てた。作品毎に日本語と英語の解説キャプションをつけたことにより、内外の多くの来場者の金箔に対する理解を深め、日本の工芸作品の鑑賞を豊かにすることができた。

主な出展作品・作家

白山白馬図屏風、玉井敬泉／象嵌朧銀花器「水遠山長」、中川衛／象嵌花生け、金沢銅器会社／截金彩色合子「春苑」、西出大三／十一面観音像（截金）、不詳／能装束「赤地松皮菱に枝垂桜鳳凰模様」唐織、不詳／忘春詩集抄、中田幸子／釉裏金彩艸苑文鉢（九谷焼）、竹田恒夫／釉裏金彩大山蓮華文皿（九谷焼）、吉田美統／人形「ドリーム」、紺谷力／人形「高雄観楓」、山本榮子／松鶴漆塗手箱（沈金）、前大峰／絵替わり硯屏、前大峰、三谷吾一、小森克巳、小田原俊雄／沈金鯉の図硯箱、前史雄／飾筥「かぐや姫」（ガラス）、藤田喬平／金彩「夕凪の漣」（ガラス）、黒木国昭／截金彩色まり香盒、江里佐代子／貝合わせ「花に寄せて」、田中良忠

金沢箔技術振興研究所委託研究成果報告展示会

「文化財建造物に使用された金箔に関する保存修復科学的な調査研究」

会場

金沢市立安江金箔工芸館 1階 多目的展示ホール

開催日程

10月20日（金）～11月26日（日）

来場・参加者数

約2,000人

実施内容と成果

金沢箔技術振興研究所では、平成26年度より文化財保存・修復分野の権威である北野信彦氏に委託し、「文化財建造物に使用された金箔に関する保存修復科学的な調査研究」を行っている。今回の成果報告展示会では、これまでの委託研究の流れとその成果品を展示し、金沢の金箔技術が、文化財建造物の塗装彩色修理に役立っていることを発表した。研究内容を解説したパネルの他にも、陽明門の修復過程を紹介したVTRなどを用意し、保存修復の様子をわかりやすく紹介した。多数の来場者からの反応もよく、金沢金箔への理解を改めて深めてもらうという目標を達成することができた。

出演者など

委託研究者：北野信彦

展示リスト

解説パネル：北野信彦［龍谷大学教授］／金箔彩色手板：日光社寺文化財保存会／曝露漆手板試料：日光社寺文化財保存会／復元金箔：金沢金箔伝統技術保存会／復元金澄：金沢金箔伝統技術保存会／元禄一分金貨／甲州一分金貨

復元焦箔の彩色手板

金箔フォーラム「文化財保存と金箔産業」

会場

金沢市立安江金箔工芸館 3階 研修室

開催日程

11月20日（月）

来場・参加者数

75人

実施内容と成果

①基調講演：北野信彦［龍谷大学教授］「文化財建造物の塗装彩色修理に関する金箔の歴史」

②特別講演:山崎達文［金沢学院大学副学長］「金箔製造技術を支える素材 澄打紙の原材料とその製紙」

③パネルディスカッション

金沢箔技術振興研究所の主催による金箔フォーラムを開催し、「文化財保存と金箔産業」をテーマに、講演とパネルディスカッションを行った。当日は金沢市民を中心に、多数の来場者があり、専門的な内容ながら熱心に耳を傾ける姿が目立った。また金箔の街・金沢に住む者として、来場者もパネルディスカッションに加わることで、パネラーからの一方向的な議論ではなく、広く問題意識を共有することが出来た。

出演者など

パネリスト：佐藤則武［日光社寺文化財保存会漆塗技術管理］、北野信彦、山崎達文／コーディネーター：川上明孝［金沢箔技術振興研究所長］

金沢湯涌創作の森　わくわく工芸体験

会場

金沢湯涌創作の森

開催日程

10月15日（日）

来場・参加者数

15人

実施内容と成果

金沢湯涌創作の森には、染、織、版画、シルクスクリーンのための高度な専門設備を備えた4つの工房がある。今回は、そこで小学4年生以上、中学生以下を対象に、初めての人でも制作できる簡単な1日体験教室を実施した。

目的は、工芸の入口部分を体験することで、子どもたちにものづくりの楽しさを知ってもらうこと。

絞り技法を用いた藍染め体験では、絞りの具合でさまざまに変化する文様を見て、子どもたちに笑顔があふれていた。

加賀友禅まつり

［主催］加賀友禅技術振興研究所 協同組合加賀染振興協会

会場

加賀友禅会館

開催日程

10月7日（土）～11月5日（日）

実施内容と成果

加賀友禅ファンを増やす取り組みとして、加賀友禅会館と石川県和装振興会加盟の呉服店14店舗を会場に開催される「加賀友禅まつり」。毎回趣向を凝らした催事や特典があり、加賀友禅の美しさ、着る楽しさに触れる貴重な機会となっている。今回は加賀友禅会館において、作家による「加賀友禅新作競技会作品展」や、事前予約制の「着装会」が行われた。また、加賀友禅の技術を広く知ってもらう取り組みとして、作家や伝統工芸士が実際に作品を作っている様子を見ることができる制作実演も行われた。特に今回実演された「下絵」や「糊置き」といった工程は、普段はほとんど目にすることができないもの。独特の道具や作業の進め方についての質問に、職人たちはひとつひとつ丁寧に答えていた。

関連イベントについて

第14回ミス加賀友禅コンテスト

10月9日（月・祝）｜北國新聞赤羽ホール

今年で14回目となる加賀友禅の親善大使を決める公開コンテスト。本年は、金澤きもの小町が開催される赤羽ホールで開催された。

第43回会加賀友禅新作競技会

11月2日（木）～5日（日）｜加賀友禅会館

加賀友禅の技術力向上と後継者育成のため毎年開催。伝統と卓越した技術を披露した。

36 宗桂会館

企画展 山川孝次三代の技

会場

宗桂会館

開催日程

10月4日（水）～11月27日（月）

来場・参加者数

218人

実施内容と成果

（公財）宗桂会は日機装（株）の創業者 故 音桂二郎によって設立され、音の母方の系譜にある山川孝次家が代々金沢の地に伝えてきた加賀象嵌の継承発展を図る目的でさまざまな活動をしている。

今回の展示では、初代から三代までの緻密で繊細な象嵌作品を中心に、加賀金工の作品群を展示した。また、最近所蔵されたばかりの二代 山川孝次作「金銀象嵌菊模様壺」もエントランスにて展示し、来館者を出迎えた。

さらに、期間中はホールの一角に宗桂会館近隣の小学校4年生がサマースクールで制作した加賀象嵌キーホルダーも展示した。来場者には、時代によって移り変わる加賀象嵌のさまざまな作品をご覧いただいた。

主な出展作品・作家

金銀象嵌諫鼓形置物（象嵌）、二代・山川孝次／金象嵌牡丹菊文銀瓶（象嵌）、初代・山川孝次／金銀象嵌菊模様壺（象嵌）、二代・山川孝次

関連イベントについて

人間国宝・中川衛 特別講演「金沢の工芸と象嵌」

10月9日（月・祝）｜講師：重要無形文化財保持者（人間国宝）中川衛｜参加者：21人

「彫金」の重要無形文化財保持者である中川衛氏を講師に迎え、「金沢の工芸と象嵌」と題した特別講演を行った。当日は、金沢市主催の工芸イベント「KOGEIフェスタ！」の一環で、宗桂会館へのバスツアーも実施された。特別講演では、金沢の地で江戸時代から続く伝統工芸・加賀象嵌の歴史や技法についてや、作品づくりへの想いなどを聞くことができた。講演後は、中川氏の作品解説で企画展の鑑賞を行い、江戸時代から現代までの続く加賀象嵌の魅力を伝えることができた。

こども工芸・ワークショップ

「加賀象嵌ってどんなもの?煮色着色に挑戦！」

11月3日（金・祝）｜講師：前田真知子［金工作家］／中島ゆり恵［金工作家］｜参加者：4人

「煮色着色」は特殊な着色液で作品を煮ることで、金属表面に薄い酸化膜を発生させる金工の着色技法。

参加者は葉っぱ型の金属に銀線を嵌めこみ、石川県の伝統工芸・加賀象嵌のキーホルダーを制作し、仕上げとして「煮色着色」を行った。キーホルダーのベースに使用した金属は参加者数と同じ4種類を用意し、着色前と着色後で、それぞれどのような色の変化が起こるかを観察した。着色後、金属の色が変化すると参加者からは歓声が起こり、「金属じゃないみたい」「面白い」という意見を聞くことができた。今回、普段はなかなか体験できない加賀象嵌の一連の制作工程を学んでもらうことで、子どもたちに加賀象嵌の技法を深く理解してもらうことができた。

子ども工芸ワークショップ

二代・山川孝次《金銀象嵌諫鼓形置物》

38 金沢市工芸協会

金沢市工芸協会展

［主催］金沢市工芸協会ほか

会場

ガレリアポンテ／ギャラリー点

開催日程

10月25日（水）～11月5日（日）

来場・参加者数

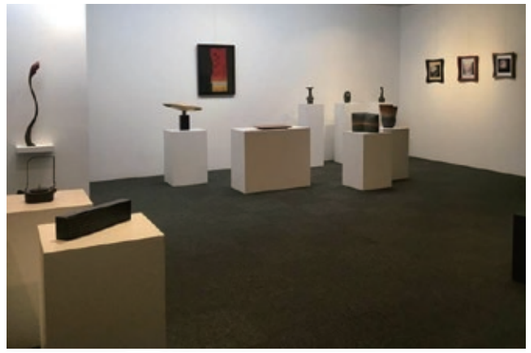
180人

実施内容と成果

金沢市工芸協会会員26名による陶器、染織、漆芸、金工、木工、ガラスなどの作品44点を展示。

主な出展作品・作家

大樋陶冶斎／十一代大樋長左衛門／戸出克彦／千田浩／福嶋則夫ほか



40 一社）芸術支援・地方創造機構

第3回 工芸とアートの金沢オークション

会場

石川県政記念しいのき迎賓館

開催日程

11月3日（金・祝）

来場・参加者数

プレビュー展示：約350人／オークション：約130人

実施内容と成果

プレビューでは、東京・大阪・金沢の3都市で出品作品を展示し、各地で多くの注目を集めて過去最高額の事前入札が集まった。金沢会場では、地元作家が多数レセプションに参加し、地元コレクターと交流を深めるなど、企画が地域に根付いている。チャリティーオークションでは、全出品作品が落札され、合計落札金額約300万円が全額作家に支払われるなど、企画は成功裏に幕を閉じた。前年と比べ、平均落札額が増加し、作品の質の向上が専門家に評価されるなど、企画の充実が見られる。北陸中日新聞・北國新聞・テレビ金沢からの取材も入り、注目度も向上している。

出演者など

登壇者：山野之義［金沢市長］

出品・出演作家：木下幸／中川暁文／塚原梢／加藤正臣／野口健／Song Yeonjoo／長友由紀／ibu／長沢碧／山根貴裕／数永真太郎／石原梓／梅田綾香／藤田創平／AIRA／保木詩衣吏／大森慶宣／井上藍／津田翔一／古賀真弥／三尾瑠璃／小林一麻／浅野恵理子／金俊来／岩坂卓／松尾里奈／石橋咲実／大霜貴由／前田有加里／國木郁子／Arabu-naKei

実行委員：秋元雄史［実行委員長／東京藝術大学大学美術館館長・教授］／真鍋淳朗［実行委員／金沢美術工芸大学教授／認定NPO法人金沢アートグミ理事長］／柴山哲治［オークショニア／一般社団法人 芸術支援・地方創造機構］

主な出展作品・作家

「氷線 一輪さし」保木詩衣吏（ガラス）／「蛙瓜」小林一麻（ガチョウの卵・鶏卵に螺旋、漆）ほか

関連イベントについて

「第3回工芸とアートの金沢オークション」プレビュー展示

10月19日（木）～31日（火）｜金沢アートグミ

「第3回工芸とアートの金沢オークション」に出品される全作品を展示。会場では事前入札も受付。

43 金沢漆芸会

金沢漆芸会展50回記念

金沢漆工比照 加賀蒔絵からの今

会場

金沢21世紀美術館 市民ギャラリーA

開催日程

11月9日（木）～19日（日）

来場・参加者数

13,683人

実施内容と成果

会員作品と、金沢漆芸会企画作品を一堂に展示。江戸時代を直に学ぶ世代から現在のKOUGEIにいたる会員作品の展開を見ることで、今後の蒔絵・漆芸の可能性を見出すことを試みた。キャプション無し裸展示とし、材料・道具も作品と同列に展示。漆工作品に直に触れ、比べ、感じていただけ、好評を得ることができた。

［展示内容］

1）金沢市中で実際使用の設立初期会員作品と現会員作品を一堂に展示、金沢の漆工の多様性と市民の使いぶりを示す。
2）道具材料（研炭、檜箆、刷毛、蒔絵筆、蒔絵粉）
3）「金沢平成漆工サンプル」（現会員制作）未来への漆芸の可能性。
4）会員共同制作
5）「金沢盃」無償モニター期間を経てMy盃の提案。
6）35年間の課題作（暮らしの器提案）
7）会の沿革と活動（金沢漆芸会展／会員共同制作／加賀蒔絵に係る材料と道具／漆の木植栽／優品模造／フォーラム／研修講演会／記念誌／連携事業（二戸市浄法寺／金沢市立中村記念美術館／石川県工業試験場 ほか））

主な出展作品・作家

中野孝一／西村松逸／市島桜魚／清水英姿／下出直司／田中智勝／田中信行／野村大仙／畑宏／村田百川／山村慎哉／師池一貴／荒木宏／江端博行／大下博行／太田敬久／岡裕之／尾川英美子／木内涼／片山雅博／慶塚英信／谷口逸平／鶴田明子／鶴田悦子／福田浩康／藤沢浩明／村谷聡志［物故会員］小松芳光／大場松魚／野村大仙（初代）／田中健智／村田千山／西村松逸（初代）／西村松逸（二代）／藤沢外喜男／寺井直次／砺波宗斎／向井武志／坂下直大／西村健治／清瀬一光（初代）／保谷美成／吉田楳堂／高村表恵／徳山嘉明／宮崎博彰／市島栄吉／池田喜一

関連イベントについて

内覧会

11月8日（水）｜参加者：美術、工芸、行政関係者、連携事業者、お世話になった方々、会員他約60名

列品解説

11月11日（土）｜解説：金沢漆芸会会長 三代西村松逸（優）

金沢漆芸会30周年記念共同制作「平文 冨士 衝立」特別展示

11月9日（木）～19日（日）｜金沢市立中村記念美術館1階

「金沢盃」使って楽しむ美酒美食

10月18日（水）～22日（日）、11月9日（木）～26日（日）｜金沢21世紀美術館 フュージョン21

特別メニューと共に「金沢盃」を使って体験。

46 第64回日本伝統工芸展金沢展実行委員会

第64回 日本伝統工芸展金沢展

会場

石川県立美術館

開催日程

10月27日（金）～11月5日（日）

来場・参加者数

7,332人

実施内容と成果

日本伝統工芸展は、昭和29年から開催している国内最大級の工芸公募展であり、金沢展では今回、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸の7部門の入選作品等621点の中から、重要無形文化財保持者（人間国宝）や受賞者等の秀作、地元北陸の作家を中心とした作品など348点を展示した。また、会期中には、重要無形文化財「鍛金」保持者 大角幸枝氏による記念講演会、工芸作家等による展示作品解説、県内の高校生を対象に重要無形文化財「沈金」保持者 前史雄氏による学校招待講座を行ったほか、小中学生を対象に漆芸教室を開催し、工芸作家の指導で沈金を体験するなど、多くの県民等が伝統工芸の魅力に触れた。

主な出展作品・作家

日本工芸会総裁賞：乾漆箱「流れる」、奥井美奈（漆芸）／高松宮記念賞：半紗織着物「春の川」、山下郁子（染織）／文部科学大臣賞：硝子絹糸紋平鉢「一雫」、安達征良（諸工芸）／東京都知事賞：白器「ダイ／台」、和田的（陶芸）／NHK会長賞：欅造鉢、髙月國光（木竹工）／朝日新聞社賞:透網代花籠「清閑」、河野祥篁（木竹工）／日本工芸会会長賞：彩泥線紋大鉢、宇佐美成治（陶芸）／日本工芸会保持者賞：芦辺姥口釜、角谷勇圭（金工）／日本工芸会奨励賞:蒔絵六角箱「瀑布」、大角裕二（漆芸）

関連イベントについて

記念講演会「金工の世界と私の仕事」

10月29日（日）｜石川県立美術館 ホール

講師：大角幸枝氏［重要無形文化財「鍛金」保持者］

展示作品解説

10月28日（土）～11月5日（日）午前の部、午後の部合わせ会期中延べ15回開催｜石川県立美術館 展示室｜講師：日本工芸会会員 ほか

伝統工芸こども鑑賞コース

児童・生徒が、我が国が世界に誇る伝統工芸の秀品鑑賞、または講演や制作体験をとおして、優れた「わざ」を身近に感じることにより、伝統工芸への理解と興味を深め、豊かな美意識を育むことを目的として実施。

「**伝統工芸学校出前教室**」

10月3日（火）｜輪島市立河原田小学校｜講師：浦出勝彦（漆芸）｜対象：3～6年生 32人

10月10日（火）｜小松市立蓮代寺小学校｜講師：多田幸史（漆芸）｜対象：4、5年生 35人

10月18日（水）｜小松市立稚松小学校｜講師：吉田幸央（漆芸）｜対象：4年生 76人

伝統工芸作家が学校へ赴き、伝統工芸に関する解説等を実施した。

「**こども漆芸教室**」

10月28日（土）｜石川県立美術館 講義室｜講師：西勝廣 ほか｜参加者：小学4年～中学1年生 14人

伝統工芸作家の指導で、小中学生が塗り皿の沈金制作体験を行った。

「**人間国宝の学校招待講座**」

10月31日（火）｜石川県立美術館｜講師：前史雄｜参加者：石川県立工業高校（工芸科）1～3年生 120人

県内の高校生を県立美術館に招待し、人間国宝による講演及び展示作品解説を行った。

47 台湾・金沢現代織物芸術交流展開催委員会

台湾・金沢現代織物芸術交流展 ～テキスタイルアートへのいざない～

会場

金沢21世紀美術館 市民ギャラリーB

開催日程

10月6日（金）～15日（日）

来場・参加者数

7,444人

実施内容と成果

金沢で生まれ育った水利技術者で、台湾の水利事業に尽くした八田與一技師の没後75年を記念した展覧会。台湾・日本の作家33人による現代の織物作品が、台湾と金沢の友好を紡いだ。

糸や布を素材に自由な感性で表現した染め、織り、刺しゅうなど40点を展示。台湾の作家は多くが八田技師が建造した烏山頭ダムに近い国立台南芸術大出身。土地と人の関係をテーマとした作品が目立ち、来場者は八田技師ゆかりの大地で紡がれた織物に見入った。

出演者など

台湾｜［キュレーター］吳佩珊（WU, Pei Shan）［作家］丁昶文（TING, Chaong Wen）／吳有容（WU, Yu Jung）／李玉蓮（LEE, Yu Lien）／侯怡亭（HOU, I Ting）／李偵綾（LEE, Chen Lin）／陳穎亭（CHEN, Ying Ting）／徐薇蕙（HSU, Wei Hui）／陸佳暉（LU, Chia Hui）／張名吉（CHANG, Ming Chi）／康雅筑（KANG, Ya Chu）／鄭安利（CHENG, An Li）／黄文英（HUANG, Wen Ying）／楊偉林（YANG, Wei Lin）／鍾瓊儀（CHUNG, Chiung Yi）／謝宜彣（HSIEH, Yi Wen）

金沢｜［キュレーター］山崎剛［作家］木場紀子／山下郁子／海老ヶ瀬順子／足立真美／藤田優子／小谷るみ／宮越仁美／冨田潤／難波久美子／大高亨／前田博子／モンデンエミコ／寄田茜／岡本昌子／安井未星／弘田朋実／村山祐子／平塚聖子

主な出展作品・作家

《尋覓時光（時の探求）》黄文英（ジャガード織り、手織り）／《荷塘之舞（The dance of the lotus pond）》李玉蓮（マシンステッチダーツ、ヒートセット）《FLOWER》大高亮（紋織）／紬織着物「古の翠」、足立真美（平織、経緯絣）

第25回 漆光会展

会場

大和香林坊店 6階 ギャラリーKOHRIN

開催日程

10月25日（水）～31日（火）

来場・参加者数

408人

実施内容と成果

漆光会は昭和54（1979）年、石川県立輪島漆芸技術研修所で研鑽を積んだ卒業生有志で発足した。連綿と伝わる漆工芸技術や文化を大切にし、現代生活における漆の在り方を考えることを目標としている。結成以来作品展を続けており、25回展となる今回は、大和香林坊店にて茶道具や酒器、装身具など、小品を中心に60点余り展示、販売した。新進気鋭の若手初出品による活性化もあり、また、今回「21世紀鷹峯フォーラム石川・金沢」に参加したことで、会員たちも工芸の課題や可能性について改めて考える機会となった。

主な出展作品・作家

小森邦衛／浦出勝彦／鬼平慶司／柏原由貴子／岸本圭司／坂本康則／塩多淳次／鈴木秀夫／寺西松太／西勝廣／細谷正樹／本田素子／水谷内修／山田千晴

おかげさまで70周年 めいてつ・エムザ

伝統工芸特別展

～日本工芸会 石川支部 正会員による～

会場

めいてつ・エムザ 3階 カトレアサロン

開催日程

11月22日（水）～27日（月）

来場・参加者数

555人

実施内容と成果

鑑賞用から実際に暮らしの中で使って頂ける身近な工芸作品まで、公益社団法人日本工芸会石川支部に所属の正会員による約200点以上を展示・販売。会場では、日本の伝統工芸を支える人間国宝8人を含む日本工芸会石川支部正会員たちによる、こだわりや創作意欲溢れる力強い作品を、ガラス越しではなく手に取り肌で感じる展覧会となった。連日多くのお客様にご来場いただき、特に、実用的な物や小品は好評をいただいた。

主な出展作品・作家

川北良造／前史雄／吉田美統／魚住為楽／中川衛／小森邦衛／二塚長生／中野孝一

暮らしの伝統工芸

会場

めいてつ・エムザ 1階「黒門小路」伝統工芸品売場

開催日程

10月4日（水）～ 11月28日（火）

実施内容と成果

公益社団法人日本工芸会石川支部に所属の正会員から研究会員まで、20名、100点以上の作品を展示販売した。会場では、陶芸・漆芸・金工・染織の4つのカテゴリーの伝統工芸品を展示。観光客が多く来店する“北陸の食・工芸のセレクトショップ「黒門小路」”内の一角を使い、暮らしの中で使って頂ける身近な工芸品を提案し、国内外からの来店者に日本の伝統工芸の奥深さ・幅広さを実感していただいた。また、従来の展示会よりも女性の作品購入が目立った。日常生活でも使えるカップや皿も多く取扱い、出品作家においても女性作家の割合が高かったため、女性ならではの感性のデザインが好評だったためと思われる。他、外国人の購入もあった。

富永和雅・かずよ 染織展

会場

めいてつ・エムザ５階 美術サロン

開催日程

10月4日（水）～10日（火）

来場・参加者数

約200人

実施内容と成果

金沢にて天然素材での手染・手織にこだわり40年、柿渋や草木で染められた多彩な糸を丁寧に織り上げた、優美な染織の世界を展示・販売。季節がら、体温調整がしやすいストール、特に既製品にはないシルクとウール混のやわらかい織りのショールが好評だった。

主な出展作品・作家

絹帯／紬ネクタイ、スカーフ／テーブルマットほか

金沢城・兼六園大茶会出品作品展

会場

めいてつ・エムザ５階 美術サロン

開催日程

10月11日（水）～17日（火）

来場・参加者数

約1,000人

実施内容と成果

毎年開催される「金沢城・兼六園大茶会」は、金沢城内と兼六園内の茶室、その周辺の文化施設内の茶室にて一斉に開催される。県内外より若手・ベテラン問わず公募制にて制作された茶道具を実際に使用し、それらを展示・販売。工芸王国だからこそ実現できる、分野を超えた創造の競演をお楽しみいただき、その余韻をさらにご家庭でもお楽しみいただく企画。参加者は初日、足早に来場され、お気に入りの逸品を手に取っていた。

主な出展作品・作家

「砂張銅鑼」初代魚住為楽／薄器「老松蒔絵棗」松田権六／茶碗 黒 銘「汲古」十代大樋長左衛門／茶碗「千点文筒」石黒宗麿／菓子器「鉄絵鳥文」石黒宗麿 ほか

上端伸也 作陶展 販売・展覧会

会場

めいてつ・エムザ５階 美術サロン

開催日程

10月18日（水）～24日（火）

来場・参加者数

約800人

実施内容と成果

金沢で活躍する九谷焼作家・上端伸也の初個展を開催。マットでやさしいアイボリー色の肌が温かみを感じさせる彼の作品の特徴は、通常の九谷焼とは異なり、つやけしの釉薬を施し、還元焼成せず酸化焼成することでつくられている。新しい革新的な九谷を、フォーラムに合わせて県内外の方へPRした。新しい九谷焼に感動されたお客様に、多くの作品をお買い上げいただいた。県外からのお客様も多く、色々な九谷焼を広める事ができた。

主な出展作品・作家

茶碗／香合／香炉／盃／棗／額 ほか

竹林和美（泥と藍）&
春木弘（とんぼ玉）作品展
販売・展覧会

会場

めいてつ・エムザ５階 美術サロン

開催日程

10月25日（水）～31日（火）

来場・参加者数

約500人

実施内容と成果

染織作家の竹林和美と、トンボ玉作家の春木弘の二人展。奄美大島の泥やオリジナルの本藍から染める、竹林和美の個性的な染物・洋服・和服などを展示販売。同時に泥染めや藍染の洋服にぴったりと寄り添う、春木弘によるとんぼ玉も展示販売。春木弘のとんぼ玉はガラス工芸雑誌にも取り上げられるほどの人気があり、細部までこだわった細工は、観る人を小さな宇宙に誘う。全国の工芸にも興味を広げていただこうと、鷹峯フォーラムガイドブックに掲載したところ、奄美の泥染を見たいとご来店されたお客様も。石川の工芸に留まらず、多くのつくり手たちの思いを広めることが出来た。

大浦陶窯 武末日臣 作陶展

会場

めいてつ・エムザ５階 美術サロン

開催日程

11月1日（水）～7日（火）

来場・参加者数

約500人

実施内容と成果

国境の島・対馬の地で生まれ、神職という肩書きをもつ武末日臣。その傍ら、対岸の韓国で古窯を巡り、李朝時代の井戸・三島・粉青沙器などを研究。陶土作り、釉薬作り、成形、焼成まで一人でこなすことで、李朝らしさに加えて独創性を生み出す作陶を続けている。今回は井戸・三島・刷毛目・粉引などの技法を施した作品を展示販売した。

高麗・李朝の陶磁器は、お茶人に好まれる傾向が強く、多くのお茶人にご来場いただいた。県内外から多くの方々が来場し、日頃あまり見ることのできない、対馬の風土が育む文化を感じられたとの感想をいただいた。

主な出展作品・作家

茶碗／水指／香合／瓶／徳利 ほか

茶道具逸品展

会場

めいてつ・エムザ５階 美術サロン

開催日程

11月15日（水）～21日（火）

来場・参加者数

約100人

実施内容と成果

茶道具に欠かせない各種お道具。特に千家に認められた書付物を中心に、貴重な茶道具約30点を展示・販売。逸品が並ぶ中で、茶道文化の奥深さを勉強。来場者はどの方もじっくりと時間をかけて鑑賞され、金沢での茶道文化の広がりが感じられた。

主な出展作品・作家

茶碗／水指／香合／茶杓／棗／花入／書画幅 ほか

月映セレクト展

会場

ArtShop 月映

開催日程

10月1日（日）～28日（土）

来場・参加者数

103人（うち外国人12人）

実施内容と成果

陶、金工、ガラス、漆の若手作家の力作を一挙に展示。日ごろ展示しない大型の作品をセレクト。

主な出展作品・作家

《story of S》藪内公美（鍛金、彫金、刺繍／2017年）／《story of K》藪内公美（鍛金、刺繍／2017年）／《inter-body～群衆と水のあいだで夢想する～》藪内公美（鍛金、刺繍／2014年）／《時の狭間'15-1》津守秀憲（混合焼成 キルンワーク／2015年）／《胎動'16-15》津守秀憲（混合焼成 キルンワーク／2016年）／《胎動'17-7》津守秀憲（混合焼成 キルンワーク／2017年）／《内観-ふたつの匣-》橋本知成（手捻り、炭化焼成／2016年）／《untitled（1）》橋本知成（手捻り、炭化焼成／2017年）／《untitled（2）》橋本知成（手捻り、炭化焼成／2017年）／《untitled（5）》橋本知成（手捻り、炭化焼成／2017年）／《沈み消える》河野太郎（真土蠟型鋳造／2015年）／《白の景色-蒼に溶ける》河野太郎（蠟、シリコン型鋳造／2017年）／《青花の皮膚》佐藤文（染付／2016年）／《こころ》鵜飼康平（呂色上げ／2014年）／《unknown08》佐野七瀬（打ち出し、卵殻技法、緑青／2015年）

森・神秘・Art ～古き社のかたわらに語りかけるカタチ～

［共催］ArtShop 月映、和田屋

会場

和田屋

開催日程

10月20日（金）～11月19日（日）

来場・参加者数

約150人

実施内容と成果

白山ひめ神社のすぐ横にある老舗旅館「和田屋」での展示イベント。陶・金工・ガラス・漆・染織のアート作品を、日本建築とコラボレーションした。渡り廊下を活用したインスタレーションなど、現代的な工芸アートと古い建築を組み合わせることによって、互いの良さをアピールすることができた。海外からの宿泊客2名を含む多くの来場者があり、作家も当番で在廊して、技法や作品制作の思いを伝えることができた。

主な出展作品・作家

《compass》橋本知成（手捻り、炭化焼成）／《untitled》橋本知成（手捻り、炭化焼成）／《flutter-a fine day-》片瀬有美子（陶芸）／《flutter-milkyway-》片瀬有美子（陶芸）／《Influx》片瀬有美子（陶芸）／《float flower》片瀬有美子（陶芸）／《白に熔ける-そよぐ光-》河野太郎（鋳金）／《白に熔ける-ふりそそぐ光-》河野太郎（鋳金）／《白に熔ける-遠のく光-》河野太郎（鋳金）／《白に熔ける-たたずむ光-》河野太郎（鋳金）／《白に熔ける-光の先-》河野太郎（鋳金）／《珠の小枝-明星草2-》和田真以子（彫金）／《天眉蚕》和田真以子（彫金）／《睡蓮》和田真以子（彫金）／《五色玉》和田真以子（彫金）／《家守》和田真以子（彫金）／《みなも-1》濱口佳純（鋳金）／《みなも-2》濱口佳純（鋳金）／《みなも-3》濱口佳純（鋳金）／《みなも-4》濱口佳純（鋳金）／《みなも-5》濱口佳純（鋳金）／《混混と繋ぐ》百瀬玲亜（漆）／《脈脈と伝う》百瀬玲亜（漆）／《転変の実》百瀬玲亜（漆）／《Amorphous_3》横山翔平（ガラス）／《Amorphous_4》横山翔平（ガラス）／《Amorphous_5》横山翔平（ガラス）／《Amorphous_6》横山翔平（ガラス）／《Amorphous_vessel-1》横山翔平（ガラス）／《サマー、帰り道の石がき》小守郁実（染織）／《ウィンター、帰り道の石がき》小守郁実（染織）／《稚》井上藍（染織）／《老》井上藍（染織）／《手》井上藍（染織）／《化》井上藍（染織）／《露》井上藍（染織）／《流》井上藍（染織）／《混》井上藍（染織）／《茎》井上藍（染織）／《泳》井上藍（染織）／《震》井上藍（染織）

関連イベントについて

ギャラリーツアー

土日祝に実施

藪内公美展「story of ...」

会場

ArtShop 月映

開催日程

11月1日（水）～26日（日）

来場・参加者数

100名（うち外国人2名）

実施内容と成果

鍛金と彫金、さらにそれに刺繍を施すという独特の工法を用いる作家、藪内公美氏の世界観を、十分に紹介できた展覧会となった。特に関東、中部地方の方々の共感を得られたようである。地元のマスコミにも取り上げられ、特集が組まれた。

主な出展作品・作家

《inter-body～驚異的に純粋な宇宙の中で～》／《inter-body～あの瞬間に聞けなかったことがすべて～》／《inter-body～ひとつひとつのものを直接に、それが在るがままに～》／《story of S》／《story of M》／《story of K》／《story of A》／《story of F》／《inter-body～瞬光の翼～》／《inter-body～時を超えていく途～》

51 （株）A.SPACE

加賀指物を知る

会場

A.SPACE（エー・スペース）

開催日程

11月17日（金）※そのほかの日程は、6名以上で開催日時をリクエスト

来場・参加者数

4人

実施内容と成果

A.SPACE gallery の「加賀指物展」に連動し、A.SPACE 2階にてワークショップ「加賀指物を知る」を開催。木工製作体験とあわせ、加賀指物の作品鑑賞と解説、各制作途中のパーツと道具の展示を行った。

指物では、100年、200年の長い間使っていくために、まず塊の木の良い部分を選んで製材。板にしてからもさらに木目を選び、木取りし、製作していく。今回は、まずこの材料を準備するまでの長い過程を理解してもらった。ワークショップでは、針葉樹の吉野杉で「ハガキトレイ」を、広葉樹のくるみやメープルで「一寸の小箱」を製作した。

関連イベントについて

加賀指物展

10月27日（金）～11月30日（木）木曜・金曜※その他の時間は事前申込にて受付

52 金沢九谷ミュウジアム

江戸から平成の九谷ミュウジアム

会場

金沢九谷ミュージアム（九谷焼鏑木商舗内）

開催日程

10月6日（金）～11月26日（日）

来場・参加者数

5,000人以上

実施内容と成果

内蔵を利用したミュウジアムでは、江戸時代から現代にいたるまで鏑木商舗の歴代当主が製造・蒐集してきた九谷焼の貴重なコレクションを常設展示。日本国内での九谷焼の歴史や変遷、そして世界万博などで高く評価されたことにより海外輸出向けの製造が全盛期となった時代の名残も見ることができる。

長町の武家屋敷という立地で、期間中は祝日もあり、多くの来場者があった。

KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY

KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY

KUTANI SEAL（クタニシール）ワークショップ

会場

ACTUS金沢店

開催日程

11月11日（土）、12日（日）

来場・参加者数

6人（3組）

実施内容と成果

工藝を身近に体験してもらうというテーマのもと、上出瓷藝の協力により、クタニシールのワークショップを開催した。普段は北欧雑貨・家具を取り扱っているが、今回クタニシールの商品も陳列させていただき、少しでも地域に貢献できる良い機会となった。ワークショップには3組6名の参加があり、楽しんでいただけた。

KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY

TRES SOFA × 21世紀鷹峯フォーラム

URUSHI・SOFA展示

会場

TRES金沢

開催日程

11月14日（火）～26日（日）

実施内容と成果

ブログ等で告知はしたものの、漆ソファ展示目当てで来店する方はいなかった。展示場所は入って目の前のステージ上。拭漆、蒔地仕上のアームも並べて展示した。たまたま来店してご覧いただいた方からの反応は良く、接客の中で話題になった。SNSの記事では通常より「いいね」の数が多く、発信力を高めればより集客につなげられたかもしれない。

KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY

友禅ストール展

会場

リアル・スタイル 金沢店

開催日程

10月6日（金）～11月26日（日）

来場・参加者数

672人

実施内容と成果

Ams,Tram,Gram（アムストラムグラム）は、石川県金沢市を拠点に創作活動を続けてきた加賀友禅作家、斉藤道代が手掛けるブランド。上質かつオリジナリティのある世界観からひとつひとつ手描きで作りあげられるアイテムは、こだわりの素材、色合い、意匠、その三つの要素が重なり合い、今までの加賀友禅とは異なる「上質な遊び」を感じるものとなっている。

＊10/26に「オリジナルランチョンマットをつくる」ワークショップを企画。8名の参加があり大変楽しんでいただいた。

出演者など

講師：斉藤道代［SAITOSTUDIO代表］

主な出展作品・作家

ストール、斉藤道代（現代）／バッグ、斉藤道代（現代）／帽子、斉藤道代（現代）

KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY

飾る工芸展

会場

縁煌 2階

開催日程

11月14日（火）～27日（月）

来場・参加者数

約150人

実施内容と成果

『飾る工芸展』と題し、“オブジェのように飾り映えする工芸”をキーワードに、金沢を中心とした北陸三県（石川、富山、福井）にゆかりのある若手作家32名が、当展に向けて制作した新作を展示・販売。一般のお客様にも多くお越しいただいたが、今回、空間コーディネーター、インテリアコーディネーター、アート企画会社、建築家等の方々もターゲットとした。予想以上に多くの関係者の方にお越しいただけたことは一つの成果である。また、それらの方々からいただいた声を作家にフィードバックすることにより、今後の展開のひとつとなったのが一番の成果。

主な出展作品・作家

《11月》井上雅子（上絵掻き落とし／現代）／《Tide》小坂未央（ホットワーク、研磨／現代）／色絵金彩金雲ノ皿「天色（あまいろ）／紅桔梗（べにききょう）」西野美香（ろくろ、上絵付／現代）／幾何紋金銀彩角花器、多田幸史（タタラ、上絵付／現代）／《さんかく座の三乙女》櫻谷藍太郎（ろくろ、上絵付／現代）／《てまり》吉村茉莉（ろくろ、上絵付／現代）／香合、池田晃将（螺鈿、蒔絵／現代）／葡萄茶彩描 香炉 丸紋、上端伸也（ろくろ、上絵付／現代）／《雪ん子ブーツ》岸田志穂（染色、刺繍／現代）／《彩り》鍾雯婷（たたら、下絵具／現代）／《花か鳥あるいは獣の壺》清水早希（吹きガラス、金彩／現代）／白金彩槌目文様器、西垣聡（ホットワーク、研磨、白金彩／現代）／《浮遊》釋永維（鍛金、硫化着色／現代）／《flowers/thermography》高橋悠眞（変塗／現代）／赤絵華文玉盃、河端理恵子（ろくろ、上絵付／現代）／《花華蝶》山下紫布（ろくろ、上絵付／現代）／《Compound eyes No.3》堀貴春（鋳込み、削り込み／現代）／《Butterfly/Bird》猪野屋牧子（バーナーワーク／現代）／《独立器官》平戸香菜（鋳造／現代）／《Blooming》北美貴（二俣和紙／現代）／《たも玉杢の宝箱》向信義（指物／現代）／金彩盛色絵 牡丹八哥鳥 花瓶、伊藤由紀子（色絵上絵、金彩／現代）／《Eminentiaの花器》尾崎迅（鋳造／現代）／《elements》石永知美（ろくろ、削り／現代）／花木米 掛け皿、中川眞理子（ろくろ、上絵付／現代）／《Amorphous_vessel-3》横山翔平（宙吹き。／現代）／《菊のリース》清水由佳（つまみ細工／現代）／《時をためる》橋本知成（手びねり、炭化焼成／現代）／金蒔絵桐箱トレィ「五重」、claude（金蒔絵／現代）／《風の便り》中島ゆり恵（彫金、鍛金、錫引き／現代）／《銅の割跡》木瀬浩詞（鍛金 手絞り技法、漆焼き付け／現代）／《虹（Rainbow）》國武恵利子（加賀指貫、水引／現代）

54 金属工芸 加澤美照工房

やってみまっし！ 加賀象嵌

会場

加澤美照工房

開催日程

10月6日（金）～11月2日（木）

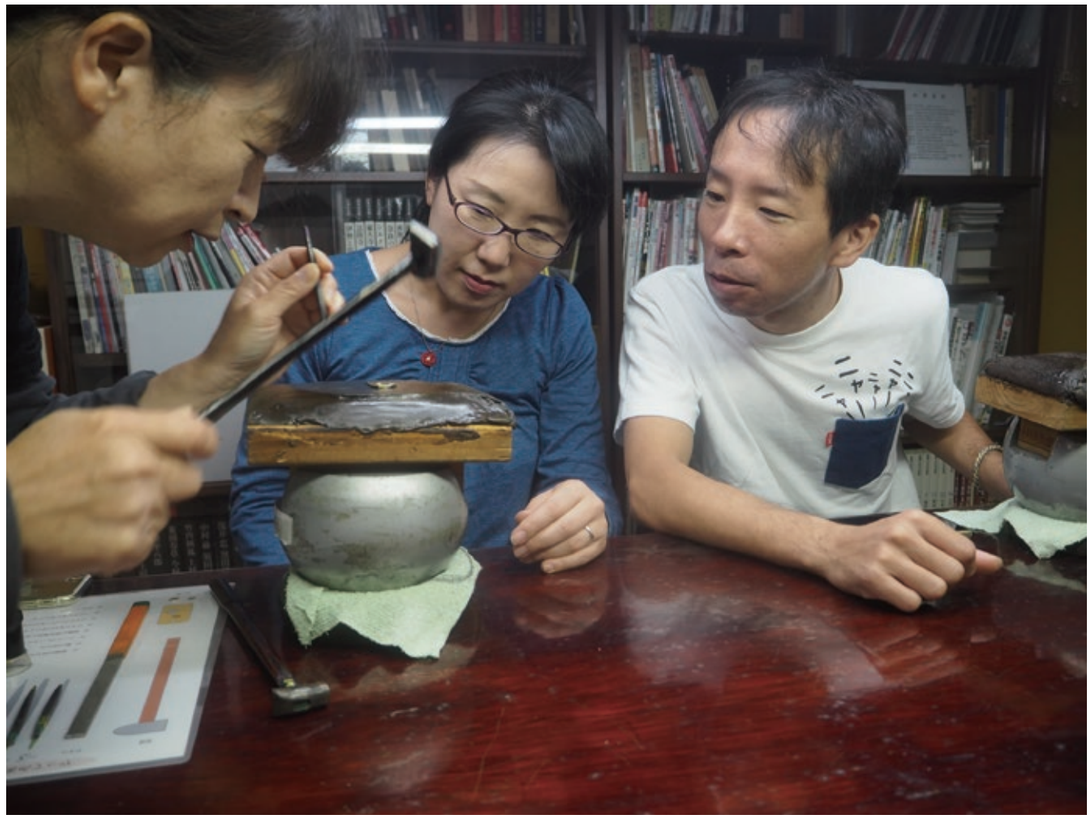
来場・参加者数

11名

実施内容と成果

石川県の稀少伝統工芸である加賀象嵌を知ってもらうため、加賀象嵌独特の技法である「平象嵌」を実際に体験し、知識と理解を深めてもらった。これは模様が彫られた真鍮のプレートに、たがねを用いて銀や銅の板を嵌め込み、磨いて仕上げるというもの。作品は参加者にキーホルダーとして持ち帰ってもらった。

参加者からは「象嵌に使用する道具や技法に興味がわいた」「体験の前後で作品の見方が変わった」「金工作品について理解が深まった」「ディープな体験で難しかったが、とても楽しかった、またやってみたい」とのご意見、ご感想をいただくことができた。



56 セレクトショップ GIO

木村ふみティーサロン

「秋の夜長のテーブル ～真・行・草のしつらえ～」

会場

しいのき迎賓館 1階「セレクトショップ GIO」／「カフェ＆ブラッスリー ポール・ボキューズ」

開催日程

11月3日（金）

来場・参加者数

20～30人

実施内容と成果

食環境プロデューサー・木村ふみによるティーサロンでは、テーブルコーディネートにおける「真・行・草」について、お茶とお菓子をふるまいながら解説。また実際のテーブルコーディネート展示で、その内容を解りやすく説明した。石川の工芸と他の産地の工芸とをミックスしたディスプレイは、石川のモノづくりの技術や世界を見据える包容力を際立たせ、工芸の地「石川」の存在感をアピールできた。また、日本の伝統工芸の若手作家・職人に制作への刺激を与えることができた。

出演者など

展示監修・講師：木村ふみ［食環境プロデューサー］

主な出展作品・作家

《b つめたい水（b-M）》艸田正樹／《e-M 流レニ咲ク》艸田正樹／《e 流レニ咲ク》艸田正樹／《d 水一滴のために》艸田正樹／大棗「黒一閑内朱松笠」㈱西本／香合「布袋竹スリ漆笹内蟻」㈱西本／香合「琵琶形欅内金箔」㈱西本／ピンブローチ「カエル」ガウス／ネックレス「カエル」ガウス／ピアス「カエル」ガウス／欅36 お多福碗「神代」守田漆器／欅36 お多福碗「茜」守田漆器／錦蝙蝠「縁付小皿」たなかふみえ／錦蝙蝠「反煎茶（大）」たなかふみえ／金彩梅千鳥「フリーカップ」たなかふみえ

57 （株）谷庄

金美特別展 2017

［主催］金沢美術倶楽部

会場

金沢美術倶楽部

開催日程

11月2日（木）～4日（土）

来場・参加者数

約1,000人

実施内容と成果

会場となる金沢美術倶楽部で、日本全国の美術商が集まる2年に1度の美術品展示販売会。今年は第10回の節目の会で、全国から35店舗が出展し、茶道具や鑑賞陶器、書画・骨董など多彩な作品を展示即売した。古美術から現代の作家作品まで、各店舗の審美眼が光る品揃えは圧巻。開業3年目を迎えた北陸新幹線の効果も継続しており、全国から多くの美術品愛好家が来場した。また、併設でチャリティー入札会も行い、収益の一部を「NHK歳末たすけあい募金」に寄付した。

主な出展作品・作家

絵志野草花文鉢（桃山時代）／御本茶碗「竜田」（江戸時代）／仁清色絵網代文茶碗（江戸時代）／青貝籠地茶器（江戸時代）／独楽茶器（江戸時代）

58 （株）能作

蒔絵体験

会場

能作

開催日程

10月6日（金）～11月26日（日）

来場・参加者数

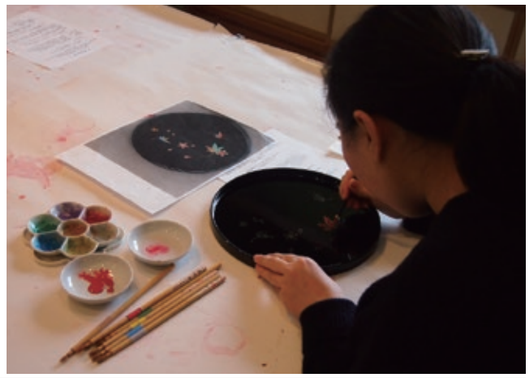
10人

実施内容と成果

代用漆を使用した、かぶれる心配のない蒔絵盆作りを体験してもらった。蒔絵にはいろいろな技法があるが、今回は下絵が描かれたお盆に、筆に漆を含ませて絵を描き、漆が乾く前に、筒を使って金粉や銀粉を上から蒔き、毛棒で掃きかけるというもの。期間中はガイドブックを通しての予約は少なかったが、一般の予約や海外からの観光客など、通常より多くの体験客で賑わった。

出演者など

講師：北山清美



59 箔座（株）

箔押体験

会場

箔座稽古処

開催日程

火曜～土曜（祝日除く）

実施内容と成果

わずか１万分の1mmという薄く繊細な金箔にふれる、金沢ならではの「箔押体験」。子どもから大人まで楽しめるさまざまなメニューを用意し、インストラクターがていねいに案内。参加者は茶屋建築の風情ある空間のなか、落ち着いて箔押しを楽しんだ。

短時間で楽しめる手軽なメニューも導入し、幅広い年齢層に訴求。10、11月は参加者の年齢層がやや上がり、手軽なメニューだけでなく、より濃い内容のメニュー（四季皿、箸&箸置きなど）も選ばれる傾向があった。

60 和傘・水引　工房 明兎

和傘のある風景を金沢に・・・

会場

石川県金沢観光情報センター 催事・展示コーナー

開催日程

11月4日（土）～12日（日）

来場・参加者数

約1,000人

実施内容と成果

今では見る機会の少なくなった和傘を、金沢の玄関口にて展示・実演することにより、見る機会を作ることを一番の目標とした。実演では、傘を張る『張り』、傘骨をろくろに糸でつなぐ『つなぎ』、内なる世界を彩る『千鳥かけ』を日替わりで行った。また、実際に手に取って和傘の重たさや和紙の透け感も感じてもらったり、傘をさしての記念撮影をしてもらったりした。これはSNSでの宣伝効果もあった模様。実際に購入して下さった外国のお客様もあり、成果を実感している。

出演者名など

張りの実演：田中富雄［職人］／張り、つなぎ、千鳥かけの実演：山田ひろみ［職人］

第21回 小松市民茶会

会場

第1会場（裏千家）：仙叟屋敷ならびに玄庵／第2会場（表千家）：小松市民ギャラリールフレ（立礼席）

開催日程

11月3日（金・祝）

来場・参加者数

621人

実施内容と成果

茶道に親しむため、市内3流派が交代で席を持ち、毎年文化の日に開催している小松市民茶会。今年は、表千家と裏千家が担当し、各流派ならではの趣向を凝らした茶席で来客をもてなした。また、茶室「仙叟屋敷ならびに玄庵」が開庵20周年を迎えたことを記念した特別企画をあわせて開催。本陣記念美術館所蔵の茶道具の展示、および各茶席において特別に所蔵品の抹茶碗で茶をお出しするなどのほか、水引細工の体験などを行い、市内外より多くの方々に参加いただいた。

出演者など

第1会場 主:小松裏千家茶道会／第2会場 主:矢吹宗佳［小松表千家松晴会］

関連イベントについて

仙叟屋敷ならびに玄庵開庵20周年特別企画

作家物で一服：本陣コレクションの地元陶芸作家作品で抹茶をいただく／本陣さんの茶道具～名碗拝見～：本陣コレクションの茶碗や茶道具を特別公開（公会堂・ルフレ）／こまつ茶の湯物語：数百年にわたる小松の茶道の歴史を紹介（公会堂）／水引体験：色鮮やかな水引でストラップ等の雑貨の製作体験（公会堂／参加費500円）／仙叟屋敷ならびに玄庵開庵20周年記念　特別記念講演の上映：4月22日にこまつ芸術劇場うららで開催された特別記念講演（講師：茶道裏千家十五代・前家元 千玄室氏）の模様をダイジェスト版で上映（公会堂）

生誕110年　二代 徳田八十吉

会場

小松市立錦窯展示館

開催日程

9月23日（土・祝）～12月3日（日）

実施内容と成果

二代徳田八十吉（1907～1997）の生誕110年を記念して開催した特別展。二代は、「日展」に新たな試みの作品を出品し、「九谷焼業界」の発展にもつくした人物である。これまで取り上げられることが少なかった二代の仕事を振り返るとともに、古九谷の写しに情熱を注いだ父・初代八十吉、二代の精神をさらに進め、「彩釉磁器」で重要無形文化財に保持者（人間国宝）に認定された息子の三代八十吉の作品も並び、歴代の流れのなかで二代の作品が果たした大きな役割も見ることができる構成とした。

関連イベントについて

解説＋ふれて感じる鑑賞会

10月28日（土）、11月25日（土）

展示を観覧後、普段はガラス越しに展示している江戸時代の九谷焼資料（若杉窯資料）を、実際に手にとって鑑賞できるイベント。資料の取り扱い方や鑑賞のポイントのレクチャーもあり、質感や重量などを実感できた。

29 小松市立本陣記念美術館

企画展

艶と煌めきの美　漆工と金工の技

会場

小松市立本陣記念美術館

開催日程

6月20日（火）～9月3日（日）

来場・参加者数

491人

実施内容と成果

本展では、何層にも塗り重ねられた漆の艶と、金、銀、銅、鉄など素材それ自体がもつ金属の硬質な輝きを、漆工品と金工品の作品から比較鑑賞した。伝統的な技法から新しい試みまで、制作者たちが工夫を凝らすことによって、さまざまな変化を遂げる工芸品。その輝きの妙に感動を覚えたという来場者の方も多かった。本展に加え、さらに工芸品のしくみを学ぶ関連イベント「工芸の世界を訪ねて～第1回　漆工芸～」を実施した。

主な出展作品・作家

松竹流水蒔絵鼓箱（漆工）／巌上の松 蒔絵硯筥（漆工）、五十嵐随甫／群鳥漆小筥（漆工）、寺井直次／平文おしどり平棗（漆工）、大場松魚／沈金貝寄棗（漆工）、前大峰／古銅獅子耳花入（金工）／砂張三象花入（金工）、魚住為楽／鉄鎚起獅子置物（金工）、山田宗美／塗金銅花器（金工）、四代秦蔵六／加賀象嵌花瓶（金工）、高橋介州（全て本陣記念美術館所蔵）

兎文蒔絵提重（本陣記念美術館所蔵）

30 能美市九谷焼資料館

開館35周年記念特別企画展

世界を魅了した九谷磁器「鳥を描く」展

会場

能美市九谷焼資料館

開催日程

9月12日（火）～11月12日（日）

来場・参加者数

3,378人

実施内容と成果

明治時代、生産高の7～8割が輸出されていた九谷焼。戦後は日本への「里帰り」（買い戻し）が起きるが、鶏声磯ヶ谷美術館（栃木県）先代館長、磯ヶ谷正道氏は、そうした里帰りのものなどを一代で収集し、質量ともに日本を代表する「ジャパンクタニ」コレクション約2000点を築いた。今回はその中から、酉年にちなみ、「鳥」の描かれた60件（対の作品もあり）を展示した。明治時代の輸出用の九谷焼は、卓越した職人技の細かな絵付けで知られる。また欧米の富裕層の室内空間を彩るために、壺や花瓶も高さ80cmや90cmに及ぶほど大ぶりに作られている。その圧倒的な存在感を、実物を見て体感していただくことができた。

31 石川県立九谷焼技術研修所

ハレの日の九谷

会場

石川県立九谷焼技術者自立支援工房 ギャラリー彩（いろどり）

開催日程

10月27日（金）～11月5日（日）

来場・参加者数

1,135人

実施内容と成果

九谷陶芸村は、美術館や商店が集う観光スポットであり、江戸時代の名品からお手頃価格の日用食器までさまざまな九谷焼が揃う。そのような地で開催した本展では、九谷焼技術研修所を昨年卒業・修了した6名が現代的な作品を披露した。「ハレの日」というテーマのもとに制作した酒器、人形置物、アクセサリー等の数々の九谷焼。手仕事の魅力や独創性溢れる作品は来場者を楽しませ、まつりに華を添えた。

主な出展作品・作家

《中国のてるてる坊主を模した人形置物》綾部史織／《クリスマスパーティーのための食器》石崎菜月／《ハレの日そのものの華やかさをイメージした絵皿》桶屋幸嗣／《正月のための食器》田村梨依乃／《誕生日プレゼント用のアクセサリー》三宅洋希／《祝い事のための酒器》宮本ともみ

関連イベントについて

九谷陶芸村まつり

11月3日（金・祝）～5日（日）

19 石川県九谷焼美術館

鲁山人と初代須田菁華展

会場

石川県九谷焼美術館／鲁山人寓居跡いろは草庵

開催日程

10月28日（土）～2018年2月4日（日）

来場・参加者数

9,582人

実施内容と成果

ともに今年で開館15周年を迎えた「石川県九谷焼美術館」と「鲁山人寓居跡いろは草庵」。今回は両館で北大路鲁山人と初代須田菁華を取り上げ、開館15周年記念特別企画展を企画した。第1会場の九谷焼美術館では「師弟の絆」、第2会場のいろは草庵では「大観時代のわざ」と銘打って展示を行った。鲁山人の作陶は、山代温泉での初代須田菁華との出会いから始まり、晩年までも加賀と関わりがあった。展覧会ではあまり知られていない加賀での鲁山人を紹介することができた。「使う」ことにこだわり、独歩を貫いた二人の作品は、見る人にも「使う」楽しみを提案できたのではないか。

主な出展作品・作家

陶磁器・書、北大路鲁山人／刻字看板、福田大観（鲁山人以前の号）／陶磁器、初代須田青華

関連イベントについて

講演会「鲁山人作品を鑑賞する」

11月12日（日）｜九谷焼美術館2階 ホール｜講師：山田和［作家／鲁山人研究家］

32 石川県立山中漆器産業技術センター 石川県挽物轆轤技術研修所

Japan（漆）Yamanaka2017

会場

石川県立山中漆器産業技術センター（石川県挽物轆轤技術研修所）、山中うるし座

開催日程

10月29日（日）、30日（月）

来場・参加者数

約500人

実施内容と成果

今年で90周年を迎えた山中漆器の展示即売会。山中漆器は分業で制作するため、部門ごとに組合が作られている。この会場でも、木地・上塗・蒔絵の各部門ごとに職人の新作が並べられ、優秀作には県知事賞や市長賞などが授与されていた。

以前は漆器業界の関係者に向けた展示会だったが、今は一般にも解放されている。木地の美しさ、艶やかで滑らかな漆の光沢、繊細な蒔絵に目を奪われる山中漆器。そのような作品の数々を、直接手にとって間近に見ることができる絶好の機会と人気を集めている。来場者の方からも、作りてと話をしながら、良品を市価より手頃に購入できたと好評をいただいている。

主な出展作品・作家

欅造銀線象嵌皿（木地）、川北浩彦／蒔絵毬香合（大）（蒔絵）、師池一貴／四段引出し印籠　深海戦（蒔絵）、山崎夢舟／線文盃《Black's》―くろのいろ―（上塗）、荒川文彦

関連イベントについて

蒔絵皿づくり体験教室

10月29日（日）

本金と天然漆を使って3時間ほどで16センチの蒔絵皿をつくる。完成品は後日自宅まで配送。

参加者：7名

37 加賀 伝統工芸村　ゆのくにの森

金箔まつり

会場

加賀 伝統工芸村 ゆのくにの森

開催日程

10月1日（日）～31日（火）

来場・参加者数

13,000人

実施内容と成果

全国の金箔生産量のシェア99%を誇る金沢。この金沢を代表する特産品の金箔に、もっと「見て、触れて、創って、遊んでいただく」ことをテーマとして、今回の金箔まつりが開催された。ゆのくにの森内の「金箔の館」や「輪島塗の館」を会場に、金箔貼り体験、金箔タトゥー体験、金箔ネイルアート体験など、さまざまなイベントを開催。また金箔貼りの技術紹介や、金沢金箔の歴史についてのパンフレット配布なども行い、来場者の評判もよかった。

秋の伝統工芸まつり

会場

加賀 伝統工芸村 ゆのくにの森

開催日程

11月1日（水）～30日（木）

実施内容と成果

ゆのくにの森には「輪島塗の館」「金箔の館」「ガラス工芸の館」など17の館があり、石川県が全国に誇る伝統工芸品を展示・販売している。また、約50種類以上の伝統工芸体験も実施している。今回の「秋の伝統工芸まつり」では、各館が総力をあげて伝統工芸の魅力や匠の技を紹介した。具体的には、特設平台で逸品ものやおすすめ商品を紹介し、ゆのくにの森ならではのお買い得品を用意するなど、売り場展開を充実させた。また伝統工芸の人、モノ、事の価値を伝えるパンフレットを用意し、高額な逸品ものの展示もおこなった。

20 石川県七尾美術館

所蔵品にみる いしかわの工芸

会場

石川県七尾美術館

開催日程

9月23日（土・祝）～10月22日（日）

来場・参加者数

1,318人

実施内容と成果

当館の中核所蔵品「池田コレクション」には多くの石川県関連の美術工芸品が含まれるほか、開館以来、石川県能登地方に所在する美術館として「能登ゆかりの作品」を幅広く収集している。本展ではそれらの所蔵品より工芸作品をピックアップし、あわせて34点を展示。内容は、江戸時代から現代までにいたる九谷焼や輪島塗・加賀友禅など、石川県を代表する伝統工芸品を中心に幅広く構成した。開催期間は秋の行楽シーズンということで、県外からの観光客の来館が多かったもよう。従って展示点数はそれほど多くないものの、より多くの方々に石川の工芸の多様さ・素晴らしさを知ってもらうことができたのではないかと思う。

主な出展作品・作家

色絵栗図輪花形小皿（古九谷）／色絵山水図富士形小皿（古九谷）／色絵山水図平鉢（吉田屋窯）／色絵山水図瓢形徳利（吉田屋窯）／耀彩鉢「心円」、三代徳田八十吉／釉裏金彩牡丹唐草文壺、吉田美統／緑釉勝ち犬壺、十代大樋長左衛門／カブラ絵合鹿椀／古代朱漆沈金唐花文椀、前大峰／千鳥蒔絵香合、松田権六／潮文、番浦省吾／夏之漁港、木谷信熾／砂張鉦、初代魚住為樂／桑造木象嵌飾棚、氷見晃堂／早春風、谷野吉冬

関連イベントについて

企画展

「能州ガ生ミシ名畫 ～仏画・肖像画、そして等伯と当地ゆかりの絵師たち～」

9月23日（土・祝）～10月22日（日）（「いしかわの工芸」展と同時開催）

室町時代から江戸時代にかけて制作、もしくは伝来した「能登地方ゆかりの絵画」に焦点をあてた企画展。能登七尾出身で桃山時代に活躍した絵師・長谷川等伯やその一門「長谷川派」をはじめ、能登の文人画家・池野観了や山崎雲山、そして地元に古くから伝来する仏画や肖像画など計21点の作品を紹介した。

21 石川県能登島ガラス美術館

特別展 BODY／DRESS

会場

石川県能登島ガラス美術館

開催日程

7月15日（土）～10月22日（日）

実施内容と成果

ガラス素材を用いる女性作家によるグループ展。女性にとってもうひとつの皮膚とも言える「ドレス」を軸に、現代を反映する表現としてのガラス造形の可能性を探ることをテーマとした。米田晴子主任学芸員によれば、「技法の追求というよりは、表現としてのガラスを強調し、作家なりにガラスという素材を広く解釈し表現に用いていることを紹介したかった」とのこと。来場者からは、「女性作家の作品から表出する目に見えない感覚や感情、そして、女性特有の身体性に、深く共感した」という感想をいただいた。

能登島ガラスコレクション

新収蔵品展～ガラスのカタチ～

会場

石川県能登島ガラス美術館

開催日程

10月28日（土）～2018年4月15日（日）

実施内容と成果

平成25～28年度にかけて新たに収蔵した現代ガラス作品を中心に、本館が収蔵する現代ガラスコレクションを展示。現代ガラス作品にみるガラスの多様な表現についてわかりやすく紹介した。

没後50年記念

竹園自耕 ―蒔絵と図案―

会場

石川県輪島漆芸美術館

開催日程

9月9日（土）～11月6日（月）

来場・参加者数

6,107人

実施内容と成果

竹園自耕（1892～1967）は前大峰とともに輪島で初めて帝展への入選を果たし、その確かな蒔絵技術により輪島漆芸の礎を築いた人物である。第二次世界大戦中には材料の確保と技術の保存に大いに貢献した。本展覧会では竹園の没後50年を記念し、帝展初入選後の多彩な作品を紹介した。また、意匠構成のプロセスを子細に物語る図案の数々を展示した。同時代に行われた図案研究などの取組みにも焦点をあてることによって、漆芸作家が互いに研鑽を重ねた当時の輪島の姿を振り返る機会となったといえる。

会期中に2回、当館文化講座「漆文化セミナー」を開催した。

主な出展作品・作家

花鳥文飾筥（輪島市指定文化財）／丸形魚文筥／漆絵衝立／瑞兆文漆箱／伍福天来之図蒔絵九つ組杯・杯台・銚子／春の日漆小屏風／鷗之図丸盆／日本橋蒔絵扇面形飾板　（いずれも竹園自耕作）

国際漆展・石川 2017 輪島展

会場

石川県輪島漆芸美術館

開催日程

11月11日（土）～2018年1月14日（日）

来場・参加者数

3,383人

実施内容と成果

国際漆展・石川は、漆の国際公募展として1989年にはじまり、第11回目を迎える。2002年から輪島展が開催され、今回は3年ぶり6回目となった。毎回、世界の十数カ国から数多くの作品が寄せられており、「漆の新しい広がり」を考える国際的な展覧会として評価されている。

前回に引き続き、今回もアート部門とデザイン部門の2部門に分けて公募が行われ、計176点の応募があった。80点の入選作品のうち、巡回展の輪島では、一部作品を除いた76点を展示した。

主な出展作品・作家

大賞：《いのち》小梛真弓／金賞：《花を紡ぐ》黒木紗世／金賞：《Deep Sea》杉谷三朗／銀賞：《へいわののりもの（おんなのこ）》伊能一三／銀賞：《Ichimatsu 3 Colors》吉田宏之／奨励賞：《禁断の果実》松井圭太郎／奨励賞：《The Animal Carnival》TSELIKOV, Evgenii／奨励賞：《空の皿》工藤祐介／奨励賞：《花．生》（飾りボタン、ブローチ、箸置き等）范建軍

関連イベントについて

2017年度第3回漆文化セミナー「竹園自耕―蒔絵と図案―」
9月23日（土・祝）

「いしかわ文化の日」特別無料開放
10月15日（日）

2017年度 第4回 漆文化セミナー「輪島塗行商ものがたり」
10月29日（日）

輪島市民文化祭「あいの風」協賛 特別無料開放
11月3日（金・祝）～5日（日）

ふれて感じる漆芸技法アレコレ
11月12日（日）

うるしの日 輪島塗で味わう「うるし茶」のおもてなし
11月12日（日）、13日（月）

50年のあゆみ展

会場

石川県立輪島漆芸技術研修所

開催日程

10月7日（土）～15日（日）

来場・参加者数

416人

実施内容と成果

重要無形文化財保持者（松田権六氏、前大峰氏、研修所主任講師ほか）の技術と精神を紹介する特別展とともに、研修所50年の歴史と成果である 研修生・卒業生の作品を約 270点展示した。

主な出展作品・作家

《竹叢》前史雄（沈金）／曲輪造藍対食籠、小森邦博（髹漆）／放射文漆皮箱、増村紀一郎（髹漆）／山紫陽花蒔絵箱、室瀬和美（蒔絵）／栗鼠に葡萄文蒔絵箱、中野孝一（蒔絵）

輪島漆芸技術研修所・香川県漆芸研究所 合同作品展

会場

石川県輪島漆芸美術館／石川県政記念 しいのき迎賓館

開催日程

石川県輪島漆芸美術館：10月7日（土）～15日（日）／
石川県政記念 しいのき迎賓館：11月1日（水）～7日（火）

来場・参加者数

輪島展：604人／金沢展：1,099人

実施内容と成果

輪島漆芸技術研修所と香川県漆芸研究所の各々の卒業生で、現在漆芸界で活躍を続けている作家たちの作品を約70点、合同で展示した。会場は、ギャラリーAが石川県、Bが香川県と分かれ、それぞれに特徴的な技術である、香川県の蒟醤（きんま）、存清（ぞんせい）、彫漆（ちょうしつ）等と、石川県の沈金や螺鈿、卵殻、蒔絵等が紹介された。

来場者には、輪島と香川の研修機関でそれぞれ受け継がれる技法や作風の違いを見比べながら鑑賞していただくことができ、多くの人に研修所の存在と設立の趣旨を広く伝えることができた。また、重要無形文化財伝承者養成施設としての輪島と香川の研修所が、今まで以上に交流を深めることができた。

主な出展作品・作家

輪島漆芸技術研修所：網代市松文箱、小森邦博（重要文化財）／沈金箱「行く方」上野明弘／乾漆造菓子盆「雪月花」國田一春／《スイートメモリー》角康二／沈金箱「ジャスミン」西勝廣
香川漆芸研究所：《山滴る蒟醤箱》山下義人（重要文化財）／彫漆小簞笥「大聖堂のある街」石原雅員／籃胎蒟醤食籠「乱舞」大谷早人／乾漆食籠、竹内幸司／蒟醤存清箱「メジロ・カ・オ・ル」津坂保伸

オープニング・前夜祭

［主催］100年後の工芸のために普及啓発実行委員会、
オールジャパン工芸連携京都／東京／石川金沢実行委員会、
一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

会場

石川県立美術館

開催日程

10月5日（木）、6日（金）

実施内容と成果

10月6日、開幕セレモニーが石川県立美術館で執り行われた。

まず、主催者である「100年後の工芸のために普及啓発実行委員会（石川・金沢）」から、会長の嶋崎丞［石川県立美術館館長］が、「石川県における工芸は、江戸時代から400年の歴史がある。現代の工芸に対して、我々はどう対処していくべきかを考えることが、このフォーラムの目的。60機関にご参加いただき、160を超えるプログラムができあがった。今日から、工芸の一大祭典を展開することになる」と挨拶し、県民、市民の参加を呼びかけた。

続いてテープカットが行われ、「21世紀鷹峯フォーラム第3回 in 石川・金沢ー百万石ものがたり 工芸の祭典」の52日間にわたる幕が切って落とされた。ここから11月26日まで、石川県全域で、美術館・博物館、教育機関から、団体、ギャラリーが連携し、工芸を活かした食や宿にいたるまで、それぞれの視点で多種多様な催しを繰り広げることになる。

開幕セレモニーは盛況のうちに終了。その後、場所を石川県立美術館ホールに移し、オープニングトークが開かれた。来賓の谷本正憲 石川県知事、山野之義 金沢市長より祝辞をいただき、横山勝樹［女子美術大学学長・実行委員会（東京）代表］からは、「工芸を金沢から世界へ発信してほしい」と、石川・金沢開催へエールが送られた。

続くトークセッションの登壇者は、「100年後の工芸のために普及啓発実行委員会（石川・金沢）」の方々。嶋崎会長の進行により、本祭典の意義や未来展望、また、見どころや伝えたいことなどについて、各委員が語るなか、重要な課題も明示された。

さまざまな問題に対し、解決策を考え、具体的にアクションを起こすのが、この21世紀鷹峯フォーラムの目的でもある。最終日となる11月26日（日）に開催されるメインシンポジウムとなる円卓会議で、意見が交わされ、石川・金沢提言が発表される。

21世紀鷹峯フォーラム 第3回in石川・金沢
開幕セレモニー式次第

主催者代表開会宣言（9:30～9:35 @石川県立美術館・正面入口前）
嶋崎丞［石川県立美術館館長／100年後の工芸のために普及啓発実行委員会（石川・金沢）会長］

開幕テープカット（9:35～9:45 @石川県立美術館・正面入口前）
谷本正憲［石川県知事］／山野之義［金沢市長］／嶋崎丞／林田英樹［ザ・クリエイション・オブ・ジャパン代表理事／前国立新美術館館長／元文化庁長官／日本工芸会理事長／100年後の工芸のために普及啓発実行委員会（石川・金沢）副会長］／横山勝樹［女子美術大学学長／100年後の工芸のために普及啓発実行委員会（東京）代表］

オープニングトーク（10:00～11:00 @石川県立美術館・ホール内）

1）石川・金沢大会プロジェクト動画の公開

2）来賓祝辞
谷本正憲［石川県知事］／山野之義［金沢市長］

3）東京～金沢へのエール
横山勝樹［女子美術大学学長／100年後の工芸のために普及啓発実行委員会（東京）代表］

4）トークセッション「鷹峯の未来展望を語る」
林田英樹／前田昌彦［金沢美術工芸大学学長］／山崎達文［金沢学院大学副学長］／川本敦久［金沢卯辰山工芸工房館長］／大樋長左衛門［日展会員／現代工芸美術家協会常務理事／金沢市工芸協会副理事長／陶芸家／大樋美術館館長］／小森邦衛［日本工芸会石川支部／重要無形文化財髹漆保持者］／中田正人［石川県立伝統産業工芸館館長］／浦淳［認定NPO法人趣都金澤理事長］
進行：嶋崎丞［石川県立美術館館長／100年後の工芸のために普及啓発実行委員会（石川・金沢）会長］

5）閉会の辞
林田英樹［ザ・クリエイション・オブ・ジャパン代表理事／前国立新美術館館長／元文化庁長官／日本工芸会理事長／100年後の工芸のために普及啓発実行委員会（石川・金沢）副会長］

メインシンポジウム

100年後に残る工芸のために円卓会議
「工芸と観光」国際会議

［主催］100年後の工芸のために普及啓発実行委員会、オールジャパン工芸連携京都／東京／石川金沢実行委員会、
一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

会場

いしかわ 総合スポーツセンター・サブアリーナ

開催日程

11月26日（日）

来場・参加者数

約160人

実施内容と成果

第1部「円卓会議 会場への三つの問い」
第2部「21世紀鷹峯フォーラム　石川・金沢　成果共有」

第1部「円卓会議　会場への三つの問い」では、ファシリテーター・塩瀬隆之氏［京都大学総合博物館准教授］による誘導のもと、意見交換が行われました。

テーマ1「伝える」とは

工芸品は、言葉で伝えるのがとても難しいアイテムです。見た目を説明するのが「伝わること」につながるのか。産地ごとの細かい違いや特徴をどのよう解説すべきなのか。また丁寧に伝えようとすると、専門用語が増えて伝わらないという問題があります。アンケートの回答から、伝えたい「輪島塗」像、「九谷焼」像はどのようなものか。それらをよく考えたうえで、手に取ってみたいと感じるような言葉、PR表現はどのようなものかを探す必要性を確認しました。

Q1　いかにして伝えるか

Q1-1　工芸の応援団、特別な語り部や、自発的セールスマンをどう増やすか

回答に、「ふるさと納税の仕組みや、企業に対しても寄付やパトロンになると節税になる仕組みを導入する」という、応援する側の意識の向上を促す提案がありました。

「工芸のボランティアガイドの養成」、「工芸伝承士検定」については、期待の声が多いのに反して、「みんなでやろう」という連携による取り組みを支持した人が少ないのが特徴的でした。

「旅に出たらその土地の工芸でもてなしてほしい、という社会気運をつくる」という意見は、多くの人からの支持を得て、具体的な実例や問題点などが挙げられました。

「つくり手も言葉を持ち、説明できるようなる教育や制度を設ける」ことに対しては、「つくり手はもので訴えるべき。言葉で説明すべきではない」という考え方がある一方、不特定多数の人に説明を行うことで、自分が誰に何を提供しているのかが明確になり、つくるものも変わってくる。そういった相互作用のコミュニケーションが、これからの職人やアーティストに求められていることを確認しました。

Q1-2　工芸の英語化は新たなお客さんをつくるために有効であり必要。しかしバラバラで困惑を招いています。

2020年の東京オリンピックに向けて、多言語の課題が生じています。同じ言葉の英訳が訳者、および機関によって異なるため、訪問者が困惑してしまう事態が起きています。例えば九谷焼でも、「Kutani Ware」「Kutani Porelain」「Kutaniyaki Ceramics」など、オフィシャルに10種類以上の訳が生まれています。21世紀鷹峯フォーラムでは、横断的連携を活かし、「工芸英訳ガイドライン整備事業」を行っており、第2部でその報告が行われました。

さらに現場での英訳の苦労や、外国からの来訪者から「英訳のキャプションの意味がわからない」という指摘を受けたといった具体的な問題が挙げられました。「こう読んでほしい」という意図を明確にし、何を届け、共有したいのかについて考える必要があることを確認しました。

Q1-3　ものからことへ、さらに特別な工芸体感へ。

ファン、よき使い手 よき鑑賞者を増やす、さらには人に伝えたくなり、観光にも活用できる「工芸体感」をどうつくるか、実践したいこと、すでにされていること、ご自分で参加してみたいことは?

工芸品を売ろうとするとき、生活体験の中で、その道具はどんな意味を持つのか。使い方を使い手にゆだねるのではなく、実際に使い方を体験してもらうことが大切であるという意見が出ました。一つのアイデアとして「工芸ピクニック」というプロジェクトが紹介されました。

テーマ2「ルールづくり」

この円卓会議で、工房訪問の際のルールや相場観をつくるための議論が行われました。

Q2　工芸と観光　いかにして将来をつくるか
工房に来てほしい? 来過ぎ? 問題

現場見学で、観光客をもてなす時間が日々の作業の妨げになり、困っている事例が出てきています。「現場は生業の場なので、段取りが組まれている。30分でも手を止めると、その日の作業が無駄になりかねない。状況に対する想像力や意識を訪ねる側

が持つべき」という意見が出されました。

本業に集中するために、「コーディネートできる団体のネットワーク化が不可欠」、「コンシェルジュのような見学スケジュールを管理する団体を設置」というシステム化の提案がありました。

また、「観光によって質を落とさない工夫が必要。最近は売りやすくて安価なアイテムばかりが並ぶ。街の文化力をこのまま観光の方向に振ってよいのか。危機を感じる」という指摘がありました。

「工房の見学料を1000円支払うほうがよい?差し支えない?」(Yes／No)、「見学料3000円払う場合に何か、お土産的なものを期待してしまう?見学のみでOK?」(Yes／No)の質問に対しては、「ものづくりの対価としてお金をもらうのはよいが、見学ではお金はとれない」という意見がある一方、「見学の対価を払ってもよいのではないか」という意見に分かれました。また「週に1度、見学日を設定する」、「期間を区切ってイベント化する」、「5000円のツアーに組み込む」といった、バランスをとりながら見学を行う提案がなされました。うち実践事例のなかで、「お客さんは、予約不要、無料が好き。有料化した場合、客側が求めてくる水準が上がることが悩ましい」という意見が出ました。

ルールについては、地方を舞台にした現代美術の祭典では、鑑賞者にまずルール告知している実例が紹介されました。工芸観光においても、ファンの意識や心構えが未成熟だと、誰かが不快な思いをしてしまう。ルールづくりも含めて、お互いを尊重し、価値を共有できるきっかけ、伝わるコミュニケーションのしつらえが必要であることを確認しました。

テーマ3「横断的な発想」

Q3　100年後に残る工芸のために

それぞれ異なる形で工芸に関わる人々がこの3年で意見交換を重ねてきました。ジャンルを超えた横断的な発想や展開の仕方で取り組むと良いと思われる課題や実践できることを挙げてください。

実践について

「ハッカソン的取り組みを『地方』『ALL JAPAN』で行ってはどうか?」という意見が出ました。

課題について

「工芸は産業なのか、文化として残すべきなのか。線引きが難しい」という意見から、自治体の行政区でも管轄が異なり、さまざまな事情や思惑が渦巻いてややこしいという問題が挙がりました。「美術館の中でも、来訪者に対して説明ができる人材を育成すべき」という意見については、学芸員の定義として業務に「観光」は含まれてはいないものの、期待されているのも事実で、人材が必要であれば、それを用意するのも自治体や地域の課題であるといった意見が挙げられました。その土地はどうしたいのか。工芸品を売りたいのか、工芸のある町として観光資源化したいのか。トータルに考える必要があることを確認しました。

3つの視点の提案

日本では観光客誘致が問題になっていますが、欧州では観光客が来すぎて、いかに抑制するかが問題になっています。バルセロナでは観光によって地価が上がり、地域住民も追い出され、質の悪い土産ものの工芸品が溢れています。今後、日本もそういった問題に直面していく可能性があります。対策としては我々も視点を変える必要があるということで、誰のための工芸、観光なのかを真剣に考えるために、

1) 地元の優れた工芸品を見分けるクオリティを見分ける眼差し。観光客の目利きを育てる

2) 工芸や技術の生まれた必然性に着目する。伝統的な工芸は時代の必然。当時の社会背景や自然環境に対する切実な対応だったはず

3) 生活全体を包括的に捉える。作品だけを切り取ると、時代の必然性から切り離されてしまう。今の生活にとって本当に必要なものとは何かをトータルに見ていく必要がある

という3つの視点が提案され、その意味を共有しました。

工芸ピクニック @金沢21世紀美術館

[主催]一社)ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

会場

金沢21世紀美術館

開催日程

10月11日(水)

来場・参加者数

約200人

参加チーム

- 金沢が誇る料亭・金城楼チーム
- 梅山を持ってあつまろう!　陶芸家・中村卓夫(三代梅山)と一般参加者チーム
- IKON　世襲家じゃない工芸家チーム
- 広坂商店街チーム
  金沢の伝統とアートが薫る文化ゾーン
  石浦神社／今井金箔／北山堂＆泉喜仙・山近泰／TOMO／OFUKU／能作／春勢／眞美堂
- 金沢・フランス　蒔絵が繋ぐ宴(縁)シークレットメンバーin KANAZAWA
- 東京ピクニッククラブ(TPC)チーム
  現代のピクニックの姿を提案、世界一のピクニックセットコレクター。多岐にわたるジャンルのクリエーターが集うアーティストチーム
- 会津塗NODATEチーム
  野に漆。
- CoJ(ザ・クリエイション・オブ・ジャパン)＋茶道宗和流　混合チーム

実施内容と成果

「工芸をもっと楽しく、身近に!マイ工芸を持って街に出よう!!」を合言葉に開催された「工芸ピクニック」。金沢21世紀美術館前の芝生の上で、8チーム約80人が九谷焼や山中漆器、蒔絵など、お気に入りの工芸品を持ち寄り、ピクニックを行った。

「工芸ピクニック」とは、飲み物や食べ物とともに、箸や皿など「マイ工芸」を持ち寄ることを目的としたピクニック。日本の各地には、昔から野山に出て食事を楽しむ「野弁当」の文化があった。このイベントは、その野弁当の文化を復活させ、楽しみながら工芸を使っていこうという活動である。

今回のテーマは『見せる＆魅せる』。石川県内外から集まった多彩な8チームによるコンテスト形式で行われた。そして、嶋崎丞[石川県立美術館館長／100年後の工芸のために普及啓発実行委員会(石川・金沢)会長]、島敦彦[金沢21世紀美術館館長]、奈良宗久[茶道裏千家・今日庵業躰]、林田英樹[ザ・クリエイション・オブ・ジャパン代表理事／100年後の工芸のために普及啓発実行委員会(石川・金沢)副会長]、太田浩史[東京ピクニッククラブ主宰]ら5人の審査員と、一般参加者の投票により、優秀賞を選出した。

今回はそれぞれのチームや一般参加者に加え、偶然に美術館へ訪れた人たちや海外からの観光客からの飛び入り参加もあった。ふだん工芸に触れたことのない方たちも、さまざまな工芸品とその使われ方に興味を持ち、一緒に地元の食材や地酒で秋の味覚を堪能した。21世紀鷹峯フォーラムのテーマ「工芸を話そう」の言葉どおり、工芸のよさを味わい、語り合う場となった。

シンポジウム

「茶道から学ぶていねいな暮らし」

［主催］一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

会場

金沢21世紀美術館 シアター21

開催日程

10月12日（木）

来場・参加者数

約80人

実施内容と成果

三つの流派からお招きした3名の茶道家による、現代生活と工芸をテーマにしたシンポジウム。ゲストの茶道家は、地元・石川から茶道裏千家の大島宗翠氏、東京から大日本茶道学会の田中仙堂氏、茶道宗和流の宇田川宗光氏。モデレーターは島敦彦氏にお願いした。

はじめにゲストの3名の活動紹介、次に、金沢21世紀美術館の広場を舞台に行われた「工芸ピクニック」を起点にさまざまな議論がなされ、最後にあらかじめ聴講者より集めたいくつかの質問に答える形で話が展開していった。

茶の精神を通じて、日常の中で工芸を活かし愛しむ技を磨き、工芸のある生活を身近に感じられるヒントがちりばめられたシンポジウムとなった。

出演者など

大島宗翠［石川県茶道協会代表幹事／今日庵（裏千家）］
1966（昭和41）年より現在にいたるまで茶道裏千家教場裏松舎で茶の心を教えているほか、金沢美術工芸大学、金澤卯辰山工芸工房、石川県立輪島漆芸技術研修所の講師として幅広く活動。茶道関連の役職のほか、石川県書道協会会長職も兼任している。地域の文化に貢献する業績が評価されて石川県文化功労賞、金沢市文化賞、文部科学大臣表彰など、多くの受賞歴がある。

田中仙堂［公益財団法人三徳庵理事長／大日本茶道学会会長］
2017（平成29）年1月、第五代大日本茶道学会会長に就任。2013（平成25）年に公益財団法人三徳庵理事長に就任以来、「お茶から広がる和の世界」を提唱し、日本文化のひろがりを、茶道を通じて感じてもらう活動を展開中。つくり手である工芸家と使い手である茶人との対話の中から現代にふさわしい茶道具を提案する場所としての茶道工芸展「仙心会」を、継続的に実施している。2010（平成22）年からは、トークショー「お茶つながりがおもしろい」を開催して、多彩な分野のゲストとの対話を通じて、茶道をより身近に感じてもらおうとしている。

宇田川宗光［茶道宗和流］
1974（昭和49）年東京生まれ。茶道宗和流十八代。十六代 堀宗友に師事して茶道を学ぶ。2015（平成27）年2月に大徳寺・真珠庵の山田宗正和尚の下で得度し、寒鴉齋の號を授かる。宗和流は金森宗和を祖とする茶道の流派で、二代七之助から十三代宗興まで加賀に伝わり、金沢に縁が深い。流儀の活動のほかに、茶室や茶事を体験できる 夜咄Sahanを営むなど、日本文化に触れられるイベントを開催している。

進行：島敦彦［金沢21世紀美術館館長］

おとな工芸見分け方講座

茶の湯に見る漆 見どころ・誉めどころ・極めどころ

［主催］100年後の工芸のために普及啓発実行委員会、オールジャパン工芸連携京都／東京／石川金沢実行委員会、一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

会場

金沢市立中村記念美術館・旧中村邸

開催日程

11月16日（木）

来場・参加者数

約30人

実施内容と成果

棗や塗盆、茶の湯の中で使う数々の漆器。良い道具をいかに深く味わい、楽しむにはどうしたらいいのか。この講座は、工芸に親しみ、さまざまな工芸品を理解することによって、21世紀鷹峯フォーラムのキーワードである「違いのわかる社会をつくる」ことを目的として行われた。

講師は、石川県内の漆器を中心に販売している「株式会社能作」の岡能久代表取締役会長と金沢漆芸会会長の漆芸家・西村松逸氏。使い手とつくり手の立場から、通と呼ばれる塗り物の見どころや誉めどころ、勘どころを指南してもらった。

今回、岡氏には、使い手の代表として茶の湯で使うさまざまな漆器を持参していただいた。会場に並んだのは、地元の金沢漆器をはじめ、輪島塗、山中塗、根来塗など茶の湯の世界で使用される漆器の数々。その漆器について、西村松逸氏が解説をしていった。最後に、岡氏が「名品に重いものはなし」という言葉を取り上げて洗練された金沢漆器の美しさについて述べ、名品の真贋を理解できる人を育てていくことの大切さを語った。

その後、受講者たちに今回の漆器を実際に手で持って、その感触を実感してもらった。「本物を見て、触って、味わう」ことのできた今回の講座。キーワードである「違いのわかる社会をつくる」を実践した企画となった。

出演者など

講師：岡能久［株式会社能作代表取締役会長］／三代西村松逸［金沢漆芸会会長、漆芸家］

連続シンポジウム

「世界の工芸事情を知ろう！ グローバリゼーションと工芸」

［主催］100年後の工芸のために普及啓発実行委員会、オールジャパン工芸連携京都／東京／石川金沢実行委員会、一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

［事務局］株式会社ノエチカ

会場

石川県立美術館（20, 21日）、本多の森会議室（22日）

開催日程

10月20日（金）～22日（日）

来場・参加者数

第1部：約100人／第2部：約130人／第3部：約100人

実施内容と成果

現代美術やデザインとの関連の中で、地域的な色彩を残しながら国際化する工芸。今その価値が改めて評価され、国際的な場で動きが生まれている。今回はそれらを牽引する専門家たちを招き、3回シリーズとなる国際シンポジウムを開催した。文化政策、国際展、クラフトフェア、ギャラリーといった世界に関わる専門家らが、それぞれ関わってきた取り組みについて紹介し、討論を深めた。「美術的価値付け」と「市場創造」という二つの視点によって今日の工芸を読み解いていく、興味深いシンポジウムとなった。

第1部：工芸における文化政策、文化発信
―工芸という地域資源を国際的なフィールドで評価、価値付ける―

10月20日（金）

工芸による地域振興やまちづくりと国際的な文化発信を考えるシンポジウム。主に国や地方自治体などが主導する工芸振興策から、市場主導の国際展やクラフトフェアなど、国際化する工芸について、政策の視点からの最新の事情を紹介した。イギリス、韓国、日本および世界の現場で活躍される方々の経験と、その視点から日本の工芸が世界の方々に理解されるために何が必要か、示唆に富む意見が交わされた。

第2部：美術館とギャラリー ―工芸的な価値を創造・発信する―

10月21日（土）

工芸が国際化する中で、工芸専門の美術館やギャラリーがどのような役割を持ち、いかに工芸の美術的な価値をつくり出し、発信しているのかの様子を伝えた。パネラーはNYを拠点としながら、美術館、ギャラリー、オークション会社という違う立場で日本の工芸に携わる3名のスペシャリストたち。異なる視点から、それぞれの活動についてご紹介いただいた。

第3部：国際展、アートフェア
―工芸の価値と流通の新たなプラットホーム―

10月22日（日）

世界的なマーケットが生まれ、流通しはじめた工芸について、新たな市場創造という視点から工芸を読み解いた。国際クラフトフェアやフェスティバルに関わるディレクター、キュレーターのそれぞれの具体的な取り組みを紹介したあと、会場から質問を受ける形で討論が行われた。

出演者など

モデレーター

秋元雄史［東京藝術大学大学美術館館長・教授、金沢21世紀美術館特任館長］

講演者

（第1部）

ガイ・ソルター OBE MVO［ロンドンクラフトウイーク チェアマン］

チョ・ヘヨン［KCDFアートディレクター／スイスバーゼルトレゾアコンテンポラリークラフト韓国代表］

青柳正規［文化庁前長官／東京藝術大学特任教授／山梨県立美術館館長／東京大学名誉教授］

（第2部）

ロナルド T. ラバコ［インデペンデントキュレーター／元Museum of Arts and Design NY キュレーター］

ジョー・アール［ボンハムズ 日本美術部門 シニア・コンサルタント／元ジャパン・ソサエティ・ギャラリー（NY）ディレクター／元ボストン美術館東洋部主任部長］

青野祥子［一穂堂ニューヨーク ディレクター］

（第3部）

ティナ・ローズ［スコットランド・クラフト・ビエンナーレ2018ディレクター／リアリィインタレスティングオブジェクトCIC ディレクター］

パク・ジュゴン PhD［Korea Craft & Design Foundation（KCDF）キュレーター／チョンジュインタナショナルクラフトビエンナーレ キュレーター］

浦淳［株式会社浦建築研究所代表取締役／認定NPO法人趣都金澤理事長］

関連イベントについて

Kogeiつなぎ手ナイト

10月21日（土）| THE SHARE HOTELS HATCHi 金沢

本シンポジウム第2部開催同日、秋元雄史氏と連続シンポジウムの登壇者を囲んでアフター・パーティーを実施。ギャラリスト、キュレーター、プロデューサー、編集者の皆様にお集りいただき、明日の工芸的な価値をどうしてゆくか、どう発信してゆくか、シンポジウム後の語らいの時間をつくった。

「工芸」英訳ガイドライン

日本の工芸を紹介する媒体は、Webサイト、書籍、美術館・博物館、各店舗、観光ガイドなど多岐にわたる一方で、その用語はバラバラに英訳されている。同じであるはずのものが、英訳時に別のものとして伝わり、多くの混乱を招いている。2020年に向け多言語化が急がれているが、同時に、それはさらに混乱を拡大する可能性があり、いま取り掛かるべき大きな課題と考えた。

日本の工芸に造形の深い海外の専門家、美術館・博物館の学芸員、ギャラリスト、翻訳の実務者など第一線でご活躍の方々の知見を集めながら、英訳時のガイドラインづくりに着手。100人へのアンケート依頼と11月の研究会、個別のインタビューなどをもとに、その基本表記の部分をまとめた。工芸に関する言葉を英訳する必要のある担当者が対象で、英訳をする方だけでなく、翻訳会社、ならびにネイティブに依頼をする方が、依頼時やできあがりを確認する際に注意すべき点を挙げている。

「工芸と観光」自治体調査

観光の視点から、各都道府県市区町村などの自治体は工芸をどう位置づけ、また、いかにして人を呼び込んでいるのか。日本人にも理解が難しいとも思われている、地域に根差した文化や工芸をどのように発信しているのか。工芸を観光の力で輝かせ活性化を図ることを目的に自治体調査を47都道府県152市区町村に実施。各自治体の観光部門、産業としての工芸を担当する商工産業部門、そして美術館や博物館、文化財の保存等を担当する文化振興部門の三つの部署に主旨を説明して協力を依頼。調査票を送付し、38都道府県、71市区町村より回答をいただいた。

つくるフォーラム

成果の発表＋「求め手」による「つくり手募集」プレゼンテーション

［主催］100年後の工芸のために普及啓発実行委員会、オールジャパン 工芸連携京都／東京／石川金沢実行委員会、一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

会場

石川県立美術館・ホール

開催日程

11月17日（金）

来場・参加者数

約40人

出演者など

2016年度成果報告

中上貞明［アクアイグニス「露庵温味」総括料理長］

沼尻寿夫［ウェスティンホテル東京総料理長］

中台澄之［株式会社ナカダイ常務取締役］

進行：長江一彌［一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン クリエイティブディレクター］

プロジェクトアドバイザー：川越仁恵［文京学院大学准教授／一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン アドバイザー］

2017年度公募プロジェクト

tsukuru.×奈良宗久［茶道裏千家今日庵 業躰］:外に出かけたくなる「提げ茶箱（仮称）」協働製作者募集

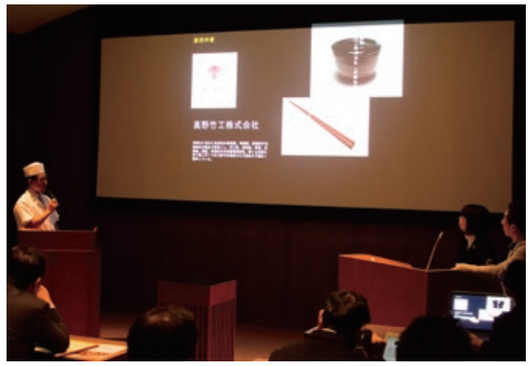
tsukuru.×株式会社伊勢半本店：作家の技が光る「板紅ー現代版リップパレット」協働製作者募集

実施内容と成果

―工芸のものづくり、新たな可能性を求めて―

使い手が欲しいものや条件を「求め手」として先に提示し、つくり手と作品案を公募するソーシャルプロジェクト「つくるフォーラム／tsukuru.」。製品を店頭に並べて売る発想から離れて、使い手の「こんなものが欲しかった」という純粋な気持ちと、思わぬ視点の意外性から生まれる新しいものづくり。同時に、これは創作の力を思いきり発揮できる場を拓いていくプロジェクトである。

2017年までに行われた公募プロジェクト全容の説明、昨年の成果の報告を、求め手自身から発表、そして今年新たに募集する案件の説明を行った。2017年、石川・金沢の求め手である、日本で唯一の紅づくりを続ける伊勢半本店からは、本物の紅を外出先でも使える「携帯可能な紅器（べにき）」を、茶道裏千家今日庵業躰の奈良宗久氏からは「世の中に、お茶を楽しくなる、そのものをつくっていこう」という想いから、「茶箱」ならぬ「提げ茶箱」（仮称）の提案があった。素材・ジャンル、並びにつくり手、プロデューサーなどの立場を問わず、広く募集された。この、ものづくりの本質を問うプロジェクトでは、大きな発見と学びが生まれている。求め手による、つくる側に向けた説明と挑戦の場となった。



絶滅危惧の素材と道具 いま起こっていることシンポジウム

［主催］100年後の工芸のために普及啓発実行委員会、オールジャパン工芸連携京都／東京／石川金沢実行委員会、
一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

会場
石川県立美術館・ホール

開催日程
11月17日（金）

来場・参加者数
約50人

出演者など

登壇者
木戸口武夫［製炭師・名田庄総合木炭］
近藤都代子［元文化庁文化財部伝統文化課主任調査官］
中台澄之［株式会社ナカダイ常務取締役／モノ:ファクトリー代表］
坂井基樹［一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン常務理事］
進行
岩関禎子［一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン専務理事兼事務局長］

実施内容と成果

ものづくりに欠かせない素材や道具の中には、近い将来枯渇が懸念されているものがある。この活動では今まで、連携規模を広げながら、現代に無理のないエコシステムの構築を目指す研究会や、絶滅が懸念される素材や道具リストの集約、さらにこの分野で活路を拓こうと活躍する方を紹介する「NEXT100年」を開催してきた。

2部構成で行われた今回のシンポジウム。第1部では、研磨炭の中でも、もっとも柔らかい駿河炭をつくるただ一人の生産者である木戸口武夫氏を招き、研磨炭を取り巻く課題において、「今、私たちにできることは何か?」を話し合った。

そして第2部では「100年後のために、小さくていいので『循環系』をつくることができないだろうか」をテーマに、使い手、つくり手、つなぎ手、そして買い手という小さな循環系をつくっていくための活動を紹介。来年の第2回イベントでは、さまざまな共同の中で、何か仕組みができないか探っていこうという展望が語られた。

最後に、金沢卯辰山工芸工房から木戸口武夫氏への感謝と、西村松逸氏［漆芸家／金沢漆芸会会長］から三代続く加賀蒔絵での研磨炭への思い、そして駿河炭をつくる木戸口氏への感謝のメッセージが読まれた。

「廃業されるかたの素材と道具を次世代につなぎ活用案をさぐる研究会」
京都
2017年9月5日（火）｜キャンパスプラザ京都
プロジェクトモデレータ:青木芳昭［京都造形芸術大学教授］／塩瀬隆之［京都大学総合博物館准教授］／佐藤敬二［京都精華大学教授］／坂井基樹［編集者／一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン常務理事］

参加者:近藤都代子［元 文化庁文化財部伝統文化課主任調査官］／大藪泰［（地独）京都市産業技術研究所研究フェロー］／下村輝［日本竹筬技術保存研究会主宰／下村ねん糸代表］／浅井俊子［インパクトハブ京都代表理事］／大入達男［経師／株式会社大入代表取締役／京都新工芸研究会理事長］

（欠席・書面で参加）中台澄之［（株）ナカダイ 常務取締役］／吉田治英［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン ディレクター／GK京都顧問／京都新工芸研究会］／小澤泰子［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン ディレクター／オフィスダンドリーナ代表］

野口明嗣［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン ディレクター／那須屋美術店代表取締役社長］／田中孝樹［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン ディレクター／㈱Art Inter 代表取締役］／大隅圭介［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン ディレクター／ Panorama主宰］

オブザーバー:佐藤直子［文化庁文化財部伝統文化課工芸技術部門文化財調査官］／山田隆志［文化庁地域文化創生本部・暮らしの文化・アートグループ チーフ］／神﨑晃平［文化庁地域文化創生本部／暮らしの文化・アートグループ］／吉野亨［文化庁地域文化創生本部／暮らしの文化／アートグループ 芸術文化調査官］／森木隆浩［京都府文化芸術振興課長］

事務局:（進行）岩関禎子［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン専務理事兼事務局長］／藤本弥生［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン事務局］

石川・金沢
2017年12月16日（土）｜石川県立美術館・会議室
出席者:近藤都代子／青木芳昭／嶋崎丞／西村松逸［金沢漆芸会会長］／中越一成［石川県文化財保存修復工房］／川口法男［石川県文化財保存修復工房］

事務局:（進行）岩関禎子／藤本弥生／坂井基樹

「工芸と観光」展望と課題

日本全国の工芸に触れる体験を提供する方の‘点’をつなぎ、日本の観光力にダイナミックな展開を

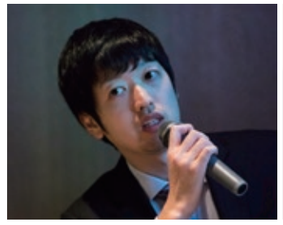
シンポジウム

［主催］100年後の工芸のために普及啓発実行委員会、オールジャパン工芸連携京都／東京／石川金沢実行委員会、
一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

会場
石川県立美術館

開催日程
11月24日（金）

来場・参加者数
約50人



出演者など

全体会議1 登壇者
ハンスピーター・カペラー［ブランディング・コンサルタント］
山田立［株式会社玉川堂番頭／第5回 燕三条工場の祭典副実行委員長］
長田将吾［観光庁観光地域振興部観光地域振興課主査］
山田浩［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン クリエイティブ・ディレクター］
全体会議2 発表者
岩関禎子［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン専務理事兼事務局長］
ファシリテーター
分科会A：林口砂里［アートプロデューサー／エビファニーワークス代表］
分科会B:水野雅男［NPO法人金沢クリエイティブツーリズム推進機構副理事長／法政大学教授］

実施内容と成果

オープンファクトリーやクラフトツーリズムなど、日本のものづくりの力を観光の力に変える取り組みが増えてきました。観光のひとつのアイテムとしての工芸ではなく、工芸によって観光の力を生み出していくために、今すべきこととは。

2017年で5回目を迎えたオープンファクトリーのイベント「燕三条 工場の祭典」。このイベントでは、4日間の会期で5万3千人を超える来場者を動員しました。その取り組みについて、副実行委員長である山田立氏が解説しました。

燕市、三条市の行政、そして産業の中心となっている金属加工工場だけでなく、関連の工場、食品工場、農家などを巻き込んだことを山田氏は説明しました。トークショーや工場ライブ、作業着のファッションショー、さらに職人の説明とともに製造工程を見てもらう工夫をしたと言います。このイベントでの売上金額は、初年度380万円から2017年は3800万円へと10倍に増加。有田や鯖江など全国11の産地間の交流を広げる新しい取り組みも始めていると山田氏は報告しました。

また、山田氏はこのイベントでのメリットを三つ取り上げました。常時見学可能な工場が毎年増えていること。若者の就職希望者の増加したこと。現場を見たことで、価格に納得感を持ってもらえたことです。

そして、ブランディング・コンサルタントのハンスピーター・カペラー氏は、「現地に行くことで、特別な体験ができる。作品のストーリーが味わえることで、思わず買ってしまう」と語り、品物だけを売るのではなく、商品の背景づくりの大切さを述べました。

観光庁の長田将吾主査は、「DMO」を解説。これからの観光産業を、自動車を超える基幹産業にしていくという観光庁の目標を提示。「ブランディングやプロモーションの手法をしっかりと導入していくことが必要」と述べ、DMOを中心としたさまざまな地域振興のための施策に観光庁が支援していくことを述べました。

一方、観光客が急増することへの問題も語られました。カペラー氏は観光客が急増した際の問題として、「公共設備が整っていないと、観光客を受け入れるためのコストがふくらんでパンクしてしまう」ことを指摘。山田氏もレンタカー以外の2次交通、宿泊、食事の面が重要な課題だと語りました。しかし、無理をしない範囲で、「ソーシャル・ネットワーキング・サービスだけの情報で集客するなど、まずやってみるべき」と山田氏は述べ、地域での観光の取り組みの大切さを強調しました。

［分科会A］工芸と観光 現場で困ること解決！ 参加者ワークショップ
技術研鑽したい現場で、観光客に応対することで割かれる時間と手間をどう換算すべきか。お店でない場所で発注した場合の輸送はどのようにすれば?など、観光客にとって、また迎える側にとって悩ましい、現場における悲喜こもごもを共有し、解決策をつくることを試みた。
ファシリテーター：林口砂里

［分科会B］学びの場でも、買う場でも、つくり手と観客が「直接向き合う」のは良策?
双方の意識を整え、あいだを取り持つプロの力を、この時代に改めて活かす必要があるのではないか。工芸がかけがえのない「体験」となるために不可欠な、紹介者、専門家から世話人、地域のボランティアまで、語り部となる存在の必要性を焦点に意見を交わした。
ファシリテーター：水野雅男

「工芸と観光」展望と課題

日本全国の工芸に触れる体験を提供する方の‘点’をつなぎ、日本の観光力にダイナミックな展開を

マッチング交流会・出展者ライトニングトーク

［主催］100年後の工芸のために普及啓発実行委員会、オールジャパン工芸連携京都／東京／石川金沢実行委員会、一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン

会場
石川県立美術館
開催日程
11月25日（土）
来場・参加者数
約50人

出演者など

ライトニングトーク登壇者
岡本嘉明［NPO法人丹波漆理事長／株式会社岡本ファーム］
村本慎吾［漆作家］
浦淳［認定NPO法人趣都金澤理事長／株式会社浦建築研究所代表取締役］
水野雅男［法政大学教授／金沢クリエイティブツーリズム］
北島優［株式会社リビタ ディレクター］
小津誠一［建築家／有限会社E.N.N代表］
貝沼航［漆とロック株式会社代表／NPO法人はるなか漆部会副代表］
山田立［株式会社玉川堂番頭］
山田浩［一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン（CoJ）クリエイティブ・ディレクター／合資会社ワンダーラボアジア］
進行
岩関禎子［一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン専務理事兼事務局長］

実施内容と成果

工芸をテーマにした特別なツアーや体験プログラムなどを行っているさまざまな団体が集まり、交流を深めることで、具体的にファンやパートナーを獲得し、新しい「工芸と観光」のあり方を考えることを目的に開かれました。

全体は2部に分かれ、前半はマッチング交流会とし、各団体がマッチングテーブルを出店。出展者は「①特別性と稀有な体験」を売るプレミアムで通常非公開の内容と、「②定期的に提供できること」の2極を準備して、情報を掲示しました。来訪者は自由にテーブルについて会話できる形式をとり、さまざまな交流が生まれました。

後半は、「工芸と観光」出展者ライトニングトークとし、今回出店した団体を含めた9名が登壇しました。日本のものづくり力を観光の力に変える取り組みや、オープンファクトリー、クラフトツーリズム、プレミアムツーリズムなどの展開が、全国各地に少しずつ増えてきています。その活動や今後の展開、問題点などについて発表、議論しました。

まず、2017年の21世紀鷹峯フォーラムの開催地となった金沢では、複数の市民活動がお互いに連携して、役割分担をしながらまちづくりを行なっています。建築家、研究者、不動産会社などが、自らの専門性を生かしつつ、幅広い分野に目を配り、外からの人々を受け入れながら、まちの将来像を見据えてネットワークを築いている姿が印象的でした。

認定NPO法人趣都金澤の浦淳氏は、「金沢21世紀工芸祭」で行われたおもてなしの事例を紹介し、「金沢は小さな街なので、文化的なものがぎゅっと詰まっており、歩いて5分くらいの範囲をつなぐことで、空間と場所を移動させて、工芸、食、茶を楽しんでもらうことができます」と、金沢の街ならではの、高いクオリティのおもてなしの可能性を伝えました。

金沢クリエイティブツーリズムの水野雅男氏は、アートコンシェルジュとしての大切な点は、「少人数のグループに限定し、非公開のところをエスコート役がついて案内するというプレミアム感です」と話し、温かく血の通ったプログラムづくりには、観光客のニーズのみならず、受け入れ側に対しても、細やかな配慮が必要であると伝えました。

また、ホテルの共有スペースを地域に開き、コミュニティの拠点をつくる事例や、観光や旅の向こうに移住・定住があり、歴史的に貴重な古い町家などの遊休不動産を、建築や工芸の力によって具体的に活用する「芸術創造のインフラレイヤー」の事例は、金沢の文化の蓄積と行動力を示すもので、集う人たちへの大きな刺激となりました。

一方、丹波の漆掻きの復興に取り込み、観光を通して人々の理解を深めているNPO法人丹波漆の岡本嘉明氏は、「通り一遍のツアーではなく、顔色を見ながらどう楽しませるかの意識がないと、人と人との関係は続きません」と、観光やもてなしの原点について語りました。

同じ危機感のなかで会津漆器の産業を支え、少人数制のきめ細やかな産地ツアー「テマヒマうつわ旅」に取り組む、漆とロック株式会社の貝沼航氏は、「現代の大量消費の中で生きづらさを感じたり、安いものを使い捨てにする暮らしに疑問を感じている人たちの気持ちを和らげ、自然とつながる暮らしを取り戻すことは、漆器が現代に果たせる最大の役割ではないかと」と、旅や工芸品の意義について語ります。

2017年秋に第5回目を迎え、4日間でのべ約5万3000人を集客した「燕三条 工場の祭典」を企画している株式会社玉川堂の山田立氏は、産地ツアーにしても、制作体験にしても「本物感がないと意味がないと思う。このイベントが人気を集めている理由は、そのライブ感にあると思います。ちんちん、かんかんの音を聞き、炎の熱を感じる。皆、五感の体感に飢えているのです」と、旅への動機について話しました。また、売り上げ増、就労人口の増加や後継者不足の解消のみならず、就労者のモチベーションのアップなど、開催側にもたらされる目に見えない効果についても、冷静な分析がなされました。

「工芸をめぐる旅」は、何もツアーばかりではありません。公益財団法人東京都中小企業振興公社の事業である「東京手仕事」のプロデューサーの山田浩氏は、東京のものづくりを伝えるために、毎年、支援事業者、支援商品の掲載された美しいカタログを制作しています。「行政がつくるカタログは見ているだけで目が痛くなるようなものが多いのですが、イメージ戦略として美しい紙面をつくることが大切で、ツールづくりや演出も、工芸の発展のための一つの手法であろうと感じます」と、紙面上の旅の可能性について語りました。

21世紀鷹峯フォーラムも3年目を迎え、分野を横断し、お互いの活動をクロスオーバーさせる議論が生まれたことに成熟を感じるとともに、それを支える開催地・金沢の文化における高い密度を感じました。観光という連携を広げるべき分野が大きく広がっていること、この成果が次の連携につながる可能性を強く感じた1日でした。

100年後に残る工芸のために「工芸と観光」国際会議
（日本の工芸の未来をつくる各界リーダーズ＆工芸有識者　円卓会議）　全体要約

日程：2017年11月26日（日）13:00～17:00
場所：いしかわ総合スポーツセンター・サブアリーナ

山﨑秀保［文化庁文化財部長／文化庁長官・宮田亮平代理］
飴谷義博［県民文化スポーツ部長／石川県知事・谷本正憲代理］
細田大造［金沢市副長／金沢市長・山野之義代理］
による祝辞ののち、2015年京都、2016年東京での円卓会議の成果についての報告がありました。

第1部　円卓会議　会場への3つの問い

ファシリテーター・塩瀬隆之氏（京都大学総合博物館准教授）による進行のもと、意見交換が行われました。

塩瀬　「工芸と観光」のテーマの中には、いかにして伝えるかという問題が含まれています。「伝える」と「伝わる」の違いについて考えてみたいと思います。

塩瀬　ホームページを英語化するだけで情報発信が完了したことになると思っていませんか？　インターネット上に情報を発信しさえすれば、世界中の人に本当に見てもらえるのか。どうやってその情報を探してもらうのか。もし英訳がなければ、海外からの検索エンジンにひっかかりません。しかし、同じ日本語であっても、因州和紙や小千谷ちぢみ、会津塗を知らない人は、どうやってその工芸品の名前を検索すれば良いのでしょうか。ただ発信することと、その情報を必要とする人に本当に届いているのかは別です。ただ「伝えた」だけになってはいないでしょうか？　この円卓会議の場で、届く言葉を探していきたいと思います。

壱の問い

会場への問い
「ご自身、あるいはお住まいの地域の工芸品のPRポイントを一言で言える？　言えない？」（Yes／No）
「ご自分の地域、もしくはご自分がかかわる土地の工芸を、第三者に一言でPRしてください」（用紙に記入）

塩瀬　お手元の用紙にご回答ください。工芸品は、他の商品に比べると、その感動を伝えるのが難しいアイテムです。回答は第2部のレビューでご紹介させていただくことがあります。

会議事前調査「100年後に残る工芸のために」を共有
（本日の会議出席者のうち、工芸有識者40人よりご回答）

Q1　いかにして伝えるか

Q1-1　工芸の応援団、特別な語り部や、自発的セールスマンをどう増やすか

塩瀬　工芸の応援団を、どう組織すれば良いのか。いろいろな形の応援団があると思います。土地土地の工芸の魅力を、実際に語って宣伝、アピールしてくれる人を増やしていきたい。工芸をおすすめする味方を増やす作戦です。

事前回答
歌川貴［三菱地所株式会社］（個人として返答）
「ふるさと納税の仕組みを、工芸活動にも活用する。企業に対しても寄付やパトロンになると節税になる仕組みを導入する」

塩瀬　企業、地域に対して応援する仕組みを考える。プレミアム応援団のつくり方とその仕組みについての提案がありました。応援する側がもっと意識していけば、その輪も広がるという貴重な意見です。

事前アンケート結果
①工芸のボランティアガイドの養成
「その土地ならではの形や色が、特有の植生や素材の歴史の由来であることを語ることができる、『工芸伝承士』検定といったものを地域単位で開発、一般の参加を促す」
- みんなでやろう◎　12人
- 自分はやる○　36人
- 現実味がない×　2人

塩瀬　工芸のボランティアガイドに対する期待の声が多いのに反して、「みんなでやろう」という連携による取り組みを支持した人が少ないのが特徴的でした。

事前アンケート結果
②食や宿、もてなしの場における地域工芸の活用を奨励する
「『旅に出たらその土地の工芸でもてなしてほしい』という社会気運をつくる」
- みんなでやろう◎　30人
- 自分はやる○　26人
- 現実味がない×　0人

塩瀬　ある土地を旅したら、その土地の食や工芸品でもてなしてほしい、という期待を感じたことはありませんか？　多くの産地では、その土地の工芸品の器で食べられる飲食店が1～2軒しかないために、メディアではいつも同じところが取り上げられています。連携してこの気運をつくっていきたいと思います。

事前回答
二木裕子［小松市立博物館］（個人として返答）
「工芸展にあわせて町中のお店で地元工芸品を使ってもらい、まち歩きMAPをつくって配布」
会議での発言　当館では、九谷焼の特別展の開催に合わせて、飲食店に九谷焼の器を提供し、「九谷の器で食べられる店マップ」を配布し、食事を楽しんでいただくプロジェクトを展開しています。問題は、実施店舗を探して協賛を得ることと、つくり手から器の提供を受け、お店に届ける仲立ちを務めるのが、行政では難しい点です。そこで実行委員会を立ち上げました。実際に使っていただき、つくり手の方に「この器は、使い勝手がよかった」「ここが問題だった」といった現場の視点を伝えることができました。お客様からは「常時あるとよいイベント」という声を聞いています。

塩瀬　こういった具体的な事例を共有できるとよいと思います。

事前アンケート結果
③「説明できる」つくり手の養成
「素材に重きをおく文化を活かし自分の作品に用いている素材や技術を、その由来や地域史、自然条件などの背景をふまえた説明が、つくり手本人にもできるように、教育や制度を設ける」
あらゆるところで連携して取り組むべき、自分でも実践したい◎　34人
- 良い・協力したい○　24人
- 賛同できない、現実味がない×　1人

塩瀬　つくり手自身も説明をする機会があってもよいのではないか。工房に訪ねてきた一般の人のみならず、問屋さんやギャラリストなどの中間業者にも、その工芸品の特徴を分かりやすく伝える必要があるのではないか、という意見に対する設問でした。

事前回答
西村松逸［金沢漆芸会］（個人として返答）
「つくり手は基本的には語るべきではありませんが、時には語ることも必要」

事前回答
中台澄之［モノ：ファクトリー］（個人として返答）
「伝える→伝わる表現へ。他業種とのコラボの推進」
会議での発言　群馬県で産業廃棄物処分業の中間業社を経営し、現在99パーセントのリサイクルを達成しています。午前中にナカダイの工場を見学、午後に富岡製糸場に行くというバスツアーまであります。環境施設の見学という意味のみならず、世の中の全産業の廃棄物を取り扱っていることから、「世の中の仕組みを理解できる施設」であることをPRするとともに、分解して部品を取るのが仕事なので、パソコンの解体や蛍光灯の粉砕などのアトラクション的な楽しみを意識しています。同業他社と比較して、「当社はリサイクル率が高い」とアピールするより、異業種の方々に、いかにていねいに伝えるか。伝わるようにメディアに情報を出すことを意識しています。継続していくと、最近では群馬県の『るるぶ』に、「モノ：ファクトリー」が廃棄物処分場として掲載され、親子連れが来るようになりました。

塩瀬　不特定多数の人に説明をすることで、自らの位置づけも明確になります。「つくり手はもので訴えるべき。わざわざ言葉で説明すべきではない」という考え方もありますが、最近はアーティストも職人も、言葉で説明する方向に変わってきています。何も知らない人に、どういう言葉が伝わるのか。どんな言葉を投げかけたら良いのか。それを考えることにより、自分が誰に何を提供しているのかが明確になり、つくり方、つくるものも変わっていきます。そういった相互作用、キャッチボールによるコミュニケーションが、これからの職人やアーティストに求められていることだと思います。

Q1-2　工芸の英語化は新たなお客さんをつくるために有効であり必要。しかしバラバラで困惑を招いています。

塩瀬　2020年の東京オリンピックに向けて、多言語の課題が生じています。そのとき、同じ言葉の英訳が訳者、および機関によって異なるため、訪問者が困惑してしまう事態が起きています。海外で日本の美術館・博物館の魅力を発信し続けているソフィー・リチャード氏から、この英語化についてのメッセージが届いています。簡単にまとめると「せっかく日本には魅力あるものがたくさんあるのに、いざ解説を読みたいと思っても日本語表記しかなくて、もったいない。そもそも魅力があるのだから、伝える努力をしてほしい」という応援メッセージです。

塩瀬　さらに英訳されていても、それぞれの施設でバラバラの言葉を使っており、同じものなのか、違うものなのか分からないという問題があります。例えば九谷焼でも、「Kutani Ware」「Kutani Porelain」「Kutaniyaki Ceramics」「Kutani Chinaware」など、オフィシャルとされるものだけでも10種類以上もの訳が生まれています。ここまでバラバラだと、検索してもヒットする可能性まで低くなってしまいます。

塩瀬　翻訳自体の難しさもあります。和製英語にしてその言葉を残したいのか。完全に訳して実態を伝えたいのか。誰に届けたくて、どういう誤解を避けたいのか、といった目的なくして翻訳はできないはずです。鷹峯フォーラムでは、横断的連携を活かし、「工芸英訳ガイドライン整備事業」を行っています。皆様が本当に伝えたいことは何か。ガイドラインは、そのことを見つめ直すきっかけを与えてくれます。進捗を第2部で報告しますが、皆様の期待や意見を伺いたいと思います。

事前回答
木下博夫［京都国際会館］
「世界博物館大会（ICOM）の活動として十分な連携をとっていきたい。」
会議での発言　第1回の京都での円卓会議を、私どもの国際会館で開催していただきました。2019年9月、京都で第25回世界博物館大会が開催されます。世界博物館大会は、ICOMが3年に一度、加盟国において開催する世界大会で、約1週間にわたり総会、基調講演、シンポジウムなどが行われ、世界各国から約3000人の博物館専門家が集まります。それぞれの国の大会で、これまでも「国の文化予算の増加」「ビッグデータの整理」などの成果品を残してきています。日本における世界博物館大会に向けて「工芸英訳ガイドライン整備事業」をぜひ進めていただきたいと思います。その時に、ワードの整理に終始せず、コミュニケーションを図ることで工芸に対する関心を高めることを重視したいです。できれば2019年9月までにこの運動の区切りをつけるくらいのスケジュール進行だとうれしいと思います。

事前回答
藤田京子［本陣記念美術館］（個人として返答）
「金属の素材の判断／自館の中でも展覧会によってバラバラな英訳／漆芸の技法名／基本となるガイダンスが欲しい（切実です）」
会議での発言　当館でも展示替えごとに苦しみながら英訳のキャプションを作成しています。金属の作品でも、そもそも素材が銅なのか、銅合金なのか、もしかして鉄なのか。日本語レベルで悩んだ上に、さらに英訳するときも、四苦八苦しています。同じことが漆でも起きており、漆は蒔絵、沈金などの技法が多く、皆様が英語表記をするときに、何を参考にされているのかお聞きしたいです。また展示のキャプションと図録の英語が違うという例も見かけます。この事前回答を書いていたとき、たまたまブラジル出身の小松市の国際交流委員の人が訪れ、日本画の展示を熱心に見られたあと、帰り際に「キャプションを読んでも、よくわからなかった」と言われました。そしてリストを持ち帰られて「訳してみます」と言ってくれました。新しい訳と照らし合わせてよく考えてみたいと思います。

塩瀬　2019年や2020年という目標を設定し、時間を区切ることも大切です。また、キャプションについては「こう読んでほしい」という意図があると思います。何を届け、共有したいのか。何が伝わったら伝わったと感じられるのか、について考える必要があると思います。

塩瀬　工芸品を売ろうとするときに、生活様式、使い方まで届けないと伝わらない。生活体験の中で、その道具はどういう意味をもつのか。文化様式、暮らしそのものに触れたり、工房でつくる過程を見せたり、実際に体験してもらうことが大切だといわれます。しかし工程の都合上、実際に体験できるのは絵付けだけで、やっていることはお絵描き教室と同じ、といった問題が生じています。本当は何を体験してほしいのかについて考える必要がありそうです。体感の方法にもいろいろな手段があると思います。

Q1-3 ものからことへ、さらに特別な工芸体感へ。

ファン、よき使い手 よき鑑賞者を増やす、さらには人に伝えたくなり、観光にも活用できる「工芸体感」をどうつくるか、実践したいこと、すでにされていること、ご自分で参加してみたいことは?

事前回答

小津誠一［株式会社E.N.N］（個人として返答）

「伝統工芸×伝統的食文化だけでなく、よりカジュアルあるいは前衛的な体験の場を充実させる」

塩瀬　使い方を使い手だけにゆだねるのではなく、その体験自体を疑似体験できる場があれば、家に帰ってからも、それをやってみたいと思う機会が増えそうです。一つのアイデアとして「工芸ピクニック」というプロジェクトを紹介していただきます。

事前アンケート結果

「工芸ピクニック」

- あらゆるところで連携して取り組むべき、自分でも実践したい◎　15人
- 良い・協力したい○　34人
- 賛同できない、現実味がない×　2人

塩瀬　「工芸をもっと楽しく、身近に! マイ工芸を持って街に出よう!」というコンセプトのもと、食材とともに、自分のお気に入りの工芸品を持ち寄り、ほめたたえあう、という場をつくる試みだそうです。第二部で詳細をご報告いただきます。

塩瀬　工芸ピクニックの参加者から「“楽しい”は最強の工芸振興ですね」という声を聞きました。気難しい顔をした人に歴史を説明され、名前を覚えて帰るのが本当の工芸体験なのか。何を使ったのかあまりよく分かっていなくても、楽しくて最後に「どうしてもこれを持って帰りたい!」と思わせる方が真の工芸体験かもしれません。方法の一つとして、皆様と共有したいと思います。

弐の問い

塩瀬　この円卓会議で、工房訪問の際のルールや相場観をつくりましょう。

Q2 工芸と観光　いかにして将来をつくるか 工房に来てほしい? 来過ぎ? 問題

塩瀬　工芸体験は楽しそう。でも人がたくさん来てくれても、それはそれで困ることがあります。多くの人に見てもらいたいが、人が来すぎて仕事が成り立たなくなってしまっては、本末転倒です。労力と時間を使ってお迎えしても、何も買ってくれなかったり。しかし来なくても良いのかといえば、それはそれで寂しい。ルールや相場観を共有したいと思うのが二つめの問いです。

事前回答

中村卓夫［陶芸家］（個人として返答）

「金沢の工芸が観光によって、質をおとさない工夫が必要」

会議での発言　観光と工芸のクオリティの問題は、ここ金沢では何度も問われてきました。つくり手側のクオリティについては、デザイン支援、あるいは製作指導なども、他の町に比べると相当充実してきており、さほど心配はしていません。ただし、自分が金沢に生まれ育った体験から申しますと、金沢の街を歩いていると、幼い頃から、古美術商や瀬戸物屋のショーウィンドウに、普通に野々村仁清や尾形乾山の器が並んでいたものです。そういったものがすべて消え失せて、最近は売りやすくて安価な醤油注ぎが並んでいる。この街の文化力を単純に、このまま観光の方向に振ってよいのか。そういう意味での危機を感じはじめています。

塩瀬　観光災害という言葉があります。家賃が高騰して住民が住めなくなり、飲食店の価格が上がって外食が楽しめなくなる。傍から見ると潤っているように見えても、暮らす人たちは結果、町を離れ、誰が幸せなのか分からない。人が集まるのは大切だけれども、どんな集まり方をしてほしいのか。町の人々の同意、もしくはビジョンのないところで、多くの人が集まっている状況をどう考えればよいのでしょう。

塩瀬　同じ意味で、ものづくりの現場見学は楽しい体験ですが、観光客をもてなす時間が、日々の作業の妨げになり困っている事例があります。例えば愛知県瀬戸市の瀬戸・本業窯の水野雄介氏によると、最近は心ない観光客もいて、このくらいは持って帰ってもよいのではないかと、勝手に工房のものを持ち帰ったり、仕事道具を破損してしまったりする人もいると聞きます。窯元にとってみれば死活問題です。

事前回答

山崎達文［金沢学院大学］（個人として返答）

「“見せてくれるもの”、“見たい”というのは一方的な感覚。職人さんが1時間手を止めて対応するということは、1日がパーになることへの想像力の欠如。メディアは特にそういった点は留意すべし」

会議での発言　ものづくりの現場は面白く、それが調査研究であれ、取材紹介であれ、興味関心であれ、そこに出向いて何かを見たい、聞きたいという気持ちはよくわかります。しかし現場は生業の場なので、今日はこう、明日はこうという段取りが組まれています。30分でも手を止めると、その日の作業が無駄になりかねない。サラリーマンではないので、そのぶんの上がりはなくなる。そういった状況に対する想像力や意識を訪ねる側が持つべき。仁義やマナーの感覚が必要だと思います。

事前回答

松本和也［北國新聞社］（個人として返答）

「工芸が生まれる過程を見てもらうことには大きな意義がある。コーディネートできる団体のネットワーク化が不可欠」

事前回答

周恩敏［京都国立博物館］（個人として返答）

「コンシェルジュのような見学スケジュールを管理する団体を設置」

塩瀬　本業に集中するために、誰かがコーディネート、もしくはスケジュール管理を専門に行う部門をつくるという提案がありました。さらに工房の見学を有料化するのはどうか。一部の施設ではははじまっていますが、ものをつくって、その対価としてお金をもらうのはよいけれど、そんなことでお金はとれないという意見もありました。正直な相場観を知りたいと思います。

会場への問い

「工房の見学料を1000円支払うほうがよい?　差し支えない?」（Yes／No）

「見学料3000円払う場合に何かお土産的なものを…期待してしまう　見学のみでOK」（Yes／No）

塩瀬　見学の対価を払ってもよいのではないか。また週に1度、見学日を設定する、もしくは5000円のツアーに組み込むことも考えられます。無秩序に来られるのが困るわけで、見にくる側もそれなりの覚悟をして来てほしい。どんな仕事をして、どんなサイクルの中で時間を割いてくれているのか。見学者にも考えてほしい。バランスをとりながら進めている事例を紹介します。

塩瀬　一昨日の工芸と観光をテーマにしたシンポジウムの中のセッションで出てきた案です。

11月24日（金）工芸と観光DAY1・分科会においての案

1. 視察有料化（料金設定?　浄財箱?　応援するクラウドファンディング?）
2. 予約制
3. 限定会期のみ解放
4. アレンジする組織
5. 「マナーおばさん」

塩瀬　工房ではクレジッドカードが使えないという問題もあります。スペインやシンガポールでは、片田舎のお店でも、iPadに接続するクレジットカード読み取り機が普及しており、現金を使わない国も増えてきています。スウェーデンでは7割、8割がキャッシュレス。その国の人が日本の工房に来て、購買意欲が沸き立ったとしても、買い物できません。

事前回答

山田立［燕三条・工場の祭典／株式会社玉川堂］（個人として返答）

「お客さんは、予約不要、無料が好き。有料化した場合、客側が求めてくる水準が上がることが悩ましい。」

会議での発言　新潟の燕三条は金属加工を中心とするものづくりの町です。5年前から秋の4日間、100余りの参加事業所を開放し、ガイドブックとマップを配布して、お客さんにまわってもらうという「工場の祭典」というイベントを行っています。今年はのべ5万4000人弱のお客様を迎えました。受け入れ側はそろそろいっぱいで、駐車場が足りない、本当に見たい人が見られないといった問題が出はじめています。来年以降は、コアでディープなファンに繰り返し来てもらえるよう、有料化、会員制にすることも検討しはじめました。しかし値段をつけると、「こんなに払ったのにこれだけ?」といった話や、お土産の期待感などが出てきて悩ましいと感じています。しかし現場を見せることで、お客様との距離が縮まる実感があり、吟味しつつやっていこうと思っています。

塩瀬　地方を舞台にした現代美術の祭典では、鑑賞者に、まずルールをお知らせしているそうです。

事前回答

永峰美佳［編集者／ライター］

「生活や生業に旅を持ち込むことはある種の暴力。マナーをつくることで思いやりをもって旅ができるようになる」

会議での発言　瀬戸内国際芸術祭、大地の芸術祭、奥能登国際芸術祭のガイドブックの編集に携わっています。ガイドブックの中では「芸術祭をめぐるための9つの心得」という形で、守ってほしい内容を明文化しています。口煩そうで行く気が失せる、大人への注意もどうか、という意見もありましたが、第1回の芸術祭の閉幕以降のガイドブックに記載するようになりました。ポイントとしては、主催者側の思惑、住民の願いのみならず、「スムーズにまわるためのポイント」を盛り込むことで、読む意欲を高めること。「〇〇してください」という強制的ないい方は一切せず、「〇〇しよう」という呼びかけの形にしています。人の生活や生業といった「日常」の中に、旅という「非日常」を持ち込むことは、迷惑を通り越して暴力なのではないか。議論では、民俗学者の宮本常一氏の『調査されるという迷惑ーーフィールドに出る前に読んでおく本』という本を参考にしました。他者の領域に入る前に、その場所のルールがあることを意識してほしいという意図に基づいています。

塩瀬　サッカー観戦でも、サポーター同士、暴力的な行為、人種差別的な発言や応援をしないという観戦のルールがあり、ファンのあいだでコミュニティが成り立っています。工芸観光においても、ファンの意識や心構えが未成熟だと、誰かが不快な思いをしなければならない。ルールづくりも含めて、お互いを尊重し、価値を共有できるきっかけがほしい。「感じ取ってください」では届かず、伝えなければわからない。工房見学がテーマパークのアトラクションの一つと思われる可能性すらある昨今、伝わるコミュニケーションのしつらえが必要なのだと思います。

参の問い

Q3 100年後に残る工芸のために

それぞれ異なる形で工芸に関わる人々がこの3年で意見交換を重ねてきました。ジャンルを超えた横断的な発想や展開の仕方で取り組むと良いと思われる課題や実践できることを挙げてください。

塩瀬　京都、東京、金沢という3カ所を巡ってきた鷹峯フォーラム。分野にかかわらず、本来は腹を割って話すべきこと、こういう共有の場があれば、この話もしておいたほうがよいのではないか?　という腹案があれば教えてください。

会場への問い

「産業の観点、観光の観点から、異なる立場の人が集まって議論すべき課題が他にも思いつく?　思いつかない?」（Yes／No）

「この3年間、工芸に関わるさまざまな人がジャンルを超えて横断的な議論を進めてきました。英語化の協力や工房見学の相場観以外にも、さらに取り組むべきであると思われる課題や実践できることを挙げてください」（用紙に記入）

第2部 21世紀鷹峯フォーラム 石川・金沢　成果共有

「百万石ものがたり工芸の祭典、21世紀鷹峯フォーラム第三回in石川金沢」の連携参加機関から、100年後に残る工芸のために、このような成果を得た、というご報告をいただきました。

石川県

河原康弘［県民文化スポーツ部局文化振興課企画管理グループリーダー専門員］

会議での発言 石川県では伝統工芸の発信や裾野の拡大に向けたさまざまな事業を一体的に展開する「いしかわの工芸文化魅力発信・向上プログラム」を実施しており、特に今年度は鷹峯フォーラムにあわせて、東京国立近代美術館工芸館名品展、輪島塗、九谷焼、山中漆器の研修所見学ツアー、伝統工芸の制作体験ワークショップ、工芸文化の歴史講座などのイベントを集中的に実施しました。イベントの参加者からは、工芸への高い関心が示され、特に研修所や工芸の産地をめぐるツアーは好評でした。工芸品を購入したいという声も聞かれ、工芸と観光がつながる可能性を感じたところです。同時に、工芸に親しんでもらうために発信していくことの大切さを再認識しました。

専務理事　志甫雅人［公財）石川県デザインセンター事務局長・チーフディレクター］

会議での発言 30年間続けて開催している「国際漆展・石川2017」のご報告をします。今年で11回を迎え、従来通り多くの作品の応募があり、2回の審査を通過した80点の入賞入選作品を、石川県政記念しいのき迎賓館1・2階の4室で展示し、13日間の会期中、のべ1万人強の入場者を得ることができました。2020年に12回目を迎え、よりいっそう充実した内容で進めていきたいと思います。国際ガラス展もトリエンナーレ形式で交互に開催しており、2019年が開催年になります。皆様のご協力をお願いいたします。

前田昌彦［金沢美術工芸大学理事長・学長］

会議での発言 10月4日～11月11日まで、「平成の百工比照と工芸作品の精華」展を鷹峯フォーラムの連携事業として開催しました。「平成の百工比照」資料と本学所蔵の工芸作品を併せて展示し、金工、染織、漆工、陶磁の各分野から計64点を出品しました。また10月7日～9日には「KOGEIフェスタ! 2017」のイベントの一つとして、「KOGEI無料見学ツアーバス」の見学先に加わり、参加者へのギャラリートークを開催しました。多くの皆様に、「平成の百工比照」の事業と存在を知っていただくよい機会になりました。また作品だけでは伝わりにくい素材、技法、工程への興味、つくり手と産地への関心を喚起することができました。

蚊谷八郎［石川県伝統産業振興協議会会長］

会議での発言 石川県内には36の伝統産業があります。九谷焼、加賀友禅、輪島塗・山中漆器、そして金沢箔といった国指定の伝統産業も多くあるなか、当協議会は昭和42年に設立されました。現在は31の会員で構成されています。鷹峯フォーラムでは、11月4日、5日の2日間、しいのき迎賓館しいのき緑地にて「石川県伝統工芸展」を開催し、石川県内19産地130作品の展示、工芸体験を行いました。3000人を超える来訪者があり、石川県の伝統工芸の大きな飛躍につながったと感じます。また、来年2月9日から11日の3日間、石川の伝統的工芸品を一堂に集めた「いしかわ伝統工芸フェア2018」を、東京ドームシティ・プリズムホールで開催します。皆様のご来場をお待ちしております。

福光松太郎［（一社）金沢クラフトビジネス創造機構理事長］

会議での発言 11月24日から今日まで「KOGEI Art Fear 金沢」を開催。国内外の29のギャラリーに集まっていただき、新進気鋭の世界で活躍する150名の作品を展示販売しました。ホテル形式の開催で、美術工芸から現代アートまで幅広く扱うギャラリーが集い（東京9、愛知4、岐阜1、石川4、京都2、大阪3、兵庫2、愛媛1、韓国ソウル3のギャラリーが出店）、1部屋1ギャラリーが展示を行いました。来訪者はルームナンバーを頼りに部屋を巡ります。ギャラリーとは異なる生活空間で作品を展示する効果も期待できて好評でした。400年の歴史ある金沢という街で、鷹峯フォーラムを機に、工芸の分野ではじめてのアートフェアを開催することができました。ホテル形式も日本海側ではじめての試みです。先々金沢という町に国際的な工芸のマーケットができることを期待しつつ、作家、ギャラリー、そして購買層が集う、文化産業的な視点を育んでいきたいと思っています。

新木伊知子［（一社）金沢クラフトビジネス創造機構専務理事／事務局長］

会議での発言 10月7日～9日の「KOGEIフェスタ」は、①工芸の技をシンプルな方法で見ていただく。②その工程を一部皆様に体験してもらう。③使い手になるための場を用意する。という三つを念頭に開催しました。①職人の技を見ていただく「KOGEIシアター」は、本物の技を見ることができる良い機会に恵まれたと、来場者からは好評でした。外国の方々が熱心にご覧になっている姿が印象的でした。②とりわけ「KOGEI体験」は行列ができるほどの人気で、一人で複数の体験メニューを楽しんでいる方も多く見られました。③「工芸マルシェ」には3日間で5万7000人を動員しました。多くの人がお気に入りの工芸品を、つくり手と交流しながら購入していたのが印象的でした。その他、金沢卯辰山工芸工房の「乾漆-KANSHITSU-展」、金沢美術工芸大学の「平成の百工比照と工芸作品の精華」展、宗桂会館の「山川孝次三代の技」の加賀象嵌の展示へ、会期中無料のツアーバスを運行して好評でした。来年もぜひ開催してほしいという声が聞かれました。

浦淳［NPO法人趣都金澤理事長］

会議での発言 文化でまちづくりを行う法人です。「金沢21世紀工芸祭」の報告を致します。NPO法人趣都金澤、金沢青年会議所、金沢アートスペースリンクの三者で実行委員会を立ち上げ、主催は金沢市、文化庁から予算をもらい、去年から続けている事業です。コンセプトは「金沢の工芸を世界に。世界の工芸を金沢へ」。工芸は、食や建築空間、音楽と関わり裾野が広く、多面的な可能性を感じられます。秋元雄史さんと私が監修し、地元のメンバーがディレクションを行っています。今年は「趣膳食彩」「工芸回廊」「金沢みらい茶会」「金沢みらい工芸部」「工芸建築展」「金沢アートスペースリンク」「工芸国際シンポジウム金沢」「KOGEIトーク」という8つのコンテンツを実施しました。「工芸回廊」は、金沢の町中の空き家や町屋に作家とギャラリーが工芸作品を展示する形で、去年からはじまりました。今年は34会場、作家数は100人を超え、来場者は5万人でした。今年スタートの「工芸建築展」は、動産の工芸と不動産の建築を掛け合わせることで、新たな価値が生まれるのではないか。工芸作家と建築家が協力しながら何かできないか、という試みです。11月7日～19日、金沢21世紀美術館の地下スペースで、作品約10点を展示。1万4千人が来場しました。「国際工芸シンポジウム金沢」は、イギリス、スイス、韓国の方々が集い、海外のアートシーンで、国際マーケットに工芸をどう組み込んだらよいのかについて議論し、100人の参加者が集いました。「KOGEIトーク」は秋元さんがモデレーターになり、若い作家3人と、これからの工芸についてトークを行いました。90人の参加者がありました。

宇田直人［NPO法人趣都金澤理事／金沢21世紀工芸祭2017実行委員長］

会議での発言 「金沢21世紀工芸祭」の報告を続けます。「趣膳食彩」は、工芸を食と掛け合わせて、工芸に広く触れ合う機会をつくろうと続いているイベントです。例えば、栗の木を削った我谷盆（昭和40年にダム底に沈み、今は存在しない山中温泉近くの我谷村でつくられた）を、この日のためだけにつくり、肉料理で有名な「トラットリア チカーラ」で食事の提供を受けたあと、器はお土産に持って帰ってもらうイベントです。ほかにも、その日のデザートを出すためだけの器を陶芸家に焼いてもらい、食と器を組み合わせ、お土産に持ち帰るスタイルで趣向を凝らしました。また、食前にヒノキの棒を好みの細さと形に削って箸をつくり、それでご飯を食べる会も催されました。「金沢みらい茶会」では、お茶という場面を通して工芸の可能性を開く試みです。今年100周年を迎えた泉鏡花の『天守物語』を記念した茶会、一般財団法人ユニバーサルデザインいしかわによる目の不自由な方々に向けた茶会、また鷹峯フォーラムにあやかり、本阿弥家の菩提寺である金沢の経王寺で茶会を開きました。また「KUMU金沢」にて、ベルギー人の方に立礼のお茶会を開いてもらいました。「金沢みらい工芸部」は、ワークショップを通して、子どもたちに工芸に親しんでもらう試みです。動物の形をした器に絵付けをしてもらう工芸体験を行いました。大人向けのワークショップとしては、どんな酒器だと美味しいか、お酒を飲みながら器をつくってもらいました。「金沢アートスペースリンク」は、金沢市と近郊に点在するアートスペース30数カ所をつなぐ試みです。以上、8つのコンテンツ、110数のプログラムに、のべ約6万人が参加しました。引き続き来年も頑張っていきたいと思います。

川本敦久［金沢卯辰山工芸工房館長］

会議での発言 当工房は金沢市の施設で、研修を中心に工芸作品の展示も行っています。今年の特別展は、漆芸工房の専門員中心に企画し、「乾漆-KANSHITSU-展」を開催しました（陶芸、漆、染、金工、ガラスの5工房が5年サイクルで担当）。石川県立美術館で開催された東京国立近代美術館工芸館名品展の連携事業として開催することとなり、名品を展示でき、大いなる刺激を受けました。「乾漆」という、これまで展覧会のテーマとしてあまり扱われない漆の技法に取り組むことができました。奈良時代の技法を復元し、制作工程がわかる展示を行い、乾漆技法による表現の多様性を紹介できるよい機会になりました。会場では作品展のほか、出品作家である増村紀一郎先生の記録映画の上映、東京国立近代美術館工芸館の工芸課長の唐澤昌宏氏による作品解説、乾漆技法の実演なども行いました。10月22日には「工房祭」を開催し、期間中1726名が訪れました。鷹峯フォーラムを通じて、オール石川・金沢の町の中に広く開かれた工芸を体感することができ、多様な刺激を受けたことは一つの成果といえるのではないかと思います。

前田真知子［（公財）宗桂会事務局］

「こども工芸ワークショップ　加賀象嵌ってどんなもの? 煮色着色に挑戦」についてご報告します。11月3日、宗桂会館にて、加賀象嵌の色にスポットをあてたワークショップを行いました。小学校2年～中学校2年までの4名が参加。当館は40点ほどの作品を常時展示しており、作品説明ののち自由鑑賞してもらい、作品の色に注目しながら、そのときの発見について記入してもらいました。キーホルダーのベースになる葉型の金属4種類から、その金属が何かを隠したまま、好きなものを選んでもらいました。葉脈部分に銀線をはめ込み、やすりで磨きます。その後、大根おろしで洗って脱脂し、硫酸銅と緑青を混ぜた混合液で煮て、金属の色が変化する様子を観察しました。最後に作品を完成させた後、「いぼた蠟」という天然蠟を塗り色止めし、それぞれが何の金属なのかの種明かしをしました。この煮色着色の様子は、保護者の方々も興味深く鑑賞していました。「金属じゃないみたい」「色が変わって面白かった」「またやってみたい」という意見が聞かれ、加賀象嵌の技法を楽しく学びました。工程の一連の流れを体験することで、子どもたちの興味も深まり、よい機会になったと感じています。

西村松逸［金沢漆芸会会長］

会議での発言 「金沢漆芸会展50回記念　金沢漆工比照　加賀蒔絵からの今」展を、金沢21世紀美術館で11日間開催。作品270点余を展示し、1万4000人の入場者がありました。「前夜祭」「工芸ピクニック」「おとな工芸見分け方講座」「工芸建築展」などにも参加して、工芸というのは日本を読み解くキーワードであるとつづく感じました。金沢漆芸会はつくり手の会です。つくり手の一人として、心に残っているエピソードを二つ紹介したいと思います。一つは池田作美氏という、木工の指物・刳物の名工についてです。後継者の二代目にあたる池田作美氏と仕事場で、先代の優れた仕事ぶりについて話していました。二代目の池田作美氏は、他人の作品を批評せず、自己を主張することのない寡黙な方でした。そんな方が「わしの親は、親ながら立派な人と思う」と呟いていたのが忘れられません。もう一つ、私の祖父も加賀蒔絵の仕事をしており、祖父はいつも木工の名工の市島栄吉氏について、「この人の木地でないと、いいものがつくれんがや」といっていました。私も今の仕事に携わるようになってから、市島栄吉氏に木地を頼みに行きました。その木地の形はややこしく、図面にするのが難しいのですが、市島栄吉氏は、その図面を見るなり仕事場に戻り、少し厚めの紙とナイフ1本を持って、自分の前に座りました。そしてフリーハンドで50～60センチの曲線をザッと切り、「こんでいいがか?」とひとこと言って、切った紙を私の描いた図面の上に置きました。どこをとっても0.5ミリも違わない正確な線が切り取られていました。

岩関禎子［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン専務理事兼事務局長］

会議での発言 CoJでは、21世紀鷹峯フォーラムで横断的に連携してこそ可能になる、さまざまな事業を展開しております。10年先に枯渇が懸念される工芸素材と道具の課題に取り組む「絶滅危惧の素材と道具」プロジェクトも3年目。本年は現在唯一の研磨炭4種の製作者・福井の木戸口武夫氏および、それを使って制作される方々の取材を重ね、ひとつのケースを深掘りしつつ、どういったことが解決策につながるかを、「今起こっていることシンポジウム」で皆様と考える機会をもちました。また、「つくるフォーラム」という、ものづくりを使う側から押し上げるプロジェクトも3年目となり、石川県立美術館で今年の募集と過去の成果を展示しました。違いがわかる消費者を社会に増やすことが、最終的に技術や素材や道具を支えていくことになるのではないかと必要性を感じ、「おとな工芸見分け方講座」を開催しました。また、マイ工芸をもってピクニックして工芸を楽しむ「工芸ピクニック」事業においては、世界中でピクニックの楽しさを展開している「東京ピクニッククラブ」というグループの協力を得て9つの心得をまとめ、この石川大会で正式にローンチしました。10月5日の開幕前夜祭をしいのき迎賓館で開催したとき、この工芸ピクニックスタイル形式で、さまざまな方のご協力をいただきました。また、10月11日は金沢21世紀美術館の芝生の上で、思いっきり魅せるピクニックをしようということで開催しました。プロジェクトに参加された感想を、中村卓生先生からお願いできればと思います。

中村卓夫［陶芸家］

会議での発言 「金沢でピクニックをやろう。人を集って欲しい」といわれ、工芸を持ってピクニックに行こうなんて、絶対断られると思っていたら、意外や意外、「それは面白い!」と皆様にご快諾をいただきました。何が面白いのかといえば、単なるピクニックではなく、競い合うピクニックだからでしょうか。当日、私も参加したのですが、石川県立美術館の嶋崎丞館長、COJの林田英樹先生、それぞれに思い入れのある工芸品を持ち寄りいただき、また老舗料亭のご主人が家族で参加し、いかにも金沢らしいピクニックになりました。こういう面々が揃ったピクニックは意外とスリリングで楽しいもので、やってみなければわからないことでした。次回、チャンスがあれば、ぜひ皆様こぞってご参加

いただければと思います。もう一つ、このピクニック、単に楽しいで終わらせるのではなく、工芸の新しい現場、ここから新しい工芸が生まれるところまで育てていくことはできないだろうか。さきほど思いついたフレーズですが、まったく新しい「観光工芸」というジャンルから、可能性が広がるのではないかと勝手に妄想しております。

坂井基樹［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン常務理事］

会議での発言　連続シンポジウム「グローバリゼーションと工芸」は、10月20日〜22日の3日間、石川県立美術館で開催されました。金沢21世紀美術館特任館長の秋元雄史氏がモデレーターとなり、世界の工芸に携わる方々を招いて、いろいろな視点から議論しました。1日目は「工芸における文化政策・文化発信」、2日目は「美術館とギャラリー」、3日目が「国際展、アートフェア」がテーマです。日本の工芸をいかに理解してもらえるか、実際の現場に携わる方々から意見を伺いました。例えばイギリスのガイ・サルター氏は、ロンドンクラフトウィークのチェアマンを務めています。彼は「クラフト」という言葉に新しい価値を付加し、町をあげてブランド化していく動きを実行しており、刺激のあるお話でした。ボストン美術館の東洋美術の大スペシャリストであるジョー・アール氏も、今、せっかく日本の工芸がブームになっているのに、発信時に「こうでなければいけない」という自己規制の枠をつくってしまい、日本は可能性を狭めているという耳の痛い話もいただき、議論は盛り上がりました。「工芸単語英訳プロジェクト」は、工芸の基本的な単語、今年は陶磁器と漆に関する言葉、約150を、美術館や博物館の研究者だけでなく、国際的な学会の先生、サザビーズなどのオークションハウス、ギャラリーなど、実際にものを説明して売る人、言葉で説明しなければならない人、そして通訳の方々を含めた150人ほどにご協力いただいています。一つの基本的な枠組み、ルールをまとめて、後日ご報告したいと思っております。

山田浩［一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパンクリエイティブ・ディレクター］

会議での発言　「工芸と観光、展望と課題」というタイトルで取り組んだ二つの事業について報告します。一つめは「自治体調査」です。47都道府県から21の回答、伝統産業指定品の産地を擁す150の市町村から66の回答、観光振興、商業振興、文化振興の3部署から21の回答を得ました。工芸を観光コンテンツの一つとして呼び込みたい部署が多い反面、多くのお客さんが工房にやってきた場合の現場の対応、インフラの問題など、立場が違うと抱える課題が異なる現状を把握することができました。それらを前提に11月24日、シンポジウムを行いました。前述の燕三条・工場の祭典を運営する玉川堂の山田立氏に成功例をお話いただき、シャネル、クリスチャンディオール、ウェジウッド日本株式会社のCEOを務めたハンスピーター・カペラー氏に、ブランディングという視点で分析いただきました。そのときに観光庁観光地域振興部観光地域振興課主査・長田将吾氏が日本版DMOの仕組みで強力な支援をいただける話をしてくださいました。分科会では、エピファニーワークス・林口砂里氏、特定非営利活動法人金沢クリエイティブツーリズム推進機構、副理事の水野雅男氏から、現場の苦労話を伺いました。買い手は作品だけでなく、現場のストーリーに耳を傾けると購買欲が湧いてくる。そのためには、工場、工房の訪問も必要。一方で対応に追われることで、作品、サービス、クオリティの低下が起きる。そこでサービスの丸投げが起きる可能性もある。しかし工芸を観光コンテンツとして捉えていきたいという機運はある。そのために、工芸を楽しみ、体験する積極的な動きを、現場と連携して具体的にどう進めたら良いのか、実践側の気づきがこのシンポジウムで生まれたのではないかと思います。

川上明孝［金沢市安江金箔工芸館館長］

会議での発言　当館のホームページの英訳についてお話します。所蔵作品の主だったもの一つひとつに英訳のタイトル、年代、作家名、技法を中心とした解説を掲載しています。ポイントは金箔専門の美術館ですから、金箔の観点から説明する必要があります。見て美しい、素晴らしいことは分かる。分からないのは歴史と技法です。金沢市役所からも、外国からお客さんがたくさん来るのに英文の解説がないとどうしようもない、100万円の予算で、という話を受け、去年の5月からスタートしました。まず日本語できちんとした解説をつくり、英訳しました。英訳のポイントは、担当者は翻訳者と必ずやり取りすること。業者任せの丸投げは禁物。優秀な翻訳者でも、技法については十分理解しないまま訳していることがあります。それをチェックするのは発注者である我々の仕事です。翻訳者と5〜6回やり取りして、約1年ちょっとかけて完成しました。この英訳に携わったおかげで、外国から団体が来ても、直接口頭でも説明できるようになりました。美術館・博物館の関係者が直接、英訳の作業に関わり、スピーカーにもなることが今後は一層大切になると思います。中国、韓国はじめ、他のアジアの地域、フランス語やドイツ語などの多言語化は、今後の大きなテーマです。

黒澤伸［金沢21世紀美術館副館長］

届いたメッセージ　今回の鷹峯フォーラムにおいて、関係する数多くの機関がつながり、本当にたくさんのイベントが開催されたことにあらためて驚き、また、感心しています。さまざまな関係者が一堂に会し、共に見合う、情報交換する、考える、アクションを起こす、あるいは連携する…このような機会を持てることの意義を再確認させていただきました。意識やマインドの変化は、こうしたことの積み重ねを通して確実に進むことと思います。昨今、社会的な課題を解決していくためのキーワードとして、「コレクティブ・インパクト」すなわち集合することのインパクト、や、「ソーシャル・キャピタル」すなわち人間関係資本という言葉が注目されているようですが、今回のフォーラムはまさしく未来へ向けてのそうしたフレームワークそのものであると思いました。そもそも人の手を介した丁寧なものづくりや、またそれらを身近に扱いながら丁寧な生活していく文化土壌はこの地、金沢には永く息づいてきているものです。ですが、それがあまりにも自然であるために、普段、あえて振り返ることなく過ごしていたかもしれません。しかしながら今回のように現在の、それぞれの、さまざまな成果に出会う機会を得ることで、身近に感じながらも考えてこなかった、もしくは知らなかった、ともすれば気づくことのなかった「工芸」の別な側面…例えば他の分野との親密な関連や国際性といったもの、あるいはシンプルに新しさや、さらに言って良ければ「斬新さ」ということまでを発見することができたように思います。「今や次元が変わりつつある…少なくともその準備はできている」という実感を持ちました。工芸の課題というのは、言うなれば私たちが、どのように生活していくのか、という、まさにそこにあるものでしょう。100年後を意識しつつ、今をどう生活していくのかということは、むしろとてもライブな感覚を「いま・ここ・現在」にもたらしてくれる、ワクワクする、楽しい課題であります。実は、同じ想いを持った先人たちが少なからずいたはずだ…と、今更のように思い出されます。今回のフォーラムは私にとって、そうした意味であらためて過去と未来に意識と想いを拡げることのできるとてもよい機会となりました。ありがとうございました。

谷口出［石川県立美術館第一学芸課長］

会議での発言　鷹峯フォーラムの中核館として多くの事業を実施しました。詳細はガイドブックをご覧いただくとして、ここでは展覧会「百工比照」を紹介したいと思います。加賀藩五代藩主・前田綱紀の博物学的労作『百工比照』と、平成の百工比照を両方合わせて展示することで、伝統と現代を感じ取っていただけるよい企画になったと自負しております。秋には集中的に8つの展覧会を行いました。とりわけ「東京国立近代美術館工芸館名品展　陶芸の名作」展は、石川県で見ることができない作品も数多く展示され、新たな試みとなりました。教育活動については、講演会、子ども向けワークショプ、0歳からのファミリー鑑賞会を、工芸分野を対象に行いました。今回参加してくれた、生後3カ月の赤ちゃんから6才の子どもたちが、100年後、もしかしたらこの世にいて、何かを伝えてくれるかもしれない。作品を見て手足をバタバタさせている風景に、子ども達の未来や可能性を感じました。また、所蔵する美術品を茶道具に見立ててお茶会を行いました。人間国宝、芸術院会員を含む48の美術品を扱い、3日間で各3席それぞれ16人という限定でしたが、ガイドブックに掲載されただけで多くの問い合わせがあり、すぐに席が埋まりました。数々の講演会、シンポジウムも行いましたが、石川県在住の人間国宝、芸術院会員、10人すべての方々にお集まりいただき、ご自身の考える工芸観についてお話いただきました。こちらも鷹峯フォーラムに合わせてできた、最初にして最後のシンポジウムになるのではないかと思います。美術館としては、鷹峯フォーラムの期間中、昨年に比べて16パーセント、入場者が増えました。

ファシリテーター・塩瀬隆之氏による進行のもと、回答の共有が行われました。

壱の問い

会場への問い

「ご自分の地域、もしくはご自分がかかわる土地の工芸を、第三者にひとことでPRしてください」（用紙に記入）**についての回答の共有**

塩瀬　九谷焼の説明として、「美しい色彩、模様、絵で彩られたやきものです。飾っても、使っても、楽しめます」と書いていただきました。この文章で、九谷焼をご存知の方は、姿が思い浮かぶことと思います。しかしこの文面で「九谷焼」の文字を隠してみた場合、外国の方が求めている九谷焼までたどりつけるのかどうかが課題になると思います。

塩瀬　「自然素材をもとに、漆や木材を大切に使った、ぬくもりある器。使い勝手もよいのが輪島塗です」と回答いただきました。同じように「輪島塗」の文字を隠してみると、これまた輪島塗にたどりつけるのかどうか。別の産地の器でも、同じ説明文がつけられそうです。外国語に訳したとき、「使い勝手がよい」というフレーズは、一つのものを特定できるユニークな特徴になるのかどうかについて、考える必要がありそうです。

塩瀬　加賀象嵌についてのPRです。「金属に別の金属をはめ込んで、文様をつくる技法です。文様が外れなく、表面がツルツル、金沢や京都にも技法が残っています。現代ではアクセサリーなどにも使われています」。前の二つに比べると、具体的に書いてあります。しかし知らない人が読むと、金属に金属をはめ込むとは、何を想像すればよいのか、悩むと思います。そこに足を運んで、手に取ってみたいと感じるような言葉、PR表現はどのようなものかを、探す必要がありそうです。

塩瀬　ハンスピーター・カペラー氏が書いてくださったものです。翻訳を大切にしたいのか、ブランドネームとしてアピールしたいのか。ものと言葉と入れ替える正確な翻訳なのか。もしくは伝えたい「輪島塗」像、「九谷焼」像を言葉に盛り込むのか。英訳以前に、日本語でも言語化できていないようです。このもどかしさ、悩ましさを共有したいと思います。

参の問い

会場への問い

「この3年間、工芸に関わるさまざまな人がジャンルを超えて横断的な議論を進めてきました。英語化の協力や工房見学の相場観以外にも、さらに取り組むべきであると思われる課題や実践できることを挙げてください」（用紙に記入）**についての回答の共有**

塩瀬　「ハッカソン的取り組みを『地方』『ALL JAPAN』で行ってはどうか?」というご意見をいただきました。ハッカソンというのは、マラソンとハッキングを合わせた言葉で、1〜2日、いろんな分野の人が集い、アイデアを出し合い、革新的な糸口を見つけるため手法です。

塩瀬　「工芸を産業として残していくものか。文化として残すべきなのか。線引きが難しい」という意見もいただいています。担い手たちの意見も分かれるだろうし、自治体の行政区で管轄が変わり、いろいろな事情や思惑が渦巻いています。

塩瀬　「美術館の中でも、来訪者に対して説明ができる人材を育成すべき」という意見がありました。学芸員の定義として仕事に「観光」は含まれていません。しかし期待されているのも事実です。自分たちが守り大切にしてきたものを、届けたい気持ちは変わらないはず。つくり手自身がその言葉をもち得なかったとき、誰かに助けてほしい場合、人材が必要であれば、それを用意するのも自治体や地域の課題です。人材育成には予算がかかり、育てた人の仕事も用意しなければならず、仕事をつくるには観光の活性化が求められます。その土地は本当にどうしたいのか。工芸品を売りたいのか。工芸のある町として観光資源化したいのか。一緒に考える必要がありそうです。

塩瀬　最後の回答です。「クオリティを見分けるまなざしが、受け手にとっても必要」とあります。工芸や技術が生まれた必然。その土地ならではの品々。なぜここに、このような形で守られているのかについて思いを馳せる必要があります。

花村周寛［ランドスケープデザイナー／大阪府立大学准教授／バルセロナ大学客員研究員］

会議での発言　日本では観光客誘致をいかに促進させるかが問題になっていますが、欧州では逆の状況も見受けられます。つまり観光客が来すぎて、いかに抑制するかという問題です。私が現在住んでいるバルセロナでは、住民が160万人の都市に年間3200万人、つまり市民の20倍の観光客が来る状況です。人気の施設では人だらけで待ち時間が長時間に及び、工芸についても質の悪い土産物が街には溢れています。それだけでなく、日帰りで来たお金のない若者が騒いで帰るだけで地域にお金が落ちないチープエコノミーの問題や、観光産業がシーズンの一時的な雇用しか生み出さないという状況も見られます。観光によって地価がどんどん上がり、地域住民も追い出されるジェントリフィケーションの問題も深刻化してきています。まさにそうした観光がもたらす負の状況のことを私は「観光災害」と名付けていますが、今後日本もそういった問題に直面していく可能性は大いにあるでしょう。長い目で見たときに、誰のための工芸や観光なのかを真剣に考え、観光客や地域自身が向ける“まなざし”を変える必要があるのではないかと考えています。次の三つのようなまなざしが必要なのかもしれません。

1. クオリティを見分けるまなざし。地元の優れた工芸品を見分ける

眼差しを備えていないから、安い土産物を買って帰ることになる。工芸を開いて技術やプロセスを見せる「クリエイティブツーリズム」で、観光客の目利きを育てていく。

2. 工芸や技術の生まれた必然性を見るまなざし。伝統的な工芸は、その当時の必然性や地域の風土の中から生まれてきた。その必然性にこそまなざしを向けるべき。表現や技術は、当時の社会背景や自然環境の中で切実に応答することでその技術や表現が生まれたはずである。そこを見抜く必要がある。

3. 生活全体を包括的に捉えるまなざし。工芸やプロダクトは作品だけを切り取ると、今の時代の必然性から切り離され単なるオブジェになってしまう。使われる文脈、頻度、所作、関係性を有機的に捉えることで、今の生活にとって本当に必要なものとは何かをトータルに見ていく必要がある。ノスタルジーではなく現代のリアリティ、全体性の中で工芸を捉えたい。

塩瀬　鷹峯フォーラムを3年続けてきて、最後に「工芸と観光」とうテーマを設定しました。工芸は、歴史と伝統の中で存在しているので、もし一瞬でも間違えて途絶えてしまうと、取り返しのつかないことになります。連続性の中で受け継ぐのが本当の伝統で、ここは慎重に向き合う時期だと思います。足を運んで見たい文化が残されている土地は素晴らしい。その素晴らしさを、焦らずにゆっくり、ちゃんと届けていくことが、工芸と産業を結びつけるうえで大切だと思います。

会場への問い

「このあと発表される3年間の集大成としての「100年後（のち）に残る工芸のために」提言、今後、前向きに向き合っていくことが大事だ。期待している?」（Yes／No）

塩瀬　3年間、議論してきたことは、これがゴールではなくはじまりとなります。「100年後に残る工芸のために」提言を皆様で迎えたいと思います。

嶋崎丞氏［「100年後に残る工芸のために」普及啓発実行委員会会長／石川県立美術館館長］から、「石川・金沢提言」の発表がなされました。

会議での発言　昨夜、議論して提言をまとめました。本日の議論は反映されておりませんので、追記したいと思います。

林田英樹氏［オールジャパン連携 京都 東京 金沢 実行委員会委員長／一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン代表理事］から、「より広範なオールジャパン工芸連携、そして世界へ向けて」と題し、閉幕の挨拶がありました。

会議での発言　鷹峯フォーラムは4年前に発想し、3年間かけて無我夢中で取り組み、予想以上の成果をあげることができました。石川・金沢でも多くの方に協力いただき、関係事業60、関連事業164を実施していただきました。中核館を引き受けてくださった石川県立美術館の特別なご尽力、感謝に堪えません。今回、石川・金沢が「工芸王国」といわれる所以がよく理解できました。私たちの課題や悩みに対して、多くの人が積極的にお答えいただき、連携の輪も広がりました。文化庁からは3カ所の活動に対して大きな支援を賜り、石川県、金沢市、企業メセナ協議会からも支援を頂戴いたしました。県民の皆様に知っていただく機会を与えてくださった北國新聞、ご協賛くださいました各社の方々にも感謝申し上げます。観光庁からもご参加をいただき、連携の輪が拡大しています。当初、3か所を目標に事業を遂行することを目的としてきました。今回で一区切りですが、この度の連携をきっかけに、これまでの活動の中で浮き彫りになった課題にどう対応するか、問題を整理し、日本の工芸が100年のちに輝いているために、課題の解決に向けて活動したいと思います。長きにわたりご協力いただきましたこと、本当に感謝しております。重ねてお礼申し上げます。

石川・金沢提言

11月26日

21世紀鷹峯フォーラムは、第1回を京都で、第2回を東京で、第3回は石川・金沢で開催し、危うい状態になっている日本の工芸が100年後に残るようにするための取り組みを進めてきました。

美術館・博物館や教育機関、研究機関、産業界、つくり手、つなぎ手、街づくり組織の間でこれまでに例のないほどの幅広い連携・協力を築きあげることができました。このような連携は、関係省庁や地方公共団体にも広がってきました。

このフォーラムのシリーズは一区切りになりますが、同様な事業が各地で行われていくことを期待し、今後はこれまでに築かれた連携を最大限に生かしながら、浮き彫りになった課題について具体的な行動を進めて参りましょう。

ここに今後重点的に取り組むべき課題について、3つの提言をいたします。

一つ

工芸の魅力を「伝える」技術を磨くことが、いま求められています。日本人にも海外の方にも正しく「伝わる」ために特徴や技術をわかりやすい言葉で語ること、特に海外の方を混乱させない翻訳の共通ルールづくりを急がねばなりません。またそれぞれの地域固有の文化を語ることができる人、つくり手の立場を代弁しながら価値をつたえ案内できる人材を育成してゆきましょう。

一つ

工芸を使う楽しさを体感できる機会を多く作り、一人ひとりが現代生活の中で自分の「いっぴん」を楽しむ気運を高められるように努めていきましょう。工芸についての対話が拡がることが、つくり手の刺激となり、新しい工芸品が生まれる可能性を拓きます。

一つ

数年後に枯渇が懸念される素材や道具の確保、後継者の育成と製法の伝承については、個別の地域や産業の課題ではなく、全国的な連携が必要です。つくり手のみならず、つなぎ手、使い手も、教育機関も、多くの人がよき素材や技術に関心をもち、厳しい目をもち、よい素材に高い評価を行うことが、工芸素材や道具の生産者への応援にもつながります。また、行政機関、民間、個人それぞれが連携し、どう対処してゆくかの具体的な打開策を急ぎ整えていきましょう。

広報用ツール制作物

ガイドブック（A5、126頁）

パンフレット（A3、ニツ折）

「グローバリゼーションと工芸」案内パンフレット（A3、ニツ折）

「工芸と観光」案内パンフレット（A3、ニツ折）、
英語版（A3、ニツ折）、チラシ（A4）

カレンダー（A3、ニツ折）

全エリアガイドマップ（B2、16頁折り）、英語版（B2）

メッセージビデオ「工芸と話そう」（2分00秒）

工芸ピクニック案内状

前夜祭・オープニング招待状

「工芸と観光」円卓会議案内状

「工芸と観光」円卓会議英語版案内状

茶道シンポジウム案内パンフレット（A4）

ポスター（A2）

ポスター（B2）

「工芸と観光」円卓会議案内状 封筒

新聞広告（北國新聞朝刊、11月23日掲載）

ガイドブック、ガイドマップ配布用台

掲載記事

マイ工芸でピクニック

21世紀 鷹峯フォーラム

きょう開幕へ前夜祭

「野外弁当」の文化復活へ 椀や杯 使い褒め合う

北國新聞（2017年10月6日）

食事楽しみ工芸談議

21世紀 鷹峯フォーラム

21美でピクニック

北國新聞（2017年10月12日）

金沢は薄く、輪島は厚く

21世紀 鷹峯フォーラム

工作キット教材 最高賞

北國新聞（2017年11月17日）

新美術新聞（2017年7月21日）

工芸観光 マナー確立を

生業と共存必要

21世紀 鷹峯フォーラム

円卓会議

北國新聞（2017年11月27日）

漆芸用の炭、生産者減る

工芸道具「絶滅」を懸念

県立美術館でシンポジウム

「生活できる収入必要」

21世紀 鷹峯フォーラム

工芸作品で茶箱

共同制作者募る

北國新聞（2017年11月18日）

文化勲章、芸術院会員、人間国宝の10氏

「生きた証し残す」

工芸観 熱く語る

21世紀 鷹峯フォーラム

北國新聞（2017年11月24日）

美術の窓（2017年11月号）

北國新聞（2017年10月13日）

新美術新聞（2017年11月1日）

CONFORT（2018年2月号）

北陸中日新聞（2017年10月22日）

読売新聞（2017年12月25日）

参加・来場者数一覧

主催	イベント名	参加・来場者数
石川県立美術館	百工比照Ⅰ／百工比照Ⅱ	15,929人
	石川の文化財	7,496人
	高橋介州と加賀象嵌のあゆみ	7,496人
	加賀蒔絵の世界	8,429人
	東京国立近代美術館工芸館名品展　陶磁いろいろ	8,429人
石川県立伝統産業工芸館	Small Things 小さきもの（掌サイズの生活工芸）	32,003人
金沢学院大学	工芸連続セミナー ―石川の漆工と陶磁―	87人
金沢卯辰山工芸工房	平成29年度特別展 乾漆 -KANSHITSU- 展	1,393人
	工房祭	333人
公財）石川県デザインセンター	国際漆展・石川 2017	10,400人
	第44回石川県デザイン展	4,741人
石川県伝統産業振興協議会	石川県伝統工芸展 in しいのき緑地	3,050人
一社）金沢クラフトビジネス創造機構	KOGEI フェスタ!	70,764人
北國新聞社	金沢城・兼六園大茶会	約5,500人
	金沢城・兼六園大茶会 特別茶会	約150人
	金澤きもの小町	約800人
	ビエンナーレいしかわ秋の芸術祭	
	県民茶会	約1,200人
大樋美術館・大樋長左衛門窯	特別展 大樋焼歴代と ゆかりの人々展	3,797人
NPO法人趣都金澤	金沢21世紀工芸祭	
	趣膳食彩	155人
	金沢みらい茶会	342人
	国際工芸シンポジウム金沢 工芸の過去・現在・未来	120人
	工芸回廊	49,696人
	「工芸建築」展	14,075人
	金沢みらい工芸部	206人
	KOGEIトーク 技術か? コンセプトか? 若手工芸作家と語る工芸の最前線	85人
	金沢アートスペースリンク	8,714人
	KOGEI Art Fair Kanazawa 2017	1,434人
金沢市	きものが 似合うまち・金沢	5,467人
石川県	いしかわの工芸文化体験・鑑賞推進事業	
	技術研修所見学ツアー	54人
	伝統工芸制作体験ワークショップ	49人
	工芸文化の歴史講座「三代利常と文化政策」	44人
	講演会「石川の伝統工芸と伝統文化（仮称）」	158人
石川県文化財保存修復工房	第1回修復工房セミナー「文化財を守る―漆工芸品の保存と修復― 」	41人
金沢市立中村記念美術館	企画展 工芸セレクションⅠ お茶碗と棗	6,538人
	伝統工芸創作人形展（金沢）―日本工芸会会員による―	3,037人
金沢市立安江金箔工芸館	秋季所蔵作品展　金箔と日本美術	7,928人
	展示会 「文化財建造物に使用された金箔に関する保存修復科学的な調査研究」	約2,000人
	金箔フォーラム「文化財保存と金箔産業」	75人
金沢市民芸術村　アート工房	アートな仕事ークvol.4 漆芸家 更谷富造	
	トークイベント	76人
	展示	286人
金沢湯涌創作の森	金沢湯涌創作の森 わくわく工芸体験	15人
宗桂会館	企画展 山川孝次三代の技	218人
金沢市工芸協会	金沢市工芸協会展	180人
一社）芸術支援・地方創造機構	第3回工芸とアートの金沢オークション	
	プレビュー展示	約350人
	オークション	約130人
第64回日本伝統工芸展金沢展実行委員会	第64回日本伝統工芸展金沢展	7,332人
金沢漆芸会	金沢漆芸会展50回記念金沢漆工比照 加賀蒔絵からの今	13,683人
めいてつ・エムザ	おかげさまで70周年 めいてつ・エムザ 伝統工芸特別展 ～日本工芸会 石川支部 正会員による～	555人
	富永和雅・かずよ 染織展	約200人
	金沢城・兼六園大茶会出品作品展	約1,000人
	上端伸也 作陶展 販売・展覧会	約800人
	竹林和美（泥と藍）& 春木弘（とんぼ玉）作品展 販売・展覧会	約500人
	大浦陶窯 武末日臣 作陶展	約500人
	茶道具逸品展	約100人
DAIWA香林坊店	第25回 漆光会展	408人
ArtShop 月映	月映セレクト展	103人
	森・神秘・Art 古き社のかたわらに語りかけるカタチ	150人
	藪内公美展「story of ...」	100人
台湾・金沢現代織物芸術交流展開催委員会	テキスタイルアートへのいざない ～台湾・金沢現代織物芸術交流展～	7,444人
金沢九谷ミュウジアム	江戸から平成の九谷ミュウジアム	5,000人以上
金属工芸　加澤美照工房	やってみまっし! 加賀象嵌	11人
セレクトショップGIO	木村ふみティーサロン 「秋の夜長のテーブル～真・行・草のしつらえ～」	20～30人
（株）谷庄	金美特別展	約1,000人
（株）能作	蒔絵体験	10人
（株）A.SPACE	加賀指物を知る	4人
KANAZAWA LIFESTYLESHOP COMMUNITY（KLC）	友禅ストール展	672人
	飾る工芸展	150人
和傘・水引 工房明兎	和傘のある風景を金沢に・・・	約1,000人
小松市立博物館	第21回小松市民茶会	621人
小松市立本陣記念美術館	企画展　艶と煌きの美 漆工と金工の技	491人
石川県九谷焼美術館	魯山人と初代須田菁華展	9,582人
能美市九谷焼資料館	開館35周年記念特別企画展 世界を魅了した九谷磁器「鳥を描く」展	3,378人
石川県立山中漆器産業技術センター 石川県挽物轆轤技術研修所	Japan（漆）Yamanaka2017	約500人
加賀 伝統工芸村 ゆのくにの森	金箔まつり	13,000人
石川県九谷焼技術研修所	ハレの日の九谷	1,135人
石川県七尾美術館	所蔵品にみる いしかわの工芸	1,318人
石川県輪島漆芸美術館	没後50年記念　竹園自耕 ―蒔絵と図案―	6,107人
	国際漆展・石川 2017 輪島展	3,383人
石川県立輪島漆芸技術研修所	50年のあゆみ展	416人
	輪島漆芸技術研修所・香川県漆芸研究所 合同作品展	1,703人
一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン	工芸ピクニック	約200人
	シンポジウム「茶道から学ぶていねいな暮らし」	約80人
101年後の工芸のために普及啓発実行委員会／オールジャパン工芸連携京都/東京/石川金沢実行委員会／一社）ザ・クリエイション・オブ・ジャパン	連続シンポジウム「グローバリゼーションと工芸」	
	第1部：工芸における文化政策、文化発信―工芸という 地域資源を国際的なフィールドで評価、価値付ける―	約100人
	第2部：美術館とギャラリー ―工芸的な価値を創造・発信する―	約130人
	第3部：国際展、アートフェア ―工芸の価値と流通の新たなプラットホーム―	約100人
	おとな工芸見分け方講座 茶の湯に見る漆 見どころ・誉めどころ・極めどころ	約30人
	つくるフォーラム 成果の発表＋「求め手」による 「つくり手募集」プレゼンテーション	約40人
	絶滅危惧の素材と道具 いま起こっていることシンポジウム	約50人
	「工芸と観光」展望と課題	
	シンポジウム	約50人
	マッチング交流会・出展者ライトニングトーク	約50人
	100年後に残る工芸のために「工芸と観光」国際会議	約160人

21世紀鷹峯フォーラム 実施費用収支

21世紀鷹峯フォーラム（11/23まで）	
収入の部	
文化庁　平成29年度「地域の核となる美術館・歴史博物館」支援事業	¥44,077,945
実行委員会協力費	¥300,000
2021ArtsFund　企業メセナ協議会	¥0
ガイドブック広告	¥2,000,000
実行委員会負担額	¥2,051,289
小計	¥48,429,234

支出の部	
謝礼金・出演料・アーティストフィー・キャスト費など（作品制作費・文芸費・シナリオ作成費）	¥5,904,340
会場費・設営費など（付帯設備費・機材費・美術費）	¥4,532,461
旅費・滞在費・作品運搬費など	¥10,025,821
広報宣伝費・記録制作費など（デザイン料・印刷費）	¥19,610,923
制作・マネジメント・スタッフ人件費など（委託料）	¥7,890,117
通信費など諸雑費	¥465,572
小計	¥48,429,234

21世紀鷹峯フォーラム（11/24～26 工芸と観光国際会議）	
収入の部	
石川県・金沢市コンベンション誘致補助金	¥5,700,000
参加費収入	¥14,000
実行委員会負担額	¥41,891
小計	¥5,755,891

支出の部	
謝礼金・出演料・アーティストフィー・キャスト費など（作品制作費・文芸費・シナリオ作成費）	¥373,600
会場費・設営費など（付帯設備費・機材費・美術費）	¥2,726,420
旅費・滞在費・作品運搬費など	¥1,883,079
広報宣伝費・記録制作費など（デザイン料・印刷費）	¥66,812
制作・マネジメント・スタッフ人件費など（委託料）	¥705,980
小計	¥5,755,891

21世紀鷹峯フォーラム in 石川・金沢のイメージについて

石川県立美術館の所蔵する、石川県の代表的な工芸品をモチーフにしています。

1. 色絵金彩海龍図遊環花瓶（春名繁春、1879年頃）、**2.** 絵花鳥文菱形小皿（古九谷、17世紀）、**3.** 飴釉鳥香炉（初代大樋長左衛門、17世紀）、**4.** 福寿海尾垂釜（初代宮崎寒雉、17～18世紀）、**5.** 蒔絵和漢両景図硯箱（五十嵐様式、17世紀）、**6.** 蒔絵和歌の浦図見台（伝清水九兵衛、17世紀）、**7.** 色蒔絵猿兎網引図印籠（二代米田孫六、19世紀）、**8.** 茶萌黄白段中格子桐丸紋鶴菱文厚板（19世紀）、**9.** 染付金襴手片身替鉢（永楽和全、19世紀）、**10.** 色絵草花文四方徳利（若杉窯、19世紀）、**11.** 色絵花鳥図九角平鉢（古九谷、17世紀）、**12.** 色絵桔梗花文木葉形向付（吉田屋窯、19世紀）、**13.** 蒔絵梅鉢紋女儀御輿（伝加賀藩細工所、18世紀）、**14.** 色絵石畳双鳳文平鉢（古九谷、17世紀）、**15.** 銀象嵌水車文鐙（銘加州住勝國作、1681年）、**16.** 桃色地山道文摺箔（1812年）、**17.** 色絵山水図卓（粟生屋源右衛門、19世紀）、**18.** 赤絵琴棋書画図瓢形大徳利（宮本屋窯、19世紀）

「100年後に残る工芸のために」普及啓発事業
21世紀鷹峯フォーラム in石川･金沢「百万石ものがたり 工芸の祭典」 記録集

発行　石川県立美術館

編集　坂井基樹、坂本のどか、田中真利、江原亜弥、［坂井編集企画事務所］
市川浩人、清水早苗、坂下有紀、佐藤恵美、瀬沼裕子、鈴木晶子、永澤浩子、永峰美佳、深澤まどか、藤本弥生

デザイン　松田行正＋梶原結実

本扉イラスト　山村ヒデト

地図　河合理佳

写真　大隅圭介、大木賢、大川裕弘

発行日　2018年3月30日

お問い合わせ
100年後の工芸のために 普及啓発実行委員会
石川県立美術館
〒920-0963 石川県金沢市出羽町2-1
TEL：076-231-7580　FAX：076-224-9550　MAIL：ishibi@pref.ishikawa.lg.jp

オールジャパン工芸連携 京都／東京／石川金沢実行委員会
事務局：一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン
〒104-0061 東京都中央区銀座5-3-12 壹番館3階
TEL：03-3573-3339　FAX：03-3573-3315　MAIL：info@takagamine.jp

http://takagamine.jp/